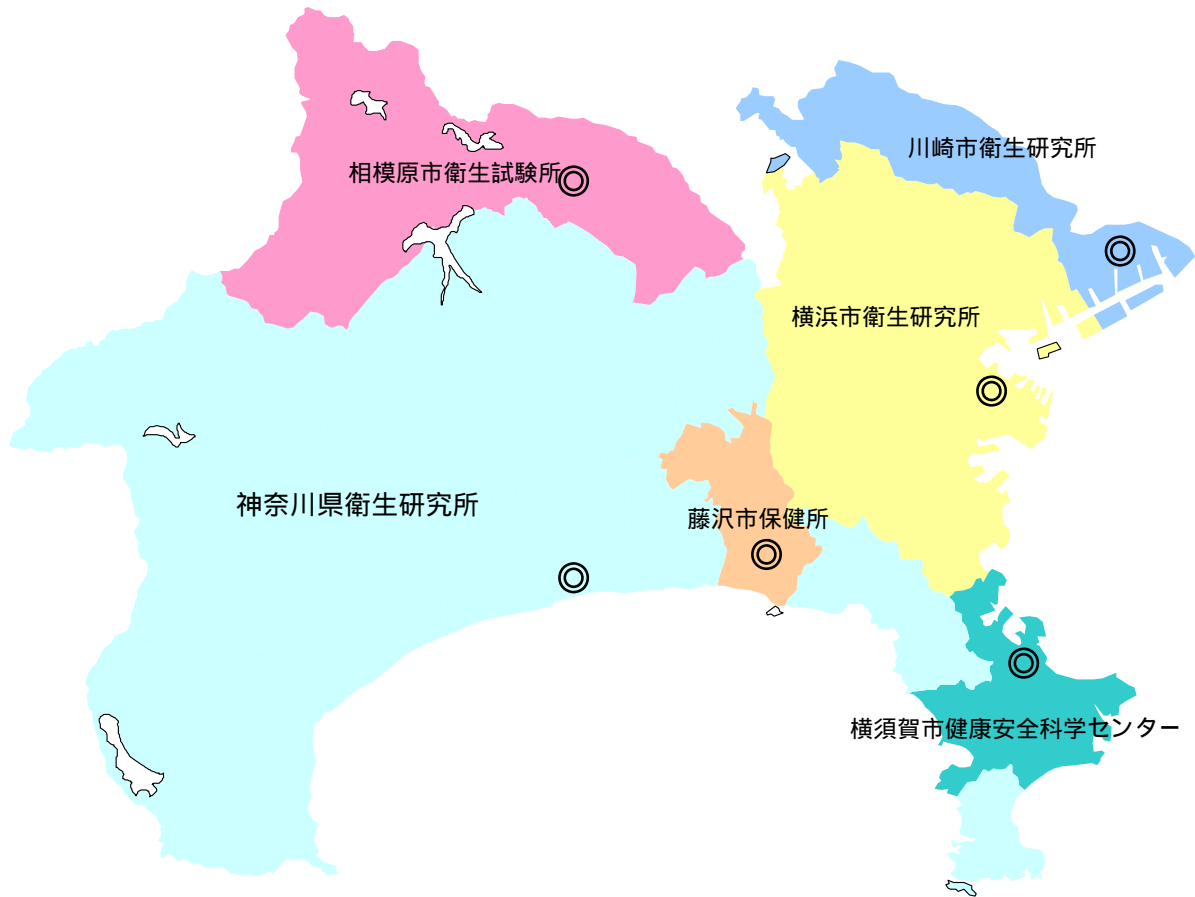


平成 23 年

神奈川県感染症

- PART 平成 23 年神奈川県感染症発生動向調査の概要
PART 平成 23 年地域における感染症発生状況の概要



はじめに

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災により、亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された地域の皆さま、その家族の方々に心よりお見舞い申し上げます。

今回の災害により、感染症発生動向調査を含む災害時の感染症対策の重要性がより認識されるようになりました。また、高病原性鳥インフルエンザ（H5N1）や新たな感染症への対応、バイオテロ対策など、感染症への健康危機管理体制の充実が一層求められています。

神奈川県衛生研究所では、こうした状況のなかで感染症発生動向調査事業を中心とした情報収集や原因究明のための検査、今後の感染症対策に向けた研究とともにホームページやパンフレット等による情報発信や研修など、感染症対策のさらなる充実にむけて日々取り組んでおります。

『神奈川県の感染症』は、神奈川県衛生研究所、横浜市衛生研究所、川崎市衛生研究所、相模原市衛生試験所、横須賀市健康安全科学センター、藤沢市保健所が協力し、神奈川県における感染症発生動向調査、微生物検出情報、関連調査及び研究報告等を、感染症発生動向調査の概要を中心とした P A R T Ⅰ、地域における感染症発生状況の概要を中心とした P A R T Ⅱ に分けて収録いたしました。感染症対策の参考にして頂ければ幸いです。

最後に、『神奈川県の感染症』の作成に当たり、関係機関の方々から、貴重な研究資料をご提供いただきましたことに厚くお礼申し上げます。

平成 24 年 3 月

神奈川県衛生研究所長

岡 部 英 男

目 次

< PART > 平成 23 年神奈川県感染症発生動向調査の概要

感染症発生動向調査

1 全数把握対象疾患	1
2 定点把握の対象疾患	
(1) 定点	4
(2) 週報対象疾患	5
(3) 月報対象疾患	14
3 トピックス	
< 神奈川県の HIV/エイズの概要 >	18
【資料】	
資料 1 平成 23 年全数把握対象の感染症 保健所別報告数	19

< PART > 平成 23 年地域における感染症発生状況の概要

病原微生物検出状況（資料編）

1 ウイルス検出概況	20
2 病原細菌検出概況	21
3 ウイルス等の検出状況表（ヒト由来）	22
4 病原細菌検出状況表（ヒト由来、月別）	33

地域における感染症発生状況の分析

1 ウイルス性感染症	
(1) インフルエンザ	
神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）の インフルエンザの動向（神奈川県衛生研究所）	38
横浜市のインフルエンザの動向（横浜市衛生研究所）	39
川崎市のインフルエンザの動向（川崎市衛生研究所）	43
インフルエンザ感受性調査（神奈川県衛生研究所）	45
(2) HIV/エイズ	
神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）における HIV 検査の実施状況（神奈川県衛生研究所）	47
藤沢市における HIV 即日検査の実施状況（藤沢市保健所）	50
(3) ウイルス性感染性胃腸炎	
(3) -1	
神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の感染性胃腸炎患者	

からの原因ウイルス検出状況（神奈川県衛生研究所）	50
(3)-2	
神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の ウイルスによる集団胃腸炎の検査結果（神奈川県衛生研究所）	52
横浜市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果（横浜市衛生研究所）	52
川崎市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果（川崎市衛生研究所）	56
相模原市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果（相模原市衛生試験所）	56
横須賀市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果（横須賀市健康安全科学センター）	56
藤沢市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果（藤沢市保健所）	57
(4) 手足口病、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱	
神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の検出状況	57
川崎市の検出状況	58
(5) 蚊媒介感染症	
横浜市のウエストナイル熱等媒介蚊のサーベイランス（横浜市衛生研究所）	58
川崎市のウエストナイル熱等媒介蚊のサーベイランス（川崎市衛生研究所）	59
横須賀市のウエストナイル熱等媒介蚊のサーベイランス（横須賀市健康安全科学センター）	60
(6) その他のウイルス性感染症	
(6)-1	
神奈川県の日本脳炎感染源調査（神奈川県衛生研究所）	61
(6)-2	
神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）の 麻疹ん疑い患者からの麻疹ウイルス検出状況	61
相模原市の麻疹ウイルス検出状況	62
(6)-3	
神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）の 麻疹ウイルス抗体保有状況（神奈川県衛生研究所）	62
(6)-4	
神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）の 風疹ウイルス抗体保有状況（神奈川県衛生研究所）	63
2 細菌性感染症	
(1) 腸チフス・パラチフス	
神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の チフス菌等のファージ型別結果（神奈川県衛生研究所）	64
横浜市のチフス菌等のファージ型別結果（横浜市衛生研究所）	64

川崎市のチフス菌等のファージ型別結果(川崎市衛生研究所)	64
(2) 細菌性腸管系感染症	
神奈川県(横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)の腸管出血性大腸菌の分離状況(神奈川県衛生研究所)	64
神奈川県(横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)の赤痢菌及びコレラ菌の検出状況(神奈川県衛生研究所)	65
神奈川県(横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)の散発下痢症患者からの病原菌検出状況(神奈川県衛生研究所)	65
川崎市の下痢症患者からの腸管病原菌検出状況(川崎市衛生研究所)	66
相模原市の腸管病原菌検出状況(三類感染症発症者の家族等の病原菌検索)(相模原市衛生試験所)	67
横須賀市の散発下痢症からの腸管系病原菌検出状況(横須賀市健康安全科学センター)	68
藤沢市の腸管病原菌(三類感染症)検出状況(藤沢市保健所)	69
(3) 河川等の環境調査	
川崎市の河川等の環境調査(川崎市衛生研究所)	69
(4) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	
A群溶血レンサ球菌の分離及びT型別成績(神奈川県衛生研究所)	69
川崎市のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎(川崎市衛生研究所)	71
(5) 結核	
神奈川県(横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)のQFT検査結果(神奈川県衛生研究所)	71
横須賀市におけるQFT検査成績(横須賀市健康安全科学センター)	72
(6) 百日咳	
神奈川県(横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)の百日咳検査成績(神奈川県衛生研究所)	72
(7) マイコプラズマ肺炎	
神奈川県(横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)の肺炎マイコプラズマの検出状況(神奈川県衛生研究所)	73
3 その他の感染症	
(1) つつが虫病	
神奈川県(横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)で発生したつつが虫病(神奈川県衛生研究所)	73
【参考資料】 予防接種実施状況	75
感染症関係機関	76

< PART > 平成 23 年神奈川県感染症発生動向調査の概要

(平成 24 年 3 月)

感染症発生動向調査

感染症発生動向調査事業では、平成 10 年 9 月に「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(以下「感染症法」という。)が成立し、平成 11 年 4 月から施行されたことに伴い、感染症の予防とまん延防止の施策を講じるため、感染症の情報を医療機関から収集し、その内容の分析、公表を行っている。

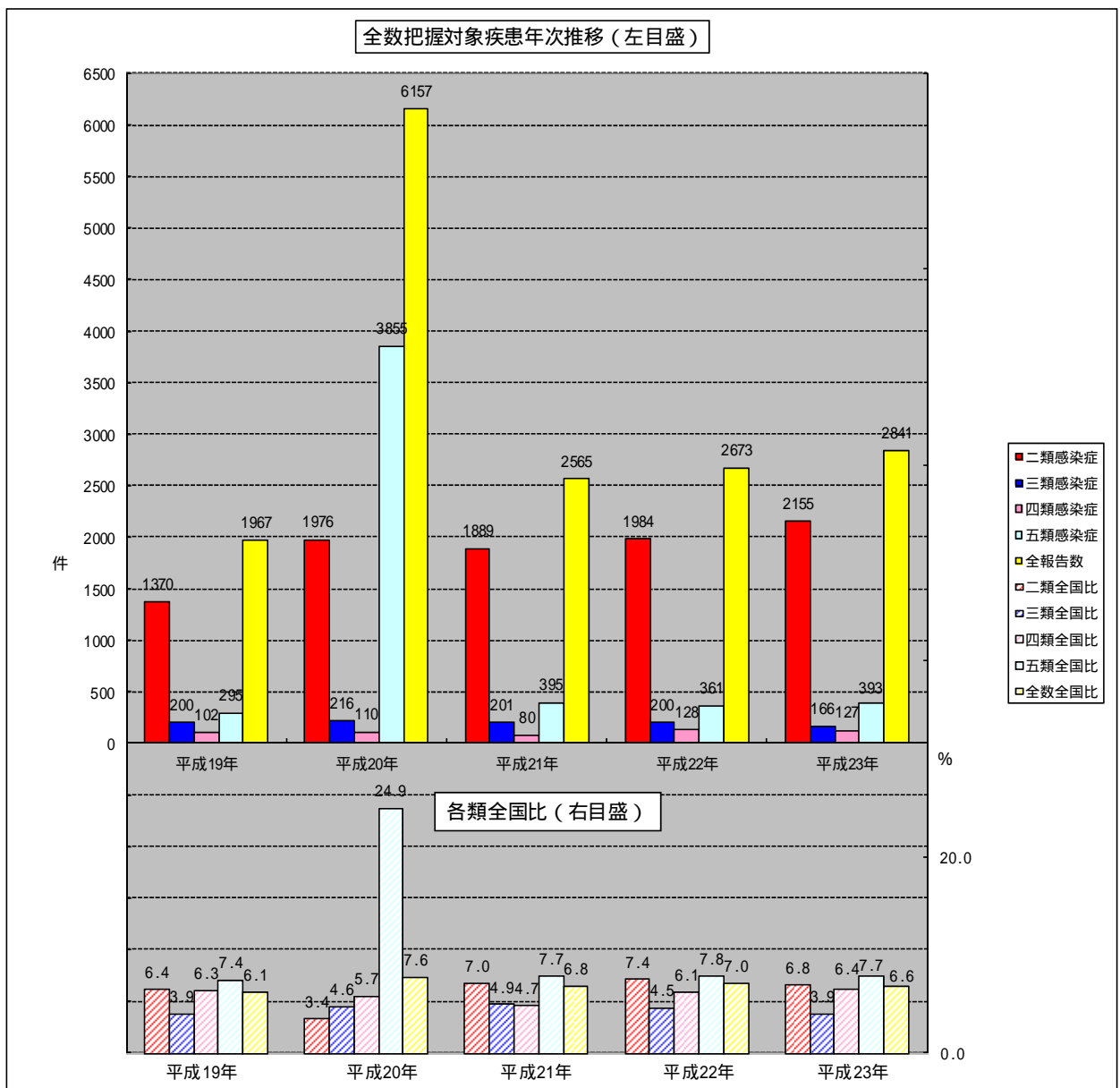
1 全数把握対象疾患

平成 23 年に県内で報告のあった全数把握対象疾患は、2841 件と前年より 168 件増加した。

類別では、二類感染症 2155 件、三類感染症 166 件、四類感染症 127 件、五類感染症 393 件であった。平成 23 年報告総数の全国に占める割合は、前年から減少し 6.6%であった。最も割合の高かった類は五類感染症で 7.7%を占めた。

全数把握対象疾患の年別推移等は、資料 1「平成 23 年全数把握対象感染症保健所別報告数」を参照。

図 1 全数把握対象疾患の推移



《一類感染症》

報告はなかった。

《二類感染症》

結核 2155 件であり、平成 22 年よりも増加した。

《三類感染症》

報告数は、前年よりも 34 件減少して 166 件であった。腸管出血性大腸菌感染症は 132 件で前年よりも 37 件減少した。

表 1 三類感染症報告数（件）

疾患名	平成 19年	平成 20年	平成 21年	平成 22年	平成 23年							全国
	神奈川 県	神奈川 県	神奈川 県	神奈川 県	神奈川 県	(横 浜市)	(川 崎 市)	(相 模 原 市)	(横 須 賀 市)	(藤 沢 市)	神奈川 県 (左を 除く)	
13 コレラ		3	3		3	2					1	12
14 細菌性赤痢	21	29	19	22	29	12	5	3		2	7	299
15 腸管出血性大腸菌感染症	175	173	173	169	132	61	26	8	8	3	26	3938
16 腸チフス	1	7	3	6								21
17 パラチフス	3	4	3	3	2	2						23
合 計	200	216	201	200	166	77	31	11	8	5	34	4293

件数は国立感染症研究所感染症発生動向調査による

擬似症・無症状病原体保有者を含む

《四類感染症》

9 疾患の報告があり、報告数は前年よりも 1 件減少して 127 件であった。最も報告の多かった疾患はレジオネラ症で 64 件、続いて、つつが虫病 29 件であった。

表 2 四類感染症報告数（件）

疾患名	平成 19年	平成 20年	平成 21年	平成 22年	平成 23年							全国
	神奈川 県	神奈川 県	神奈川 県	神奈川 県	神奈川 県	(横 浜市)	(川 崎 市)	(相 模 原 市)	(横 須 賀 市)	(藤 沢 市)	神奈川 県 (左を 除く)	
18 E 型肝炎	3	1	2	1	3		2			1		61
20 A 型肝炎	12	17	7	28	10	6	1				3	176
21 エキノコックス症				1								18
23 オウム病	4	1	1		1	1						13
35 チクングニア熱					2	2						10
36 つつが虫病	27	12	22	21	29	2	1				26	461
37 デング熱	9	9	6	14	10	3	5				2	112
41 日本紅斑熱		1										190
51 マラリア	3	8	3	6	7	7						78
53 ライム病		1	1	1								9
56 類鼻疽				1	1						1	3
57 レジオネラ症	43	58	37	55	64	26	10	3	4	2	19	819
58 レプトスピラ症	1	2	1									27
合 計	102	110	80	128	127	47	19	3	4	3	51	1997

件数は国立感染症研究所感染症発生動向調査による

擬似症・無症状病原体保有者を含む

全国合計値は掲載疾病以外の疾病も計上

平成23年2月よりチクングニア熱が追加された。

《五類感染症》

12 疾患の報告があり、報告数は 393 件であった。最も報告の多かった疾患が後天性免疫不全症候群で 92 件、次いでアメーバ赤痢が 85 件、風しんが 64 件であった。

表 3 五類感染症報告数（件）

疾患名	平成 19年	平成 20年	平成 21年	平成 22年	平成 23年							全国
	神奈川 県	神奈川 県	神奈川 県	神奈川 県	神奈川 県	(横 浜市)	(川 崎市)	(相 模原 市)	(横 須賀 市)	(藤 沢市)	神奈 川県 (左を 除く)	
60 アメーバ赤痢	81	80	69	81	85	53	7	5	3	5	12	814
61 ウイルス性肝炎	15	10	16	13	12	3	4			1	4	249
62 急性脳炎	5	7	27	12	11	7	2				2	259
63 クリプトスポリジウム症	1											8
64 クロイツフェルト・ヤコブ病	9	14	10	9	6	3	1	2				136
65 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	11	4	8	12	10	4	4	1			1	198
66 後天性免疫不全症候群	93	90	81	78	92	54	17	5	1	3	12	1523
67 ジアルジア症	8	10	7	10	6	2				1	3	68
68 髄膜炎菌性髄膜炎	1		1	1								12
70 梅毒	48	32	34	33	43	9	12	6	4	1	11	827
71 破傷風	6	7	4	3	2	1					1	114
73 バンコマイシン耐性腸球菌感染症	17	9	29	22	17	12				1	4	73
74 風しん		34	13	8	64	15	11		3	4	31	374
75 麻しん		3558	97	79	45	12	13	5			15	443
合計	295	3855	396	361	393	175	71	24	11	16	96	5099

件数は国立感染症研究所感染症発生動向調査による
擬似症・無症状病原体保有者を含む
全国合計値は掲載疾病以外の疾病も計上
平成20年1月より風しん、麻しんが追加された。

2 定点把握の対象疾患

(1) 定点

定点把握の対象疾患の情報は、予め指定した医療機関から報告され、その医療機関のことを定点という。定点の数は人口に応じて決められている。定点は5種類あり、報告する疾患が分かれている。神奈川県内の定点の状況は下表のとおりである。

	県域	横浜市	川崎市	相模原市	計
インフルエンザ定点	116	152	54	23	345
小児科定点	73	92	33	15	213
眼科定点	16	19	7	4	46
STD(性感染症)定点	23	27	7	5	62
基幹定点	5	3	2	1	11

インフルエンザ定点

対象疾患名： インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く）

小児科定点

対象疾患名： RS ウイルス感染症・咽頭結膜熱・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎・感染性胃腸炎・水痘・手足口病・伝染性紅斑・突発性発しん・百日咳・ヘルパンギーナ・流行性耳下腺炎

眼科定点

対象疾患名： 急性出血性結膜炎・流行性角結膜炎

基幹定点

対象疾患名： クラミジア肺炎（オウム病を除く）・細菌性髄膜炎・マイコプラズマ肺炎・無菌性髄膜炎・ペニシリン耐性肺炎球菌感染症・メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症・薬剤耐性アシネトバクター感染症・薬剤耐性緑膿菌感染症

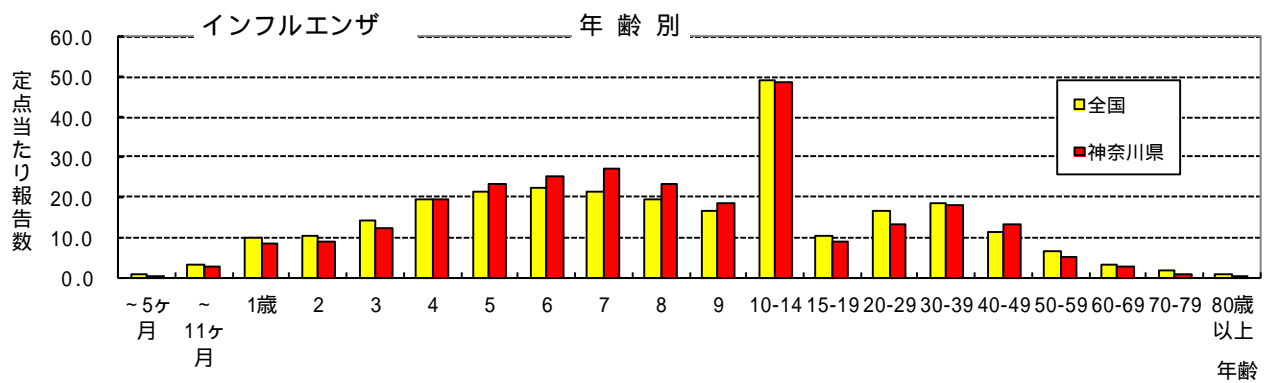
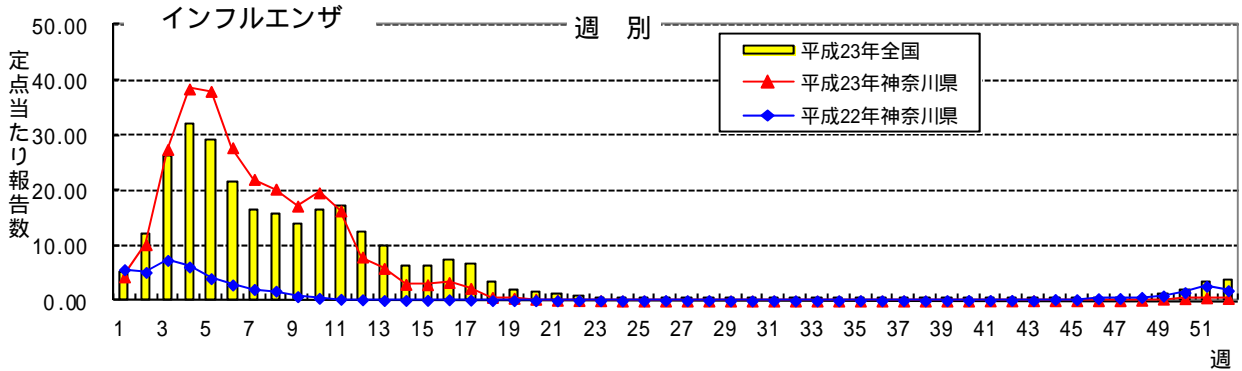
STD定点

対象疾患名： 性器クラミジア感染症・性器ヘルペスウイルス感染症・尖圭コンジローマ・淋菌感染症

(2) 週報対象疾患(神奈川県全県)

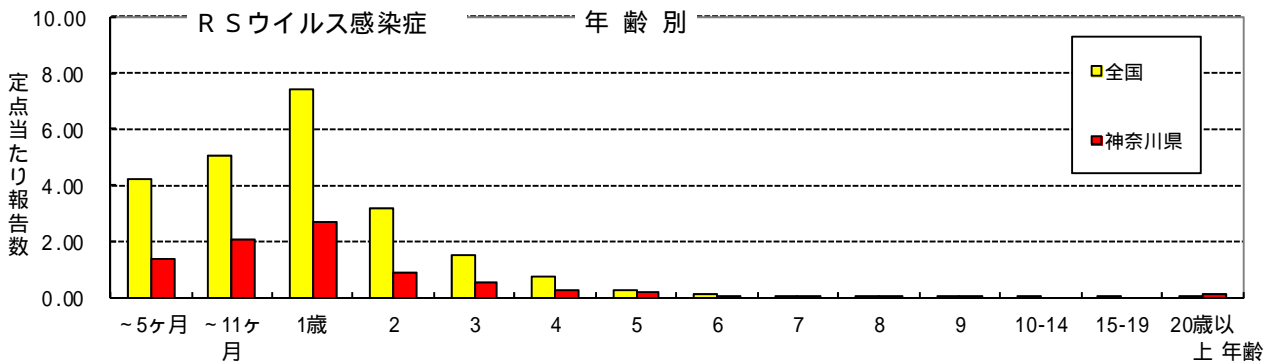
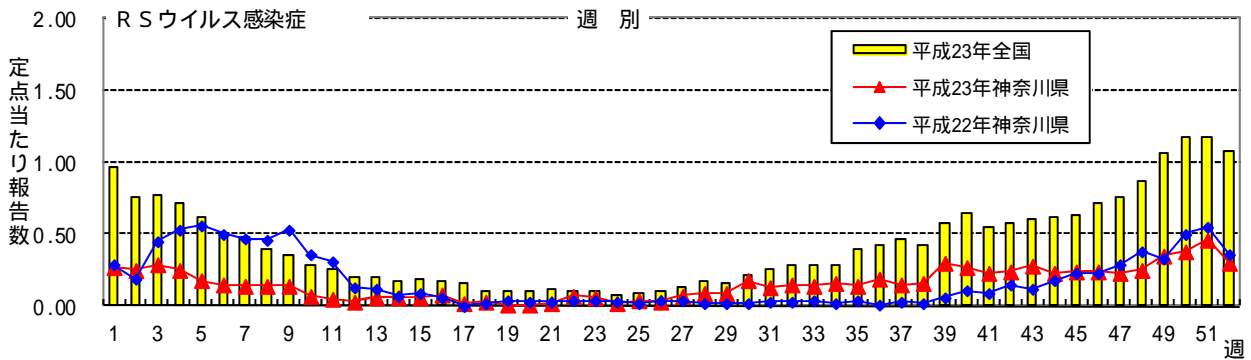
インフルエンザ

第4週に流行のピークがみられ、年齢別では、10~14歳に報告が多かった。



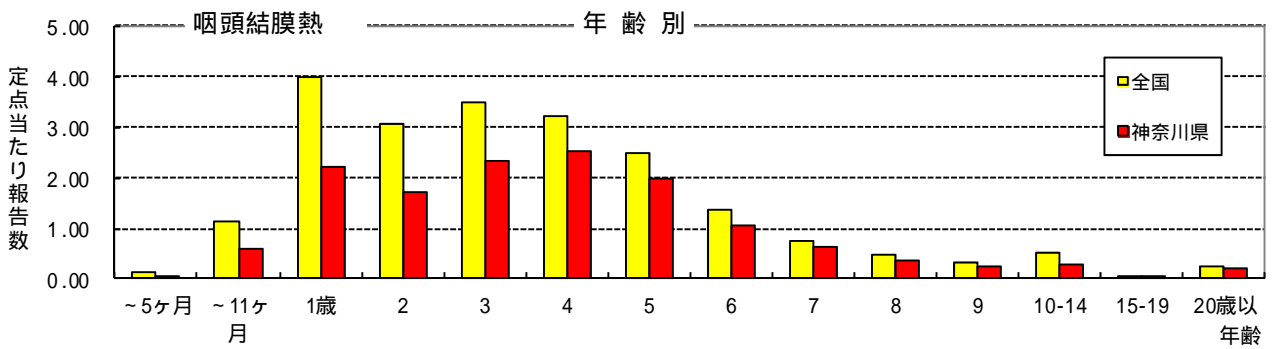
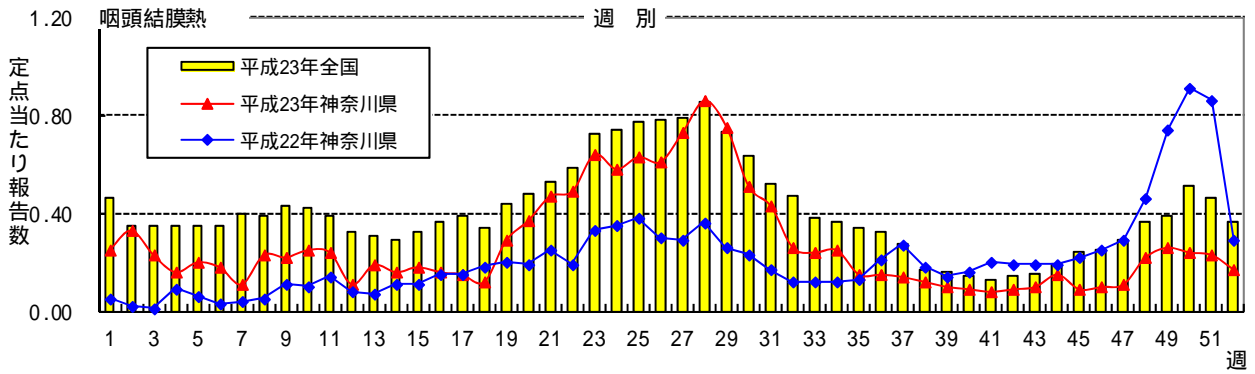
R S ウイルス感染症

冬期に報告数が増加し、全国と比較して報告数は少なかった。年齢別では1歳以下に報告が多かった。



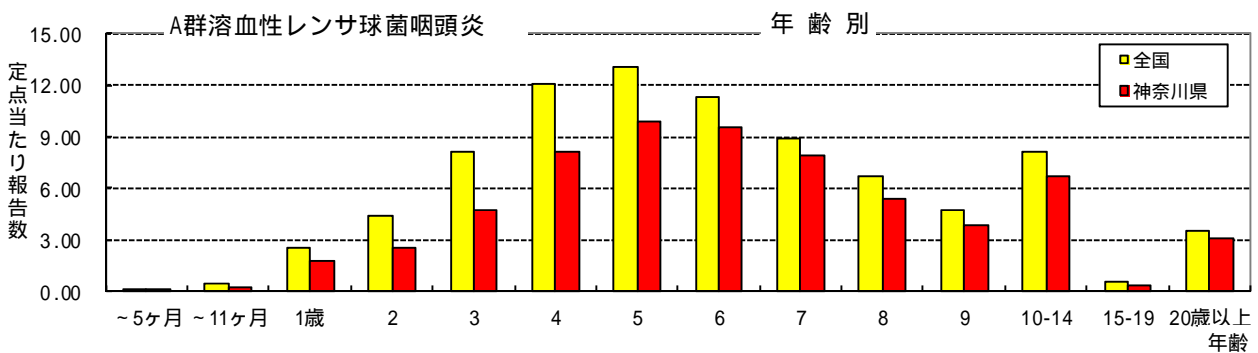
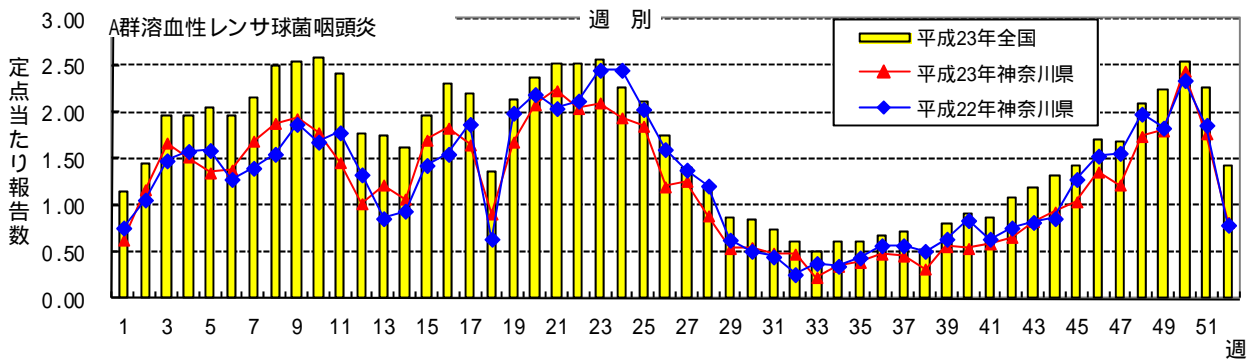
咽頭結膜熱

第28週をピークとした流行がみられた。年齢別では、1歳から5歳を中心に報告が多かった。



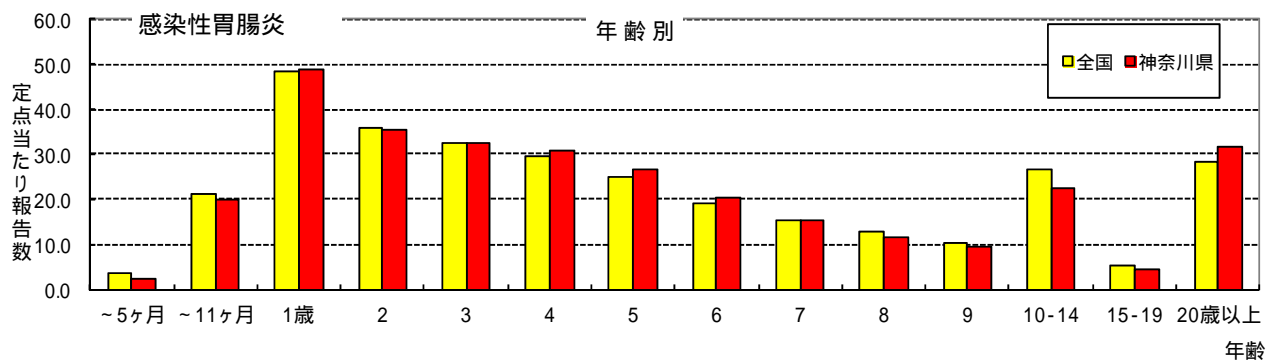
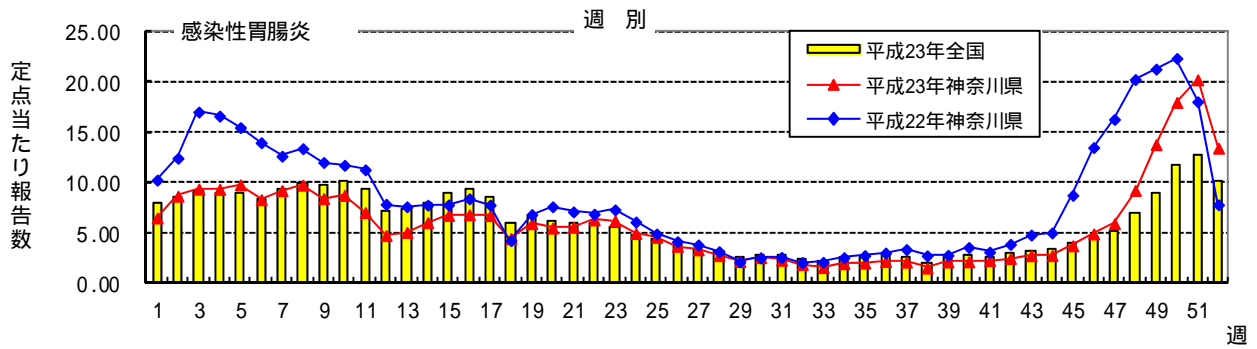
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

冬～春、初夏、に報告数の増加がみられ、年齢別では5歳から6歳を中心に報告が多かった。



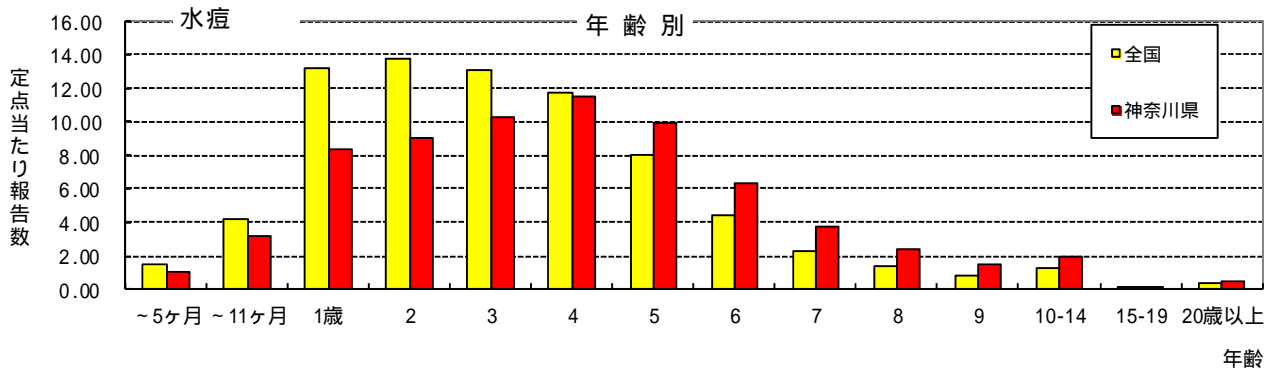
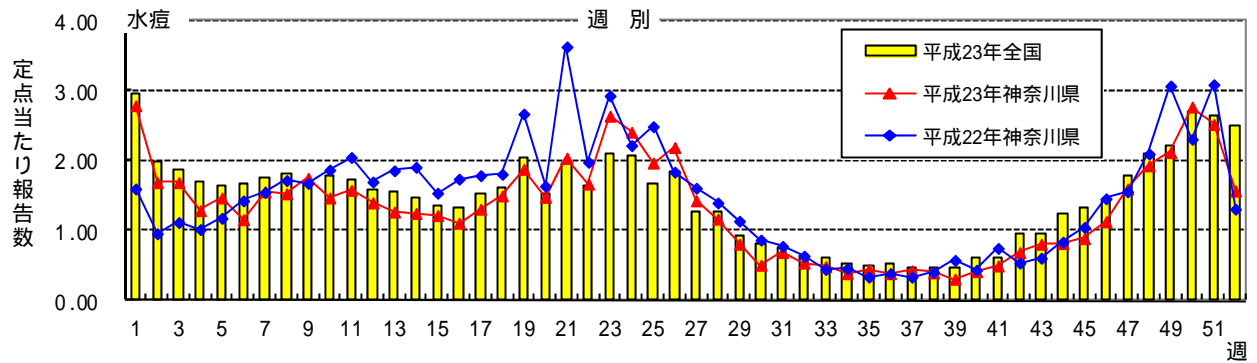
感染性胃腸炎

第51週に流行のピークがみられた。年齢別では、1歳に報告が多かった。



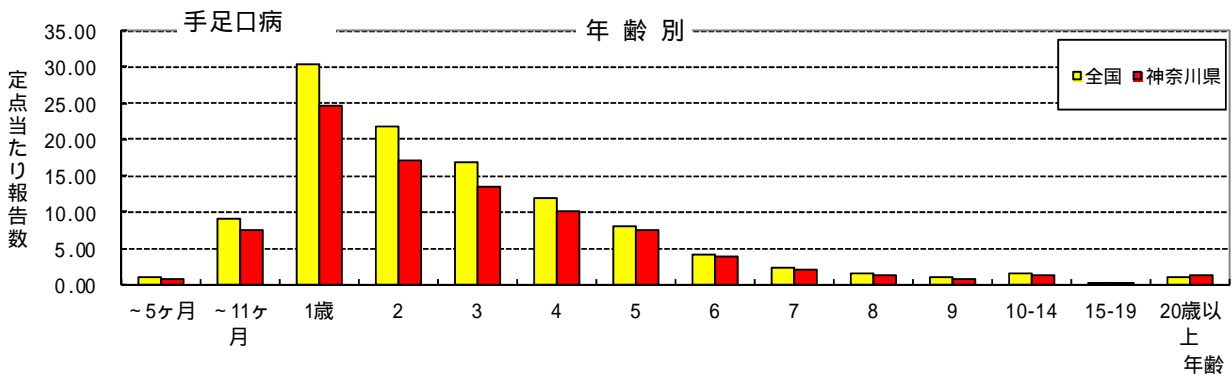
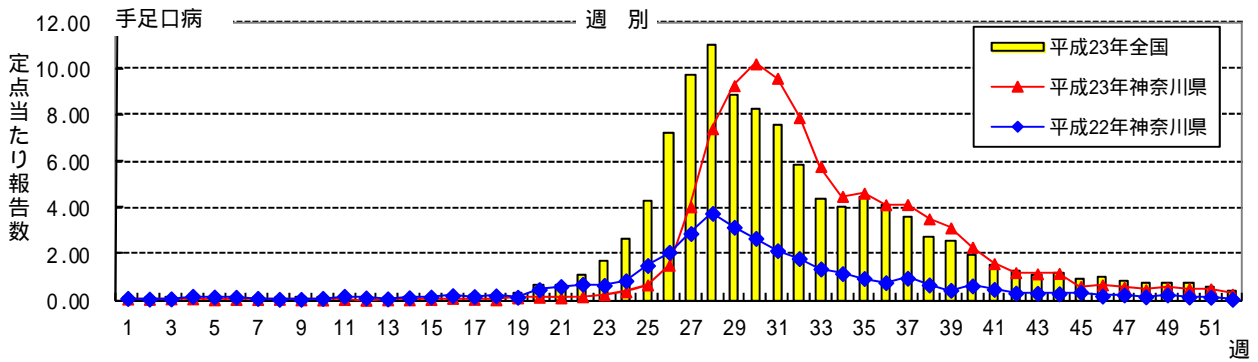
水痘

8～10月には報告数が減少し、年齢別では1歳から5歳に報告が多かった。



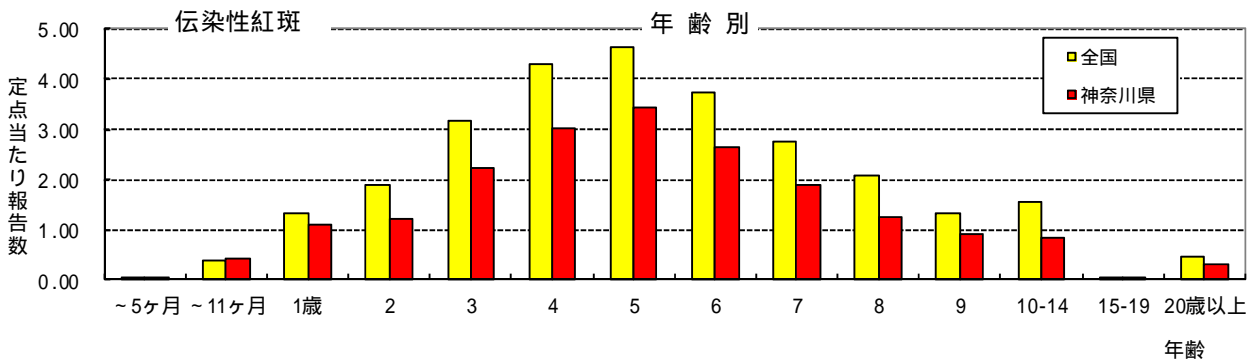
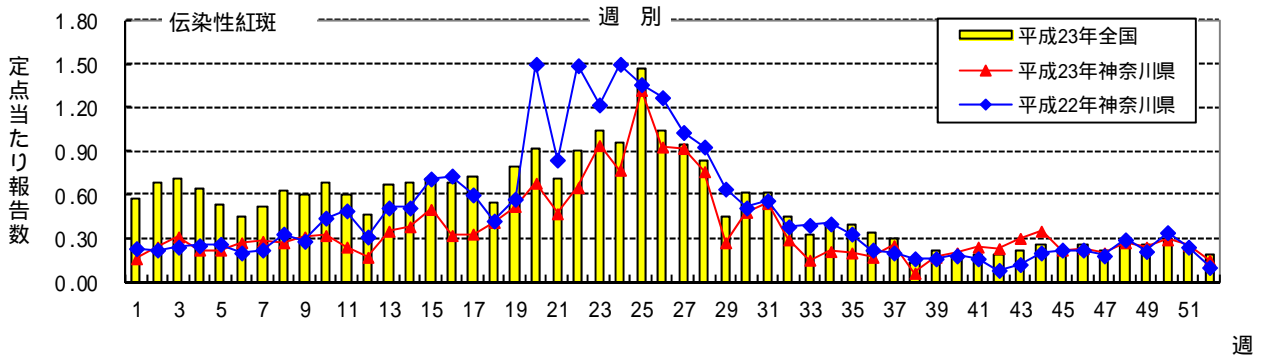
手足口病

第30週に例年と比較して大きな流行のピークがみられた。年齢別では、1歳を中心に報告が多かった。



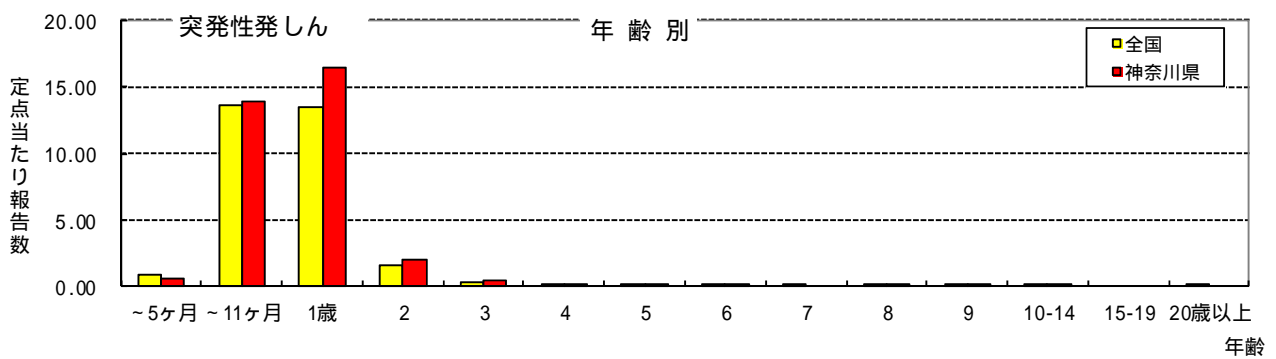
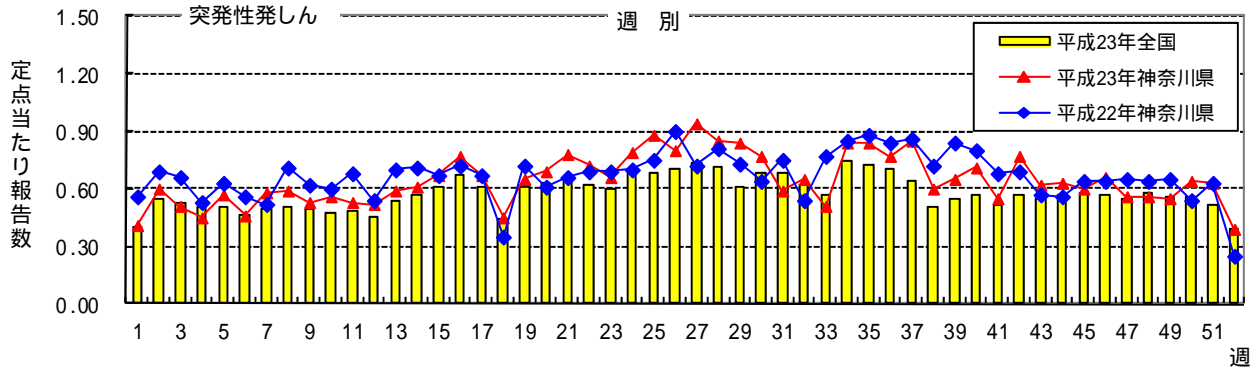
伝染性紅斑

第25週に流行のピークがみられ、年齢別では、5歳を中心に報告が多かった。



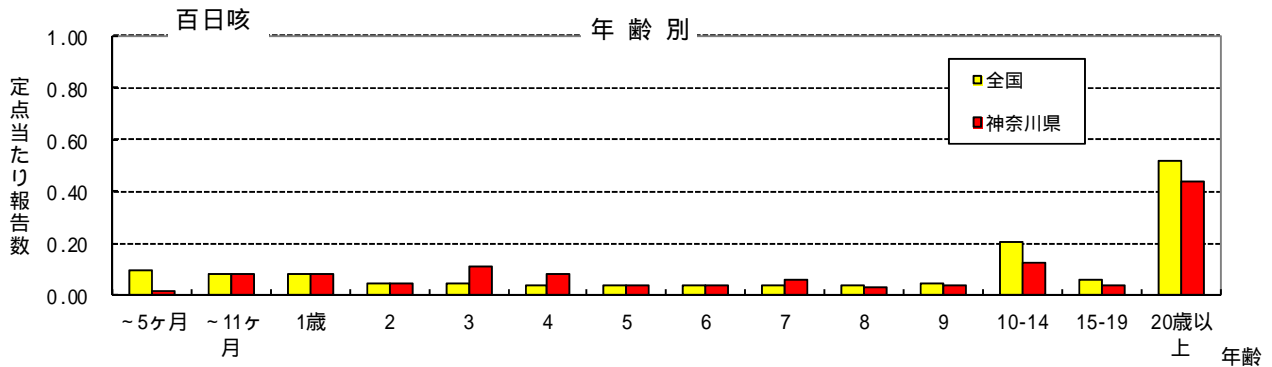
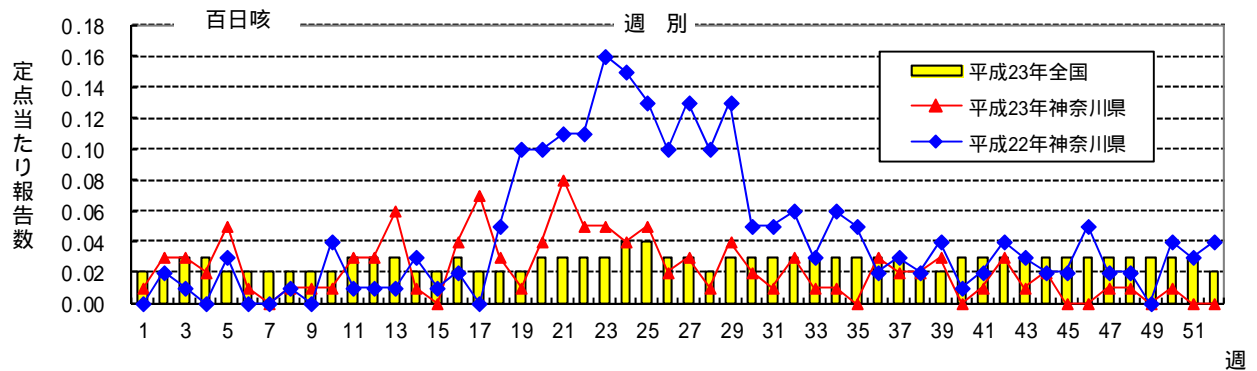
突発性発しん

例年と同様に年間を通して報告がみられ、年齢別では6ヶ月から1歳を中心に報告が多かった。



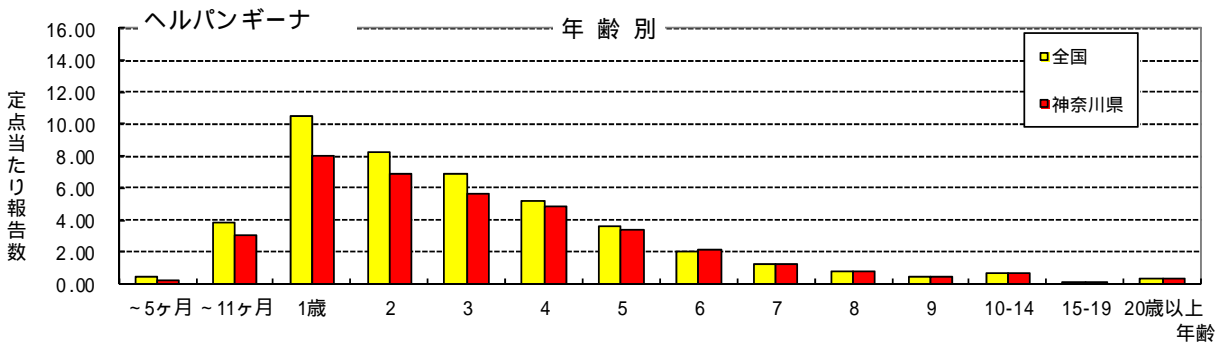
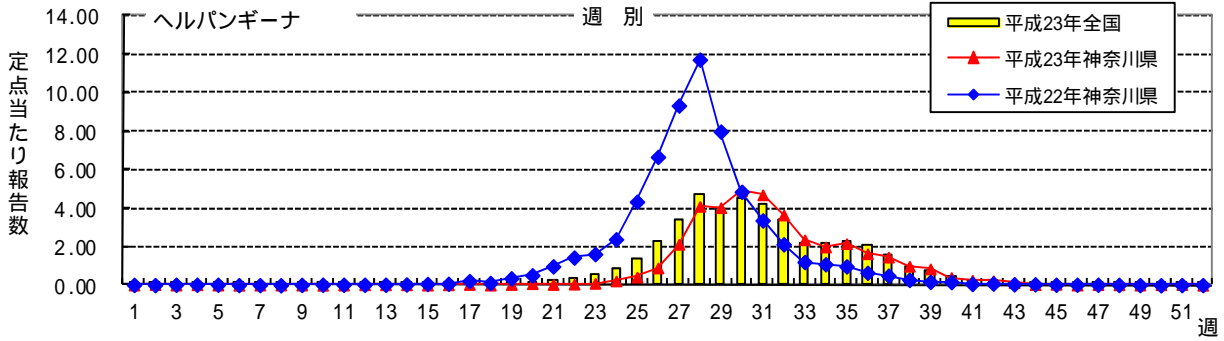
百日咳

平成22年よりも報告数は減少した。年齢別では、20歳以上の報告が多かった。



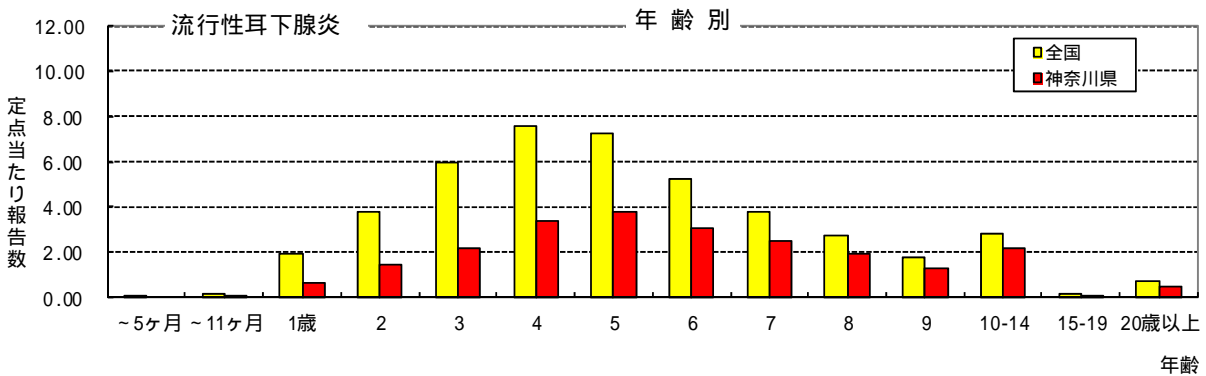
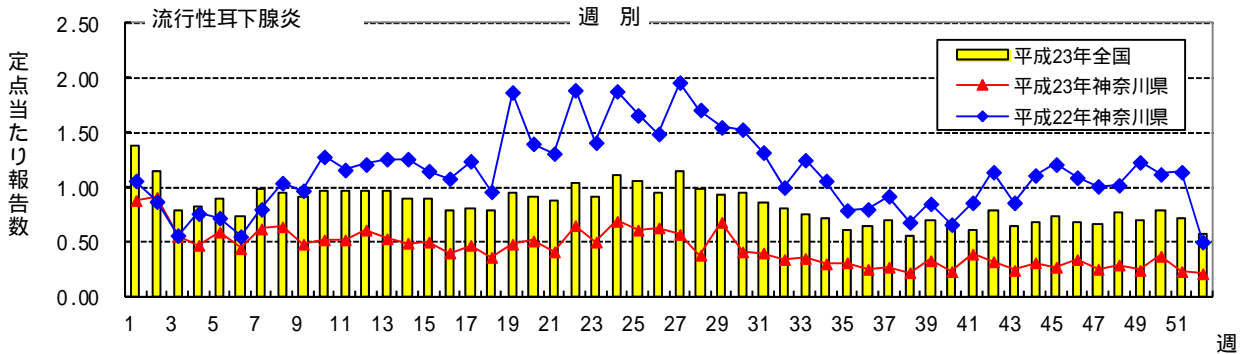
ヘルパンギーナ

第30週に流行のピークがみられたが、平成22年よりも報告数は減少した。年齢別では1歳を中心に報告が多かった。



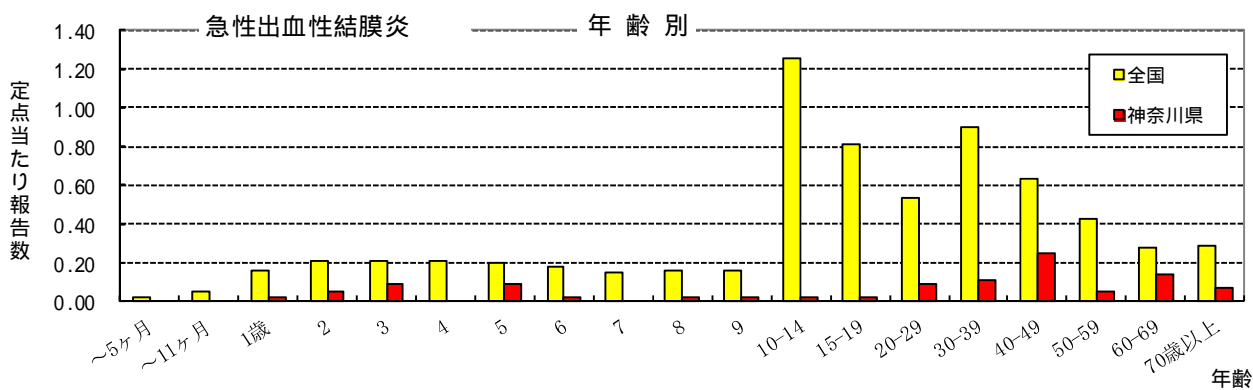
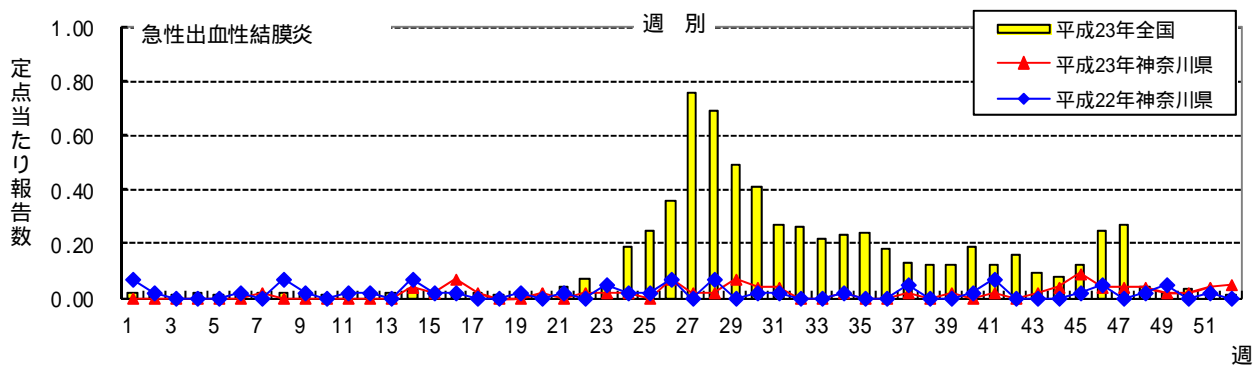
流行性耳下腺炎

年間を通して報告が見られ、平成22年よりも報告数が減少した。年齢別では4歳から6歳を中心に報告が多かった。



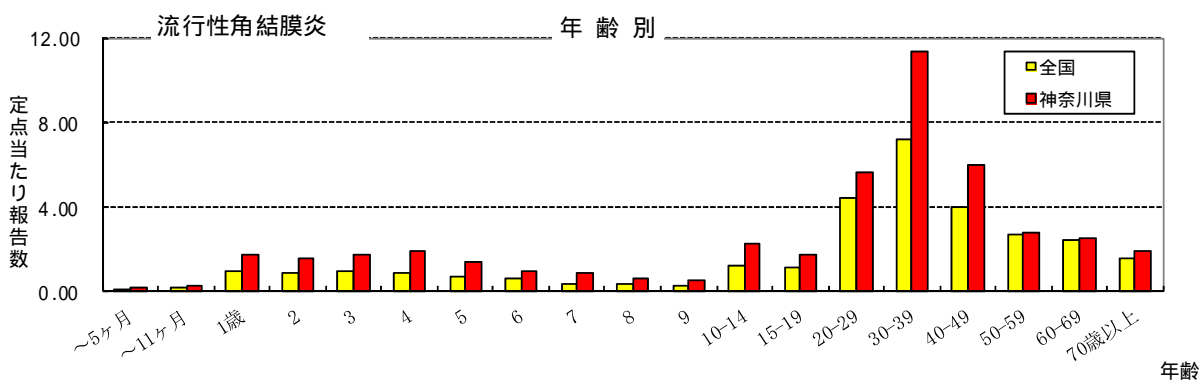
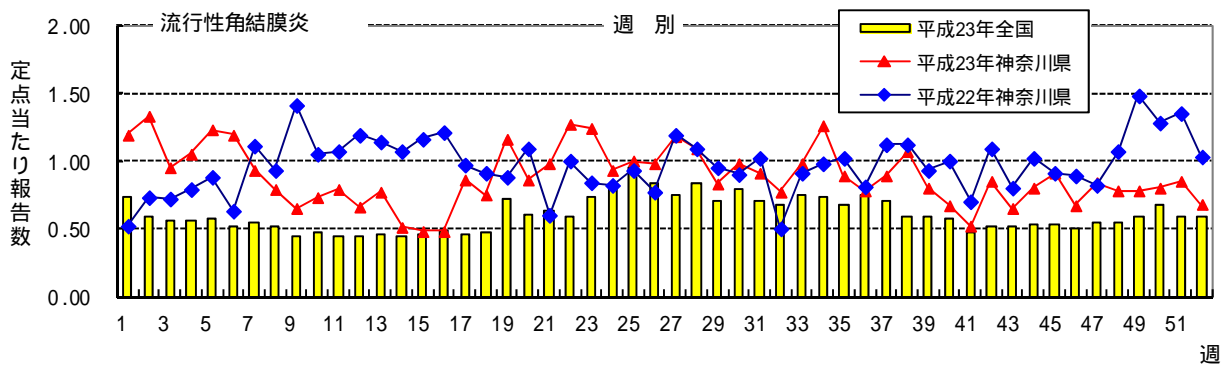
急性出血性結膜炎

散発的な報告がみられ、全国と比較して報告数は少なかった。年齢別では40～49歳に報告が多かった。



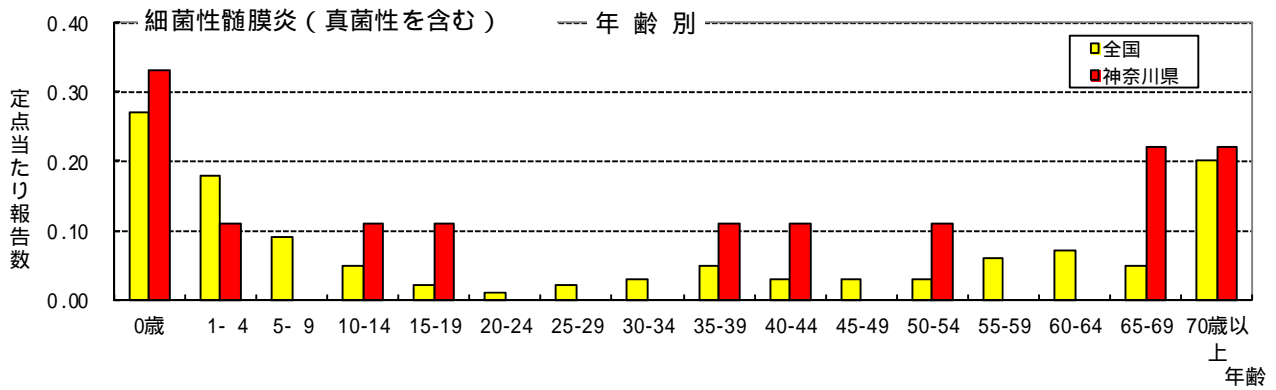
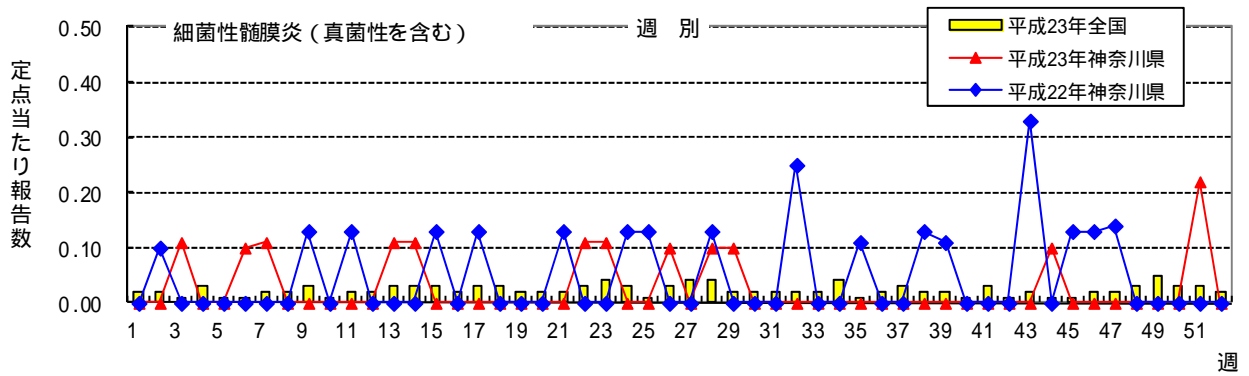
流行性角結膜炎

年間を通して報告が見られた。年齢別では30～39歳に報告が多かった。



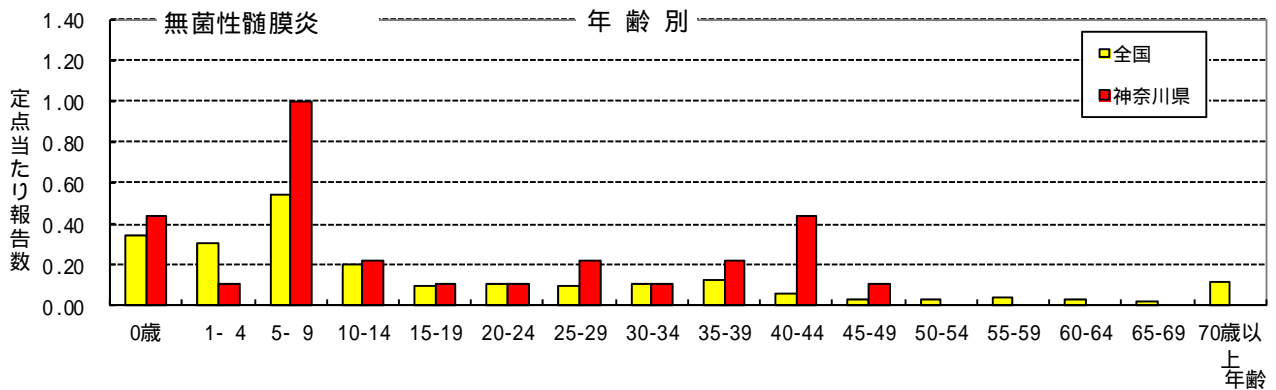
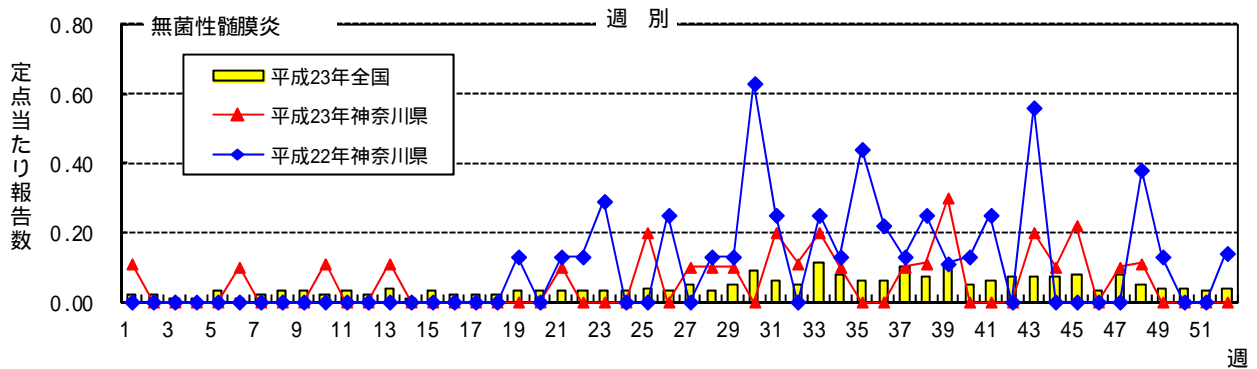
細菌性髄膜炎

散発的な報告がみられ、年齢別では0歳、60歳以上に報告が多かった。



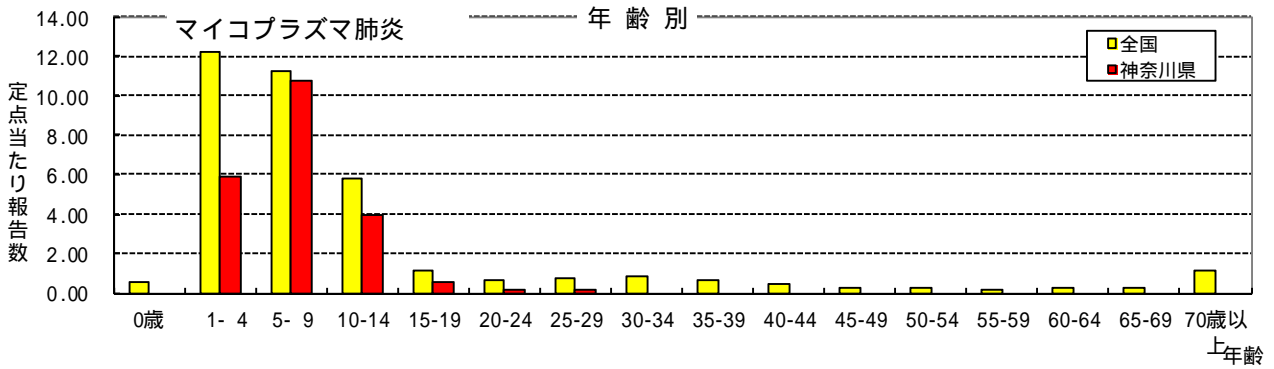
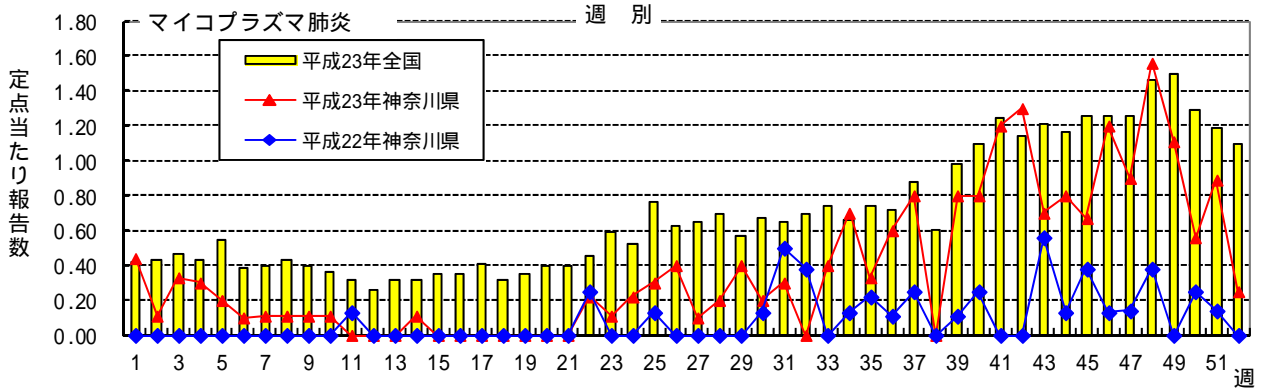
無菌性髄膜炎

散発的な報告がみられ、年齢別では5～9歳に報告が多かった。



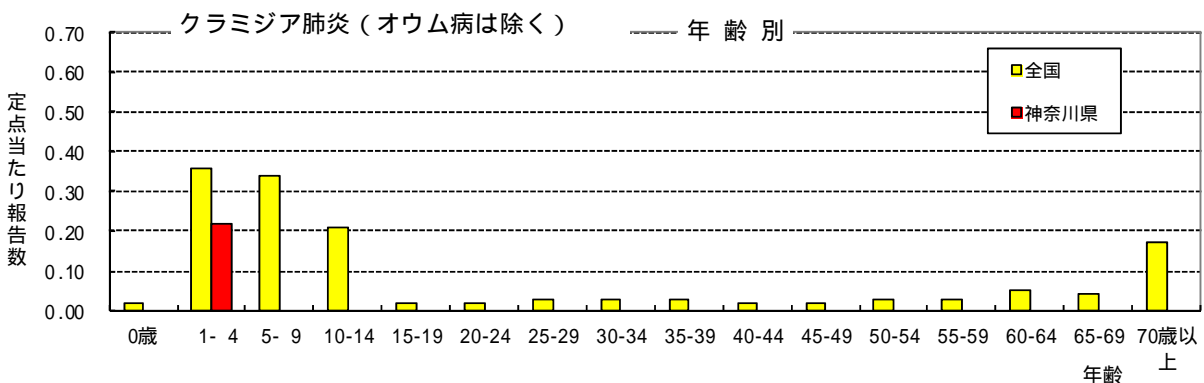
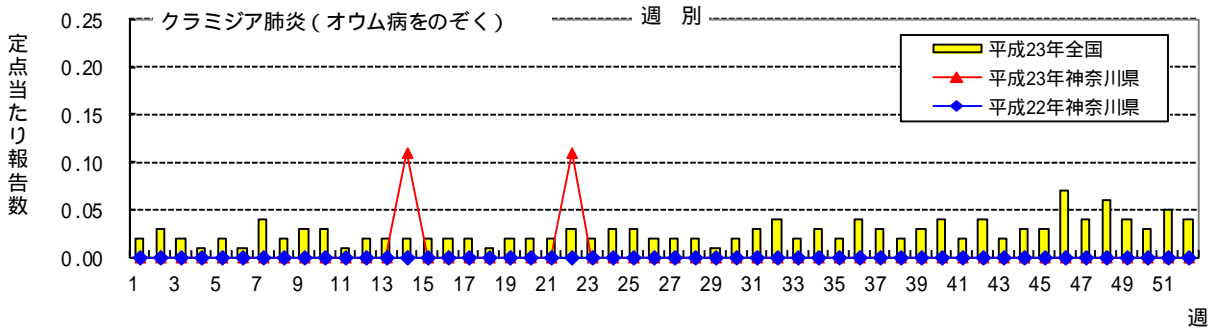
マイコプラズマ肺炎

第33週以降、報告数が増加し、例年と比較して大きな流行がみられた。年齢別では5～9歳に報告が多かった。



クラミジア肺炎（オウム病をのぞく）

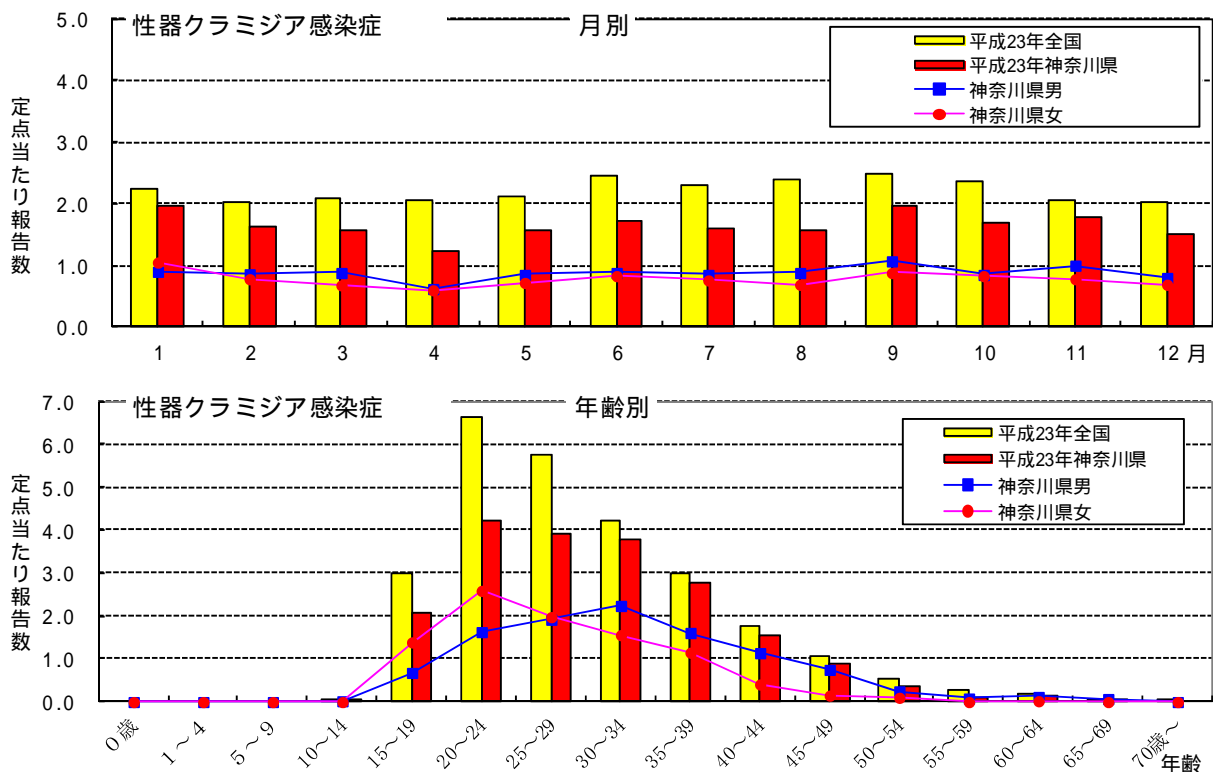
神奈川県では2例の報告があり、年齢別では1～4歳に報告がみられた。



(3) 月報対象疾患(神奈川県全県)

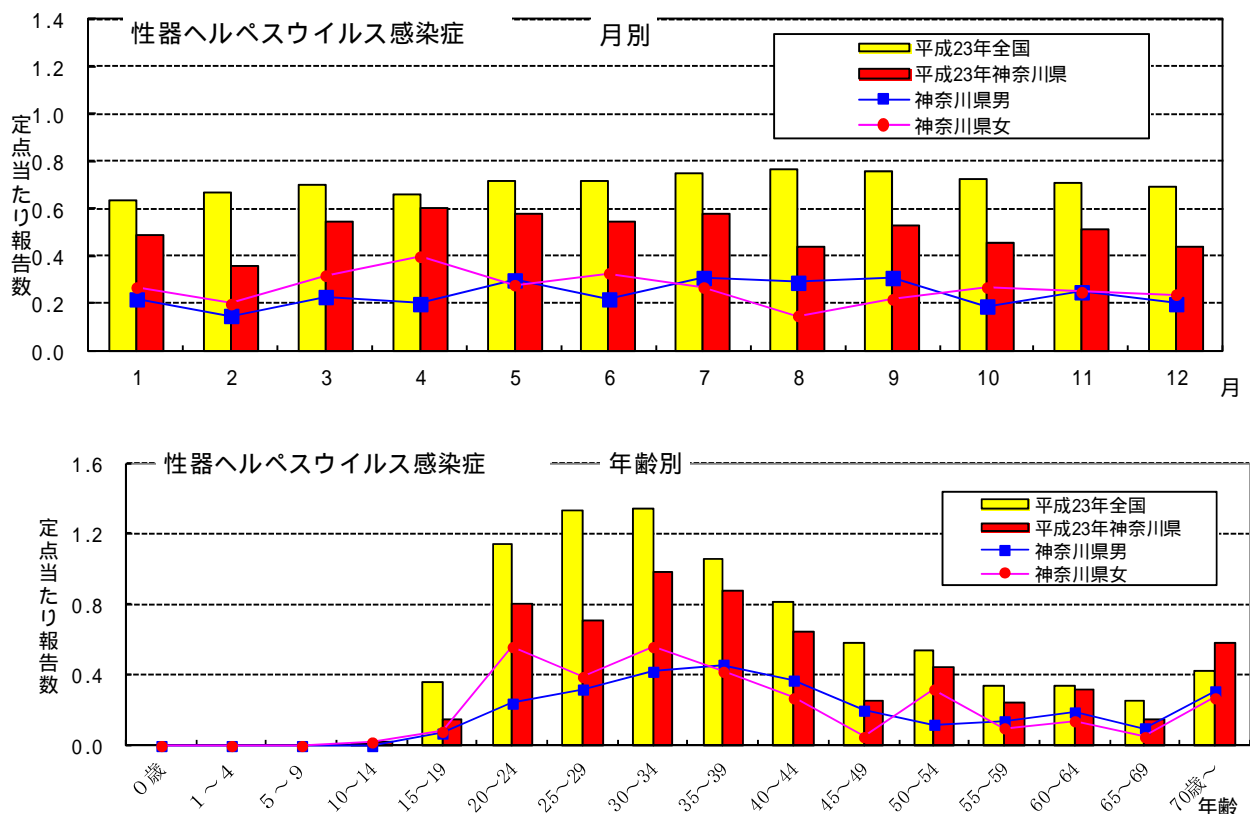
性器クラミジア感染症

男女ともに年間を通して報告がみられた。年齢別では男は30～34歳、女は20～24歳に報告が多かった。



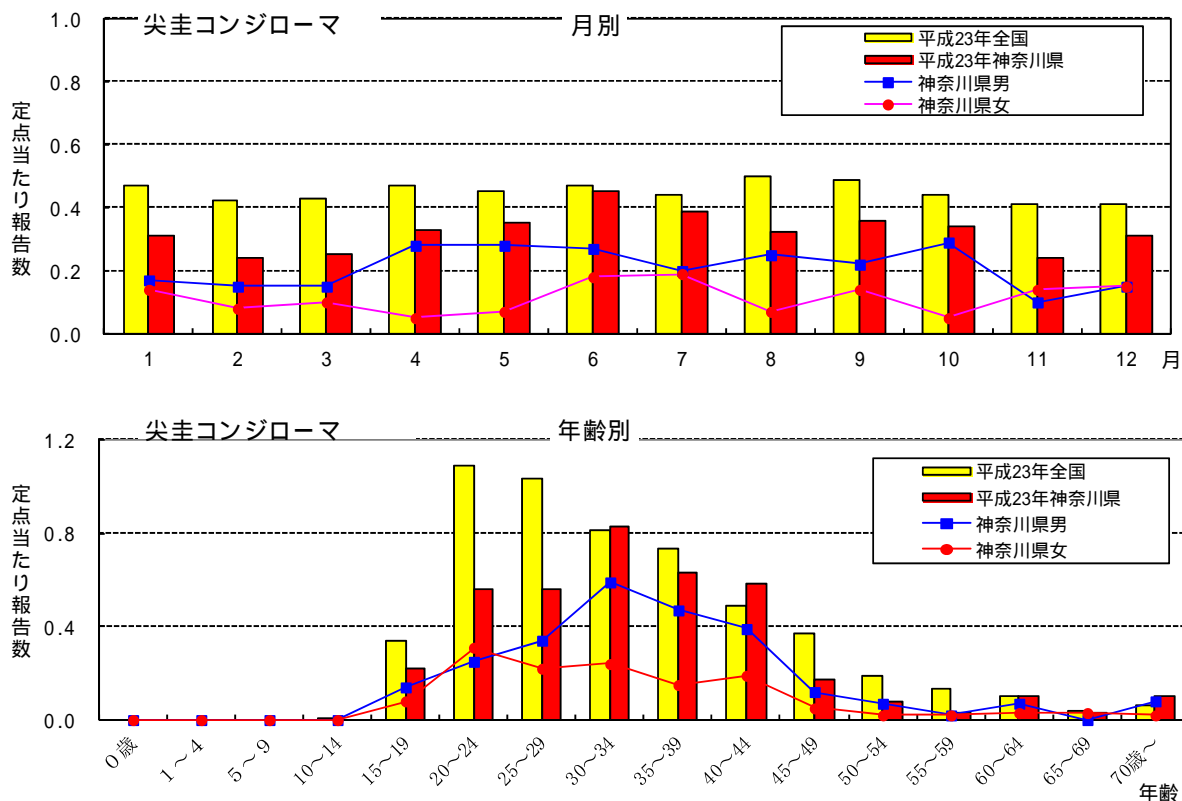
性器ヘルペスウイルス感染症

男女ともに年間を通して報告がみられた。年齢別では男は35～39歳、女は20～24歳、30～34歳に報告が多かった。



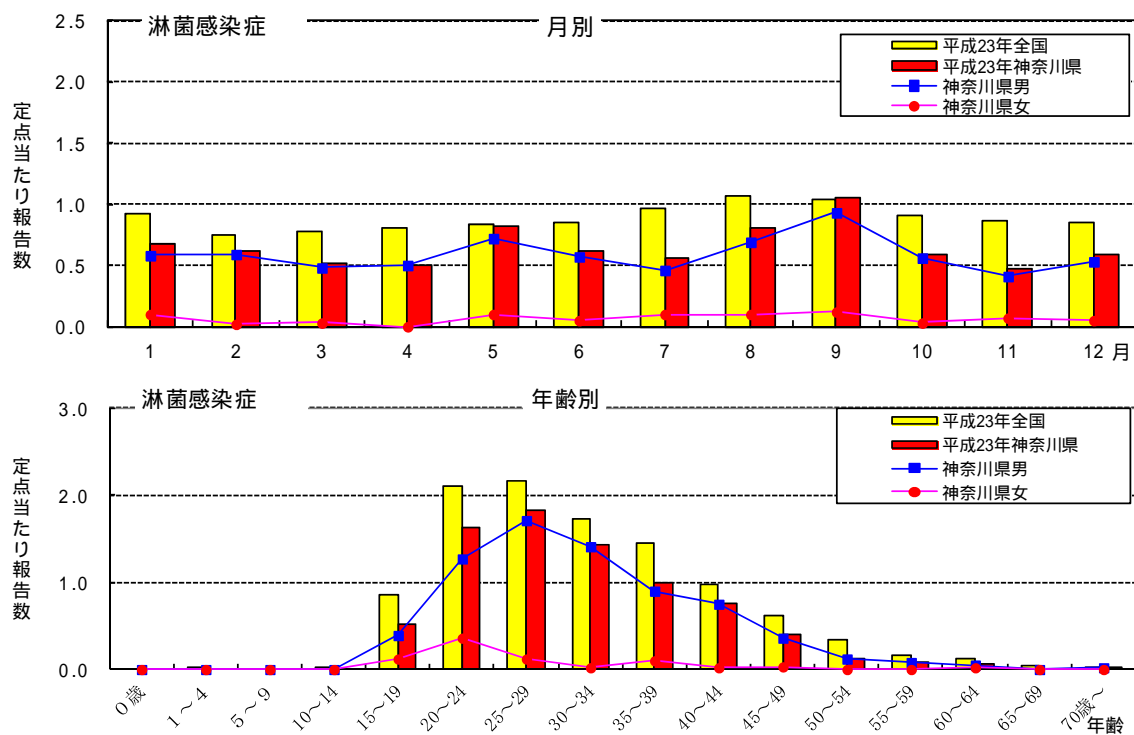
尖圭コンジローマ

男は年間を通して報告がみられ、女は6月～7月に報告が多かった。年齢別では男は30～34歳、女は20～24歳に報告が多かった。



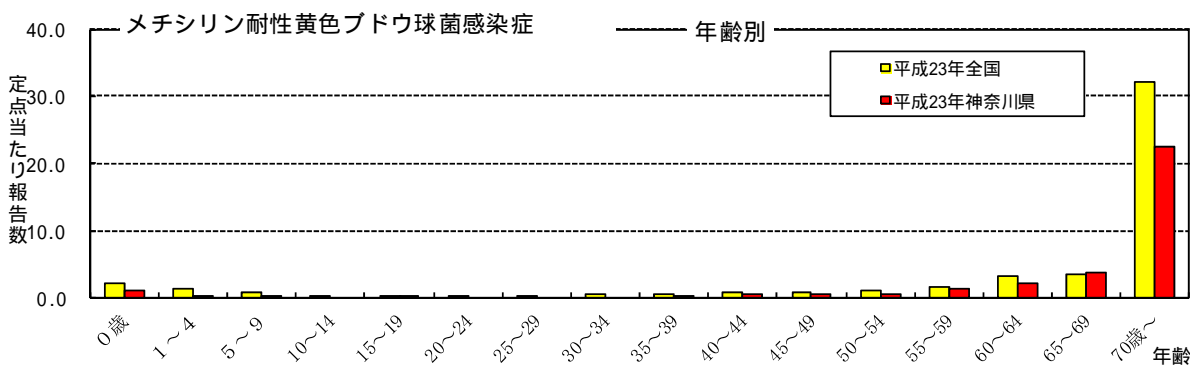
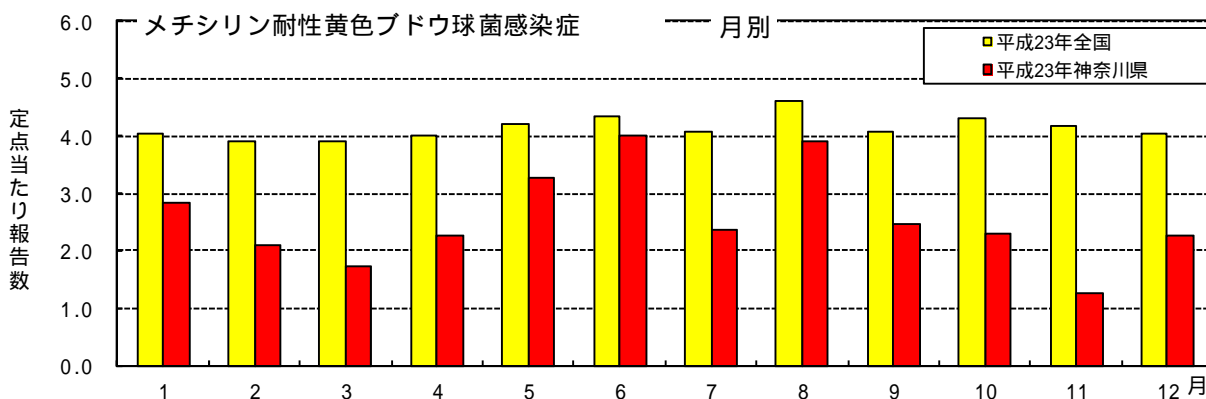
淋菌感染症

男は年間を通して報告がみられたが、女は年間を通して報告が少なかった。年齢別では男は25～29歳、女は20～24歳に報告が多かった。



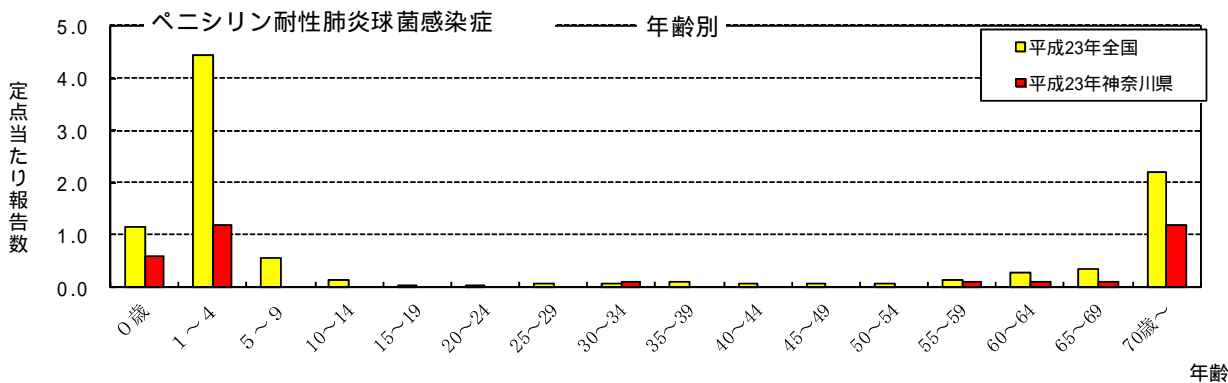
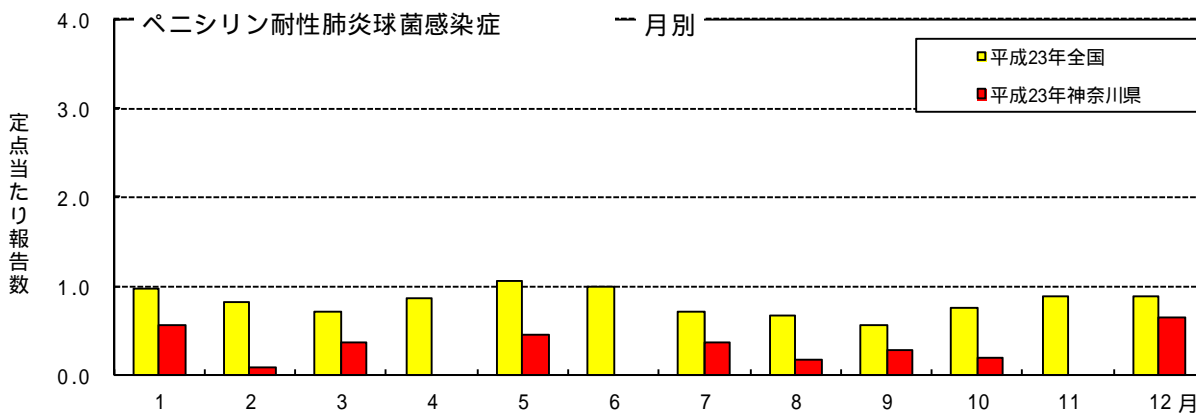
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

年間を通して報告がみられ、年齢別では70歳以上に報告が多かった。



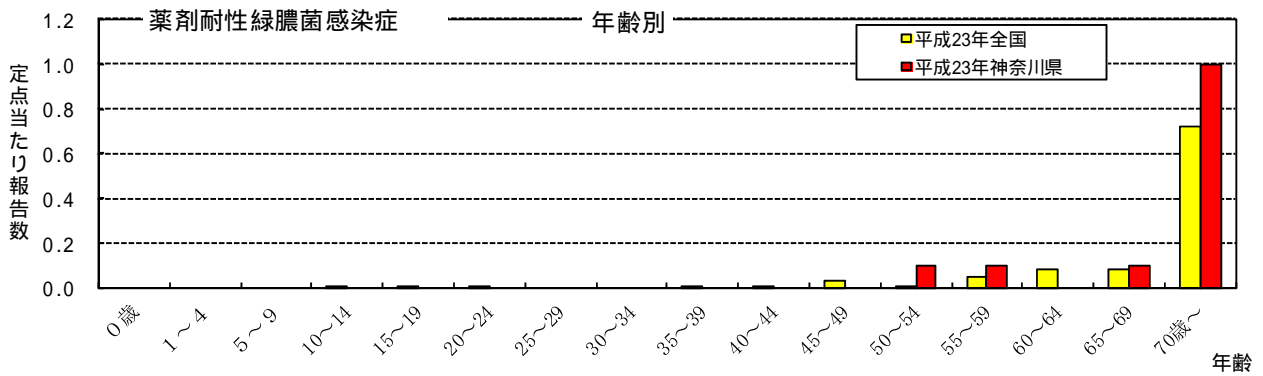
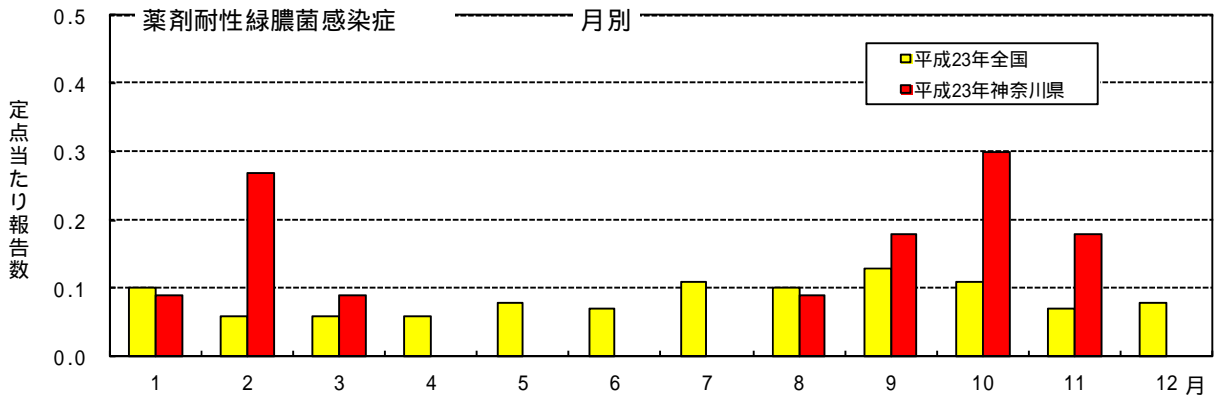
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

1月と12月に報告が多かった。年齢別では、1~4歳と70歳以上に報告が多かった。



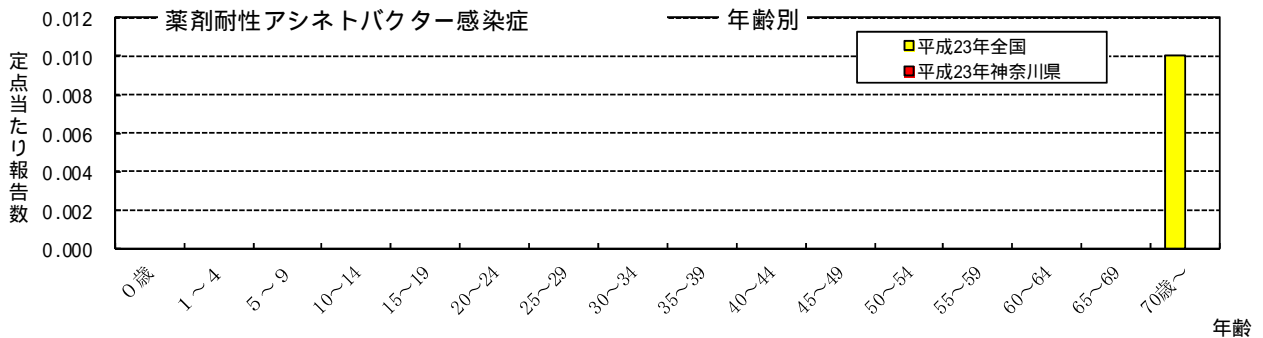
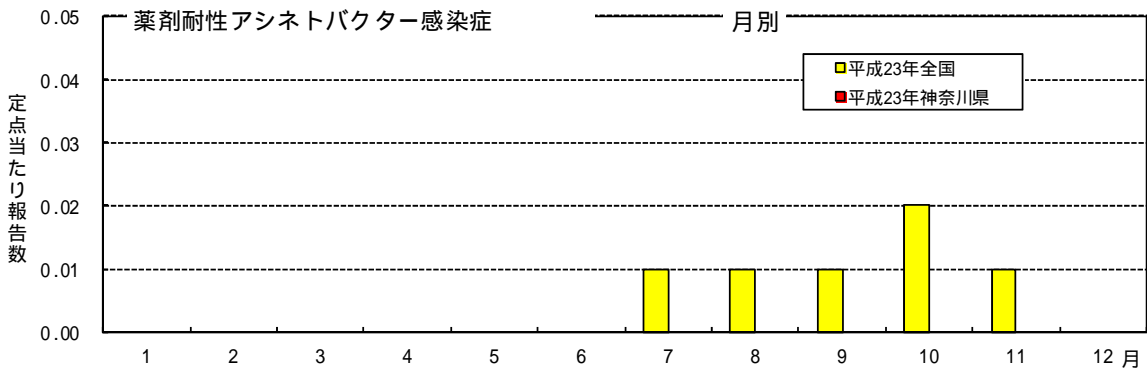
薬剤耐性緑膿菌感染症

2月と10月に報告が多かった。年齢別では70歳以上に報告が多かった。



薬剤耐性アシネトバクター感染症

神奈川県内では、報告がみられなかった。



3 トピックス

< 神奈川県 HIV/エイズの概要 >

平成 23 年の神奈川県の HIV 感染者・エイズ患者数は、総数で 83 人であった。感染者、患者ともに増加した。(表 1)

表 1 HIV 感染者・エイズ患者の性別年次推移 (神奈川県) (人)

		平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	昭和60年からの累計
男性	総数	73	74	59	66	84	80	73	69	75	1,165
	感染者	43	46	41	44	52	59	51	49	51	751
	患者	30	28	18	22	32	21	22	20	24	414
女性	総数	13	8	10	12	12	12	8	8	8	240
	感染者	8	8	7	9	7	7	6	6	7	184
	患者	5	0	3	3	5	5	2	2	1	56
合計	総数	86	82	69	78	96	92	81	77	83	1,405
	感染者	51	54	48	53	59	66	57	55	58	935
	患者	35	28	21	25	37	26	24	22	25	470

(平成 23 年 12 月 31 日現在)

HIV 検査実施件数は、平成 21 年以降減少傾向にあり、平成 23 年は前年比 1.0%減の 9556 件であった。

表 2 HIV 検査実施件数年次推移 (件)

	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年
県域	1,026	1,247	1,553	2,258	3,078	3,071	2,939	2,585	2,409
横浜市	3,036	3,197	3,601	4,432	5,092	5,087	4,754	4,031	4,169
川崎市	1,802	2,077	1,943	2,083	2,381	2,432	2,207	1,831	1,789
横須賀市	237	299	293	298	440	352	322	340	262
相模原市	301	401	477	434	585	559	584	486	491
藤沢市				115	192	388	367	383	436
合計	6,402	7,221	7,867	9,620	11,768	11,889	11,173	9,656	9,556
前年比 (%)	10.1	12.8	8.9	22.3	22.3	1.0	-6.0	-13.6	-1.0

* 相模原市は平成 12 年 4 月から、藤沢市は平成 18 年 4 月から保健所設置市

* 自治体を実施する保健所以外の検査を含みます。

(平成 23 年 12 月 31 日現在)

(表 1・表 2 数値：県健康危機管理課提供)

< PART > 平成 23 年地域における感染症発生状況の概要

病原微生物検出状況

1 ウイルス検出概況

新型インフルエンザの出現により、平成 21 年は 7 月から 11 月にかけての検出が多く、年間の検出数も例年よりも多かった。平成 23 年は、22/23 年インフルエンザシーズンにインフルエンザウイルス AHpdm09（新型インフルエンザウイルス）の動向が注目されたため平成 23 年 1 月、2 月のインフルエンザウイルスの検出が増加し、その影響で平成 23 年のウイルス検出数は前年に比べ 40% 以上増加し 2143 件であった（図 1）。

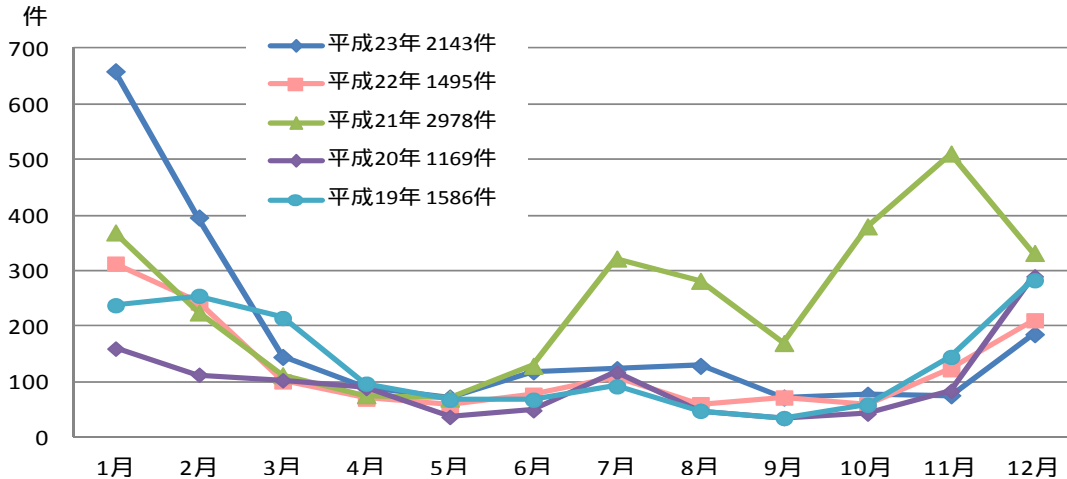


図 1 ウイルス月別検出状況年別比較

検出ウイルス種類別で多い順は、インフルエンザウイルス AH1pdm09（26.8%）、インフルエンザウイルス AH3(15.3%)、ノロウイルス（14.8%）、インフルエンザウイルス B(10.1%)であり、インフルエンザウイルスが検出ウイルス全体の 50% 以上を占めた（図 2）。

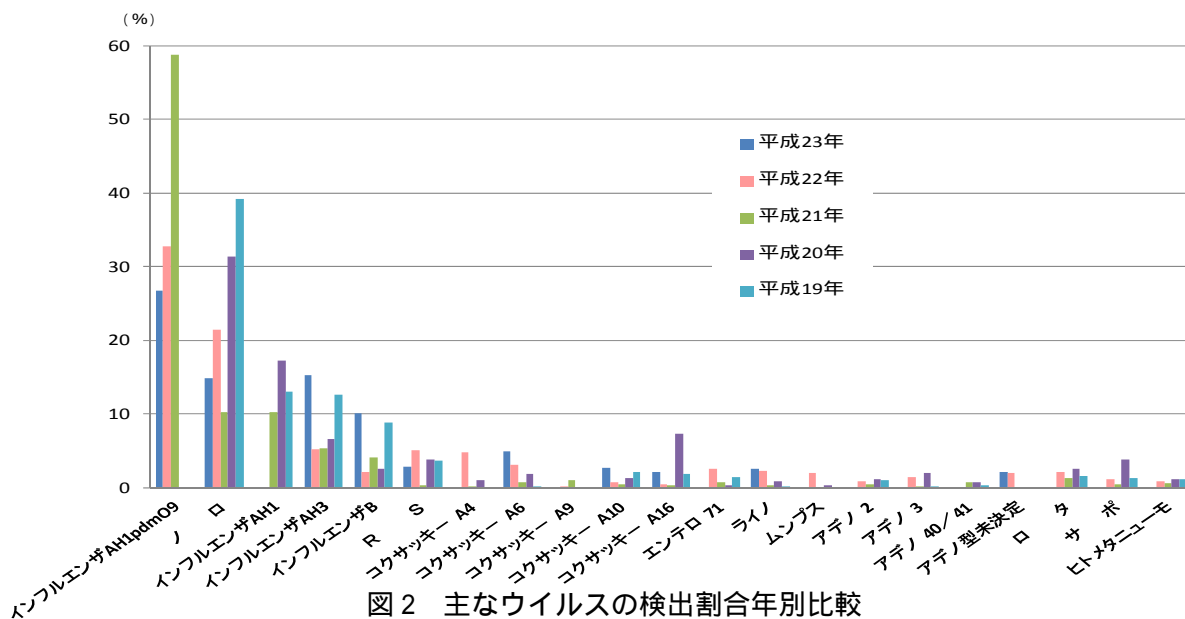


図 2 主なウイルスの検出割合年別比較

神奈川県、神奈川県衛生研究所、横浜市衛生研究所、川崎市衛生研究所、相模原市衛生試験所、横須賀市健康安全科学センター及び藤沢市保健所の各ウイルス検出状況は、ウイルス等の検出状況表に記載。（齋藤 隆行）

2 病原細菌検出概況

平成 23 年に県内で検出された病原細菌は 706 件であり、前年より大幅に増加した。これは、A 型ウエルシュ菌と毒素原性大腸菌及びマイコプラズマニューモニエの検出が多かったことによるものと思われる。月別では 10 月が検出数のピークを示した。海外渡航者からは例年、件数は少ないものの年間を通じて検出されているが、平成 23 年は、赤痢菌ソソネ、パラチフス A 菌、毒素原性大腸菌、コレラ菌の検出があり、パラチフス A 菌はすべて海外渡航者からの検出であった（図 1）。

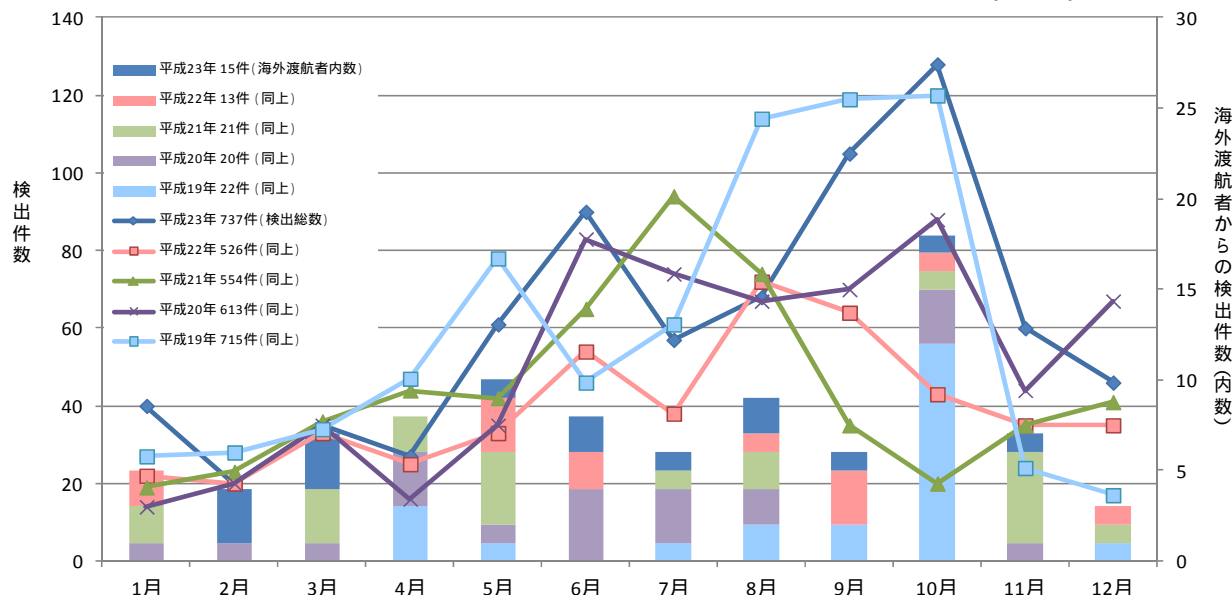


図 1 細菌月別検出状況年別比較

最も多く検出された病原細菌は、レンサ球菌 A 群で全体の 16.7%、次に腸管出血性大腸菌の 15.2%、カンピロバクター ジェジュニの 14.9%、A 型ウエルシュ菌の 13.4%であった（図 2）。

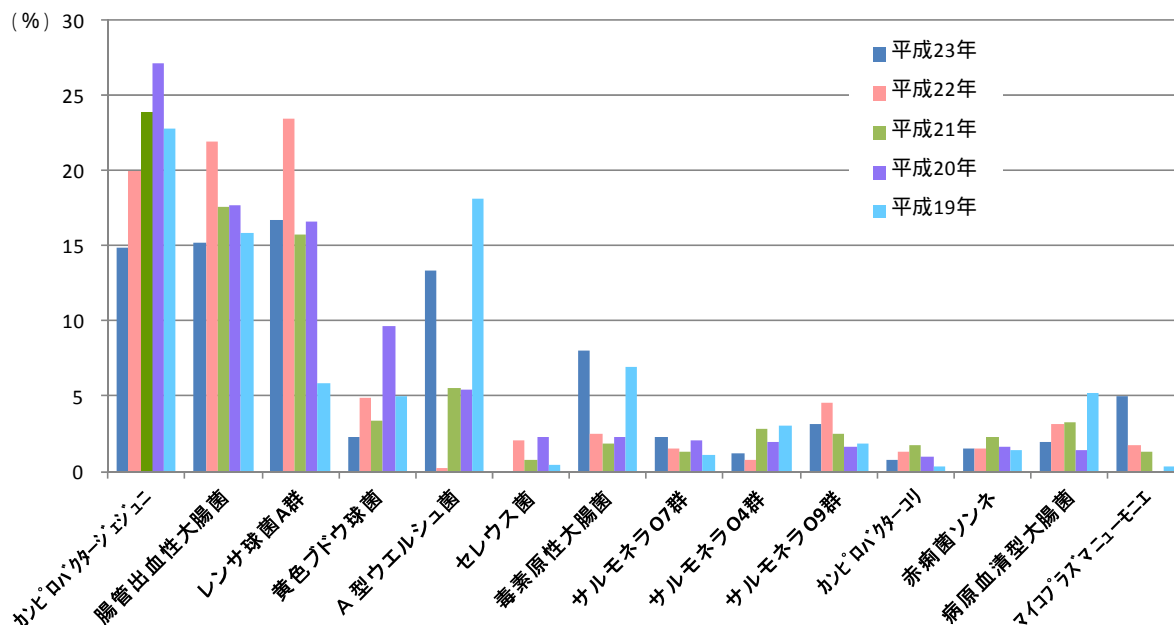


図 2 主な細菌の検出割合年別比較

神奈川県、神奈川県衛生研究所、横浜市衛生研究所、川崎市衛生研究所、相模原市衛生試験所、横須賀市健康安全科学センター及び藤沢市保健所の各病原細菌検出状況は、病原細菌検出状況表に記載。（伊東久美子）

3 ウイルス等の検出状況表（ヒト由来）

3 - 1 神奈川県（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	全数把握			定点把握対象疾患									その他	合計
	つつが虫病	デング熱	麻しん	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	感染性胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	インフルエンザ様	流行性角結膜炎	無菌性髄膜炎		
インフルエンザ AH1pdm09										541			35	576
インフルエンザ AH3										316			11	327
インフルエンザ B										207			9	216
パラインフルエンザ 1				3									8	11
パラインフルエンザ 2				1									1	2
パラインフルエンザ 3													12	12
R S				33						1			27	61
ヒトメタニューモ				1						3			35	39
ポリオ 1						2							2	4
ポリオ 2													1	1
コクサッキー - A5							1	8					1	10
コクサッキー - A6							79	14					13	106
コクサッキー - A9													2	2
コクサッキー - A10						1	16	34					7	58
コクサッキー - A12								1						1
コクサッキー - A16							43	1					1	45
コクサッキー - B1					1		2	6					5	14
コクサッキー - B4												1		1
コクサッキー - B5												3		3
エコ - 3													1	1
エコ - 6												9	1	10
エコ - 9													2	2
パレコ 1						2							3	5
パレコ 3						2	3						8	13
ライノ							7	3					45	55
ムンプス									4			2		6
麻疹			5											5
風疹*			11											11
アデノ 1													1	1
アデノ 2					4	1	1						5	11
アデノ 3					9						1		17	27
アデノ 4					3								1	4
アデノ 5					1								2	3
アデノ 6										1			1	2
アデノ 8											22			22
アデノ 37											1			1
アデノ 40/41						4								4
アデノ 54											1			1
アデノ（型未決定）					3	11					13		20	47
単純ヘルペス 1							1	3	1				3	8
サイトメガロ													3	3
ヒトヘルペス 6													1	1
ロ タ						26								26
ノ ロ						318								318
サ ボ						31								31
アストロ						10								10
デング			3											3
ウツガムシ	23													23
平成23年計	23	3	16	38	21	408	153	70	5	1069	38	15	284	2143

*麻しんを疑う患者検体からの検出

3 - 1 神奈川県 (月別)

年・月 検出ウイルス	平成 21年	平成 22年	平成23年												合計	
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
インフルエンザ AH1pdm09	1750	491	453	114	5	4										575
インフルエンザ AH1	305															1
インフルエンザ AH3	162	77	91	150	41	4	4					13	2	22	327	
インフルエンザ B	123	33	20	77	73	33	9							4	216	
パラインフルエンザ 1												2	2	4	11	
パラインフルエンザ 2		1									1				2	
パラインフルエンザ 3							4	8							12	
R S	10	76	3	4	1	4		1	6	7	6	7	10	12	61	
ヒトメタニューモ	18	14	1			6	7	8	3	6	8				39	
ポリオ 1	1	1				2						2			4	
ポリオ 2	1	1					1								1	
コクサッキー - A5		4								4	4	2			10	
コクサッキー - A6	21	47					1	8	47	26	19	5			106	
コクサッキー - A9	31	1										1		1	2	
コクサッキー - A10	12	10							1	14	31	8	3	1	58	
コクサッキー - A12										1					1	
コクサッキー - A16	8	6							1	2	12	13	6	3	45	
コクサッキー - B1								2	2	4	1	5			14	
コクサッキー - B2		6														
コクサッキー - B3	2	1														
コクサッキー - B4	2	8									1				1	
コクサッキー - B5	1	1								1	1	1			3	
エコ - 3	1	4				1									1	
エコ - 6													5	2	10	
エコ - 9	1											1		1	2	
エコ - 11	4															
エコ - 18	5															
エコ - 25		4														
エンテロ 68		5														
エンテロ 71	22	39														
パレコ 1	1	2									2	2	1		5	
パレコ 3								1	5	6	1				13	
パレコ (型未決定)	4	3														
ライノ	9	34		2		6	10	8	2	7	3	9	4	4	55	
ムンプス	3	30	1	1	2				1			1			6	
麻疹						5									5	
風疹*						1	2	2	3	3					11	
アデノ 1	5	6												1	1	
アデノ 2	16	14				1		1	4	2			2	1	11	
アデノ 3	6	22	3	2		3		4	5	3		3	2	2	27	
アデノ 4													2	1	4	
アデノ 5	3	5					1		2						3	
アデノ 6	5					2									2	
アデノ 8		1								6	16				22	
アデノ 19		1														
アデノ 31		1														
アデノ 37	6	4		1											1	
アデノ 40 / 41	20	3							1			1	1	1	4	
アデノ 54												1			1	
アデノ 中間型15 / H9	1	1														
アデノ (型未決定)	4	30	1	3		3	3	6	11	2		4	8	6	47	
単純ヘルペス 1	7	3		2					1	1		1	2	1	8	
サイトメガロ				3											3	
ヒトヘルペス 6	1	2									1				1	
ロタ	38	31		6	3	7	6	3				1			26	
ノロ	308	321	78	27	14	6	9	53	1	1		1	16	112	318	
サボ	13	18	5	3	3	1	11	5					2	1	31	
アストロ	10	7	2	1	3	1	1	1						1	10	
バルボウイルス B19	13	10														
ヒトコロナ OC43		5														
デング	1	1										2	1		3	
不明ウイルス	14	18											7	15	23	
未同定	1															
計	2977	1495	658	396	145	90	72	119	123	129	72	77	76	186	2143	

* 麻しんを疑う患者検体からの検出

3 - 2 神奈川県衛生研究所（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	つつが虫病	麻しん	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	感染性胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	インフルエンザ様	無菌性髄膜炎	合計
インフルエンザ AH1pdm09									258		258
インフルエンザ AH3									136		136
インフルエンザ B									114		114
パラインフルエンザ 1			3								3
パラインフルエンザ 2			1								1
R S			20								20
ヒトメタニューモ			1								1
コクサッキー - A5						1	7				8
コクサッキー - A6						53	12				65
コクサッキー - A10						12	33				45
コクサッキー - A12							1				1
コクサッキー - A16						22	1				23
コクサッキー - B1				1		1	5				7
コクサッキー - B5										1	1
エコ - 6										3	3
パレコ 1					2						2
パレコ 3						3					3
ライノ						7	3				10
ムンプス								4			4
麻疹		1									1
風疹*		9									9
アデノ 2				4		1					5
アデノ 3				7							7
アデノ 4				1							1
アデノ 5				1							1
アデノ（型未決定）					11						11
単純ヘルペス 1							1	1			2
ロ タ					16						16
ノ ロ					78						78
サ ポ					23						23
アストロ					10						10
リエンテツツガムシ	23										23
平成23年計	23	10	25	14	140	100	63	5	508	4	892

* 麻しんを疑う患者検体からの検出

3 - 2 神奈川県衛生研究所（月別）

年・月 検出ウイルス	平成 21年	平成 22年	平成23年												合計	
			1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月		
インフルエンザ AH1pdm09	677	155	231	26	1											258
インフルエンザ AH1	114															
インフルエンザ AH3	56	27	34	66	11	1						5	2	17	136	
インフルエンザ B	26	23	14	36	48	11	1							4	114	
パラインフルエンザ 1													3		3	
パラインフルエンザ 2														1	1	
R S		11									4	5	7	4	20	
ヒトメタニューモ										1					1	
ポリオ 1	1															
コクサッキー - A2	1	10														
コクサッキー - A4	1	44														
コクサッキー - A5		2							4	4					8	
コクサッキー - A6	15	22						2	27	17	15	4			65	
コクサッキー - A9	24	1														
コクサッキー - A10	6	10							11	26	6	1	1		45	
コクサッキー - A12									1						1	
コクサッキー - A16	7	4							1	5	8	1	2	6	23	
コクサッキー - B1							2	2	3						7	
コクサッキー - B3		1														
コクサッキー - B4	1															
コクサッキー - B5		1								1					1	
エコ - 6												3			3	
エコ - 11	1															
エンテロ 71	10	30														
パレコ 1	1									1	1				2	
パレコ 3								2		1					3	
パレコ（型未決定）	4	3														
ライノ	4	5						1	1	5		3			10	
ムンプス	2	18		1	2				1						4	
麻疹						1									1	
風疹*					1	1	1	1	3	3					9	
アデノ 1	3	2														
アデノ 2	6	5						1	2	1			1		5	
アデノ 3		15	3	2					2						7	
アデノ 4													1		1	
アデノ 5	1	2							1						1	
アデノ 40/41	18															
アデノ（型未決定）		10						1	1			2	4	3	11	
単純ヘルペス 1	4			1				1							2	
ロ タ	34	19		3	3	4	4	1				1			16	
ノ ロ	84	113	15	9	3	5	2	5					3	36	78	
サ ポ	12	15	4	3	3		7	3					2	1	23	
アストロ	10	7	2	1	3	1	1	1						1	10	
デ ン グ	1	1														
柯エンア ツツガムシ	14	18										7	15	1	23	
計	1138	574	303	148	74	24	18	21	58	65	34	32	41	74	892	

* 麻しんを疑う患者検体からの検出

3 - 3 横浜市衛生研究所（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	R S ウイルス 感染症	咽 頭 結 膜 熱	感 染 性 胃 腸 炎	手 足 口 病	ヘル パン ギー ナ	イン フル エン ザ 様	流 行 性 角 結 膜 炎	無 菌 性 髄 膜 炎	そ の 他	合 計
インフルエンザ AH1pdm09						41			35	76
インフルエンザ AH3						40			11	51
インフルエンザ B						50			9	59
パラインフルエンザ 1									8	8
パラインフルエンザ 2									1	1
パラインフルエンザ 3									12	12
R S	13					1			27	41
ヒトメタニューモ						3			35	38
ポリオ 1			2						2	4
ポリオ 2									1	1
コクサッキー - A5					1				1	2
コクサッキー - A6				17	2				13	32
コクサッキー - A9									2	2
コクサッキー - A10			1	4	1				7	13
コクサッキー - A16				18					1	19
コクサッキー - B1				1	1				5	7
エコ - 3									1	1
エコ - 6								2	1	3
エコ - 9									2	2
パレコ 1									3	3
パレコ 3			2						8	10
ライノ									45	45
アデノ 1									1	1
アデノ 2									5	5
アデノ 3		2							17	19
アデノ 4		2							1	3
アデノ 5									2	2
アデノ 6						1			1	2
アデノ 40 / 41			3							3
アデノ（型未決定）		3					8		20	31
単純ヘルペス 1					2				3	5
ヒトヘルペス 6									1	1
ロ タ			5							5
ノ 口			14							14
サ ポ			4							4
平成23年計	13	7	31	40	7	136	8	2	281	525

3 - 3 横浜市衛生研究所（月別）

検出ウイルス	平成21年	平成22年	平成23年												合計	
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
インフルエンザ AH1pdm09	181	122	52	22		2										76
インフルエンザ AH1	70															
インフルエンザ AH3	27	21	20	19	3	2	2					3		2		51
インフルエンザ B	65	2	3	24	13	17	2									59
バラインフルエンザ 1											2	2	1	3		8
バラインフルエンザ 2		1								1						1
バラインフルエンザ 3							4	8								12
R S	10	65	3	4	1	4		1	6	7	2	2	3	8		41
ヒトメタニューモ	18	14	1			6	7	8	3	5	8					38
ポリオ 1		1			2							2				4
ポリオ 2	1	1					1									1
コクサッキー - A2	6	9														
コクサッキー - A4	1	27														
コクサッキー - A5		2									2					2
コクサッキー - A6	6	24					1	2	16	8	4	1				32
コクサッキー - A9	7											1		1		2
コクサッキー - A10	6							1	3	5	2	2				13
コクサッキー - A16	1							1	1	5	4	5	1	2		19
コクサッキー - B1									1	1	5					7
コクサッキー - B2		6														
コクサッキー - B3	1															
コクサッキー - B4	1	8														
エコ - 3	1	4			1											1
エコ - 6												2		1		3
エコ - 9											1		1			2
エコ - 18	5															
エコ - 25		1														
エンテロ 68		5														
エンテロ 71	8	5														
パレコ 1		2								1	1	1				3
パレコ 3							1	3	6							10
ライノ	5	28		2		6	10	7	1	2	3	6	4	4		45
ムンプス		4														
アデノ 1	1	3												1		1
アデノ 2	10	8			1				2	1			1			5
アデノ 3	5	1			3			3	3	3		3	2	2		19
アデノ 4												2		1		3
アデノ 5	2	3					1		1							2
アデノ 6	5				2											2
アデノ 19		1														
アデノ 31		1														
アデノ 37	2	1														
アデノ 40 / 41	2	3						1					1	1		3
アデノ（型未決定）	1	19	1	3		3	3	5	7			2	4	3		31
単純ヘルペス 1	2	3		1						1		1	2			5
ヒトヘルペス 6	1	2								1						1
ロ タ	3	3		2		2	1									5
ノ 口	8	14	3		2									9		14
サ ボ	1	1				1	2	1								4
パルボウイルス B19	13	10														
ヒト コロナ OC43		5														
未 同 定	1															
計	477	430	83	77	19	52	35	41	50	41	34	35	20	38		525

3 - 4 川崎市衛生研究所（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	デング熱	麻疹	感染性胃腸炎	手足口病	インフルエンザ様	流行性角結膜炎	無菌性髄膜炎	その他	合計
インフルエンザ AH1pdm09					87				87
インフルエンザ AH3					31				31
インフルエンザ B					18				18
コクサッキー - A6				9					9
コクサッキー - A16				3					3
コクサッキー - B4							1		1
コクサッキー - B5							1		1
エコ - 6							4		4
ムンプス							1		1
麻疹		2							2
アデノ 8						22			22
アデノ 40 / 41			1						1
単純ヘルペス 1				1					1
サイトメガロ								3	3
ノロ			35						35
デング	3								3
平成23年計	3	2	36	13	136	22	7	3	222

3 - 4 川崎市衛生研究所（月別）

月 検出ウイルス	平成 21年	平成 22年	平成23年												合計	
			1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月		
インフルエンザ AH1pdm09	555	61	67	18	1	1										87
インフルエンザ AH1	81															
インフルエンザ AH3	50	11	11	15	1		2							2		31
インフルエンザ B	30	3	1	10	2	2	3									18
コクサッキー - A2		1														
コクサッキー - A4		1														
コクサッキー - A6		1						4	4	1						9
コクサッキー - A16		2								2	1					3
コクサッキー - B3	1															
コクサッキー - B4										1						1
コクサッキー - B5											1					1
エコ - 6													2	2		4
エコ - 9	1															
エコ - 11	1															
エコ - 25		2														
エンテロ 71	4	4														
ライノ		1														
ムンプス	1	4											1			1
麻疹					2											2
アデノ 1		1														
アデノ 3	1	5														
アデノ 8		1								6	16					22
アデノ 37	2	1														
アデノ 40 / 41													1			1
アデノ（型未決定）	3	1														
単純ヘルペス 1	1														1	1
サイトメガロ				3												3
ロ タ	1	4														
ノ ロ	68	51	13	3	3		1							7	8	35
デ ン グ											2	1				3
計	800	155	92	49	7	5	6	4	10	20	4	3	9	13		222

3 - 5 相模原市衛生試験所（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	麻しん	感染性胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	インフルエンザ様	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	合計
インフルエンザ AH1pdm09						23			23
インフルエンザ AH3						11			11
インフルエンザ B						11			11
麻疹	2								2
アデノ 2		1							1
アデノ 3								1	1
アデノ 37								1	1
アデノ 54								1	1
ロ タ		5							5
ノ 口		80							80
サ ポ		1							1
平成23年計	2	87				45		3	137

3 - 5 相模原市衛生試験所（月別）

年・月 検出ウイルス	平成21年	平成22年	平成23年												合計	
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
インフルエンザ AH1pdm09	84	63	5	16	1	1										23
インフルエンザ AH1	3															
インフルエンザ AH3	10	3		4	6	1										11
インフルエンザ B	2			2	3	3	3									11
麻疹						2										2
アデノ 2		1													1	1
アデノ 3		1							1							1
アデノ 37	2	2		1												1
アデノ 54												1				1
アデノ中間型 15/H9		1														
アデノ（型未決定）	1															
ロ タ		5		1		1	1	2								5
ノ 口	50	71	2	2			1	5	46			1	5	19		80
サ ポ		2	1													1
計	152	149	8	26	10	8	9	49				2	5	20		137

3 - 6 横須賀市健康安全科学センター（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	麻しん	感染性胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	インフルエンザ様	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	合計
インフルエンザ AH1pdm09						83			83
インフルエンザ AH3						87			87
インフルエンザ B						10			10
アデノ（型未決定）								5	5
ノ 口		83							83
平成23年計		83				180		5	268

3 - 6 横須賀市健康安全科学センター（月別）

月 検出ウイルス	平成21年	平成22年	平成23年												合計	
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
インフルエンザ AH1pdm09	145	71	71	11	1											83
インフルエンザ AH1	28															
インフルエンザ AH3	11	9	24	43	19										1	87
インフルエンザ B		4	2	4	4											10
アデノ（型未決定）									3	2						5
ノ 口	46	27	31	9	3	1			1						38	83
計	230	111	128	67	27	1			4	2					39	268

3 - 7 藤沢市保健所（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	麻しん	感染性胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	インフルエンザ様	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	無菌性髄膜炎	合計
インフルエンザ AH1pdm09						49				49
インフルエンザ AH3						11				11
インフルエンザ B						4				4
コクサッキー - B5									1	1
ムンプス									1	1
風疹*	2									2
ノ 口		28								28
サ ポ		3								3
平成23年計	2	31				64			2	99

* 麻しんを疑う患者検体からの検出

3 - 7 藤沢市保健所（月別）

年・月 検出ウイルス	平成21年	平成22年	平成23年												合計
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
インフルエンザ AH1pdm09	108	19	27	21	1										49
インフルエンザ AH1	9														
インフルエンザ AH3	8	6	2	3	1							5		11	
インフルエンザ B		1		1	3									4	
コクサッキー - B5	1								1					1	
エコ - 11	2														
エコ - 25		1													
ムンプス		4	1											1	
風疹*							1	1						2	
アデノ 1	1														
ノ 口	52	45	14	4	3		1	2		1			1	2	28
サ ポ							2	1							3
計	181	76	44	29	8		4	4	1	1		5	1	2	99

* 麻しんを疑う患者検体からの検出

4 病原細菌検出状況表（ヒト由来、月別）

4 - 1 神奈川全県

年・月 菌種・菌型	平成21年		平成22年		平成23年												合計										
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち海外渡航者									
					うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者			うち海外渡航者								
腸管出血性大腸菌(EHEC)	125		156		4				3	11	19	14	22	22	8	5	4	112									
毒素原性大腸菌(ETEC)	10	6	12	1	1			1	1	1	1		8	45	1	1	1	59	3								
病原血清型大腸菌(EPEC)	17		15			1			3	3	1	3	1			1	2	15									
他の下痢原性 E.coli	35													1				1									
チフス菌			3	1																							
パラチフス A菌	3	3	2	2		2	2			1	1							3	3								
サルモネラ 04群	15		4							5				2		1	1	9									
サルモネラ 07群	7		7		1	1		1	1	3	4	3	1			1	1	17									
サルモネラ 08群	2		1									1	1					2									
サルモネラ 09群	13		22				2			11		1	4	5				23									
サルモネラ 03,10群								1					1					2									
サルモネラ 01,3,19群			1																								
サルモネラ 039群							2											2									
コレラ菌 01	1	1					1	1					1					2	1								
コレラ菌 01 (CT(-))	1	1																									
コレラ菌 non-01 & 0139	3		1	1										2				2									
腸炎ビブリオ	8		2										1					1									
エロモナス ハイドロフィラ			2																								
エロモナス ソブリア																	1	1									
エロモナス キャビエ	4		5							1								1									
カンピロバクター ジェジュニ	126		95		5	2	14	7	10	19	6	11	10	5	13	8	110										
カンピロバクター コリ	9		6						2	2		1				1		6									
カンピロバクター ジェジュニ/コリ	1		1																								
黄色ブドウ球菌	18		23						2	5	2	2	1	1	3	1	17										
A型ウエルシュ菌	29		1								11			88			99										
破傷風菌			1																								
セレウス菌	4		10																								
枯草菌			1																								
赤痢菌フレキシネル	2	1	3	3		1								1	1			3									
赤痢菌ソソネ	12	9	7	4		1	1	2	2		1	1	1	1	1	2	2	3	1								
赤痢菌群不明			1	1																							
レンサ球菌A群	83		111		14	12	14	9	24	13	5	4	1	6	11	10	123										
レンサ球菌B群	1							3			3	6					2	14									
レンサ球菌G群			1											1			1										
レンサ球菌 上記以外の群			3																								
肺炎球菌	4		2						1	3		1				1	1	7									
エンテロコッカス フェーカリス	1																3	3									
エンテロコッカス フェシウム	1		6		14		1									2	1	18									
エンテロコッカス カセリフラブス			1																								
コリネバクテリウム ウルセランス			1																								
百日咳菌	4				1				1			4		1				7									
バラ百日咳菌	5																										
レジオネラ ニューモフィラ	3		6				1	1			4	1	2	3	1			13									
結核菌																3		3									
ウシ型結核菌	1																										
インフルエンザ菌	5		3			1		2	2	2	2	2	1				3	13									
髄膜炎菌			1																								
淋菌			1																								
マイコプラズマ ニューモニエ	7		8							1			6	6	16	8		37									
計	560	20	526	13	40	20	3	35	3	27	61	1	90	2	57	1	68	2	105	1	128	1	60	1	46	737	15

4 - 2 神奈川県衛生研究所

年・月 菌種・菌型	平成21年		平成22年		平成23年												合計	
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち海外渡航者
					うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者		
腸管出血性大腸菌(EHEC)	1		14		1					1						1	2	5
毒素原性大腸菌(ETEC)	2		1		1								8					9
他の下痢原性 E.coli	35																	
サルモネラ 07群	1				1					1	1					1	1	5
サルモネラ 09群	7		18				1					1	1	2				5
腸炎ビブリオ	4		1															
エロモナス ハイドロフィラ			2															
エロモナス ソブリア																	1	1
エロモナス キャビエ	4		4						1									1
カンピロバクター ジェジュニ	24		23		2	2	14	3	1	4	2	1	2		5	5		41
カンピロバクター コリ	3		4							2		1						3
黄色ブドウ球菌	13		1									2					1	3
セレウス菌	1		2															
赤痢菌ソクネ			1															
レンサ球菌A群	26		35		8	10	8	4	9	7	1	1	1	3	4	6		62
レンサ球菌 G群														1				1
レンサ球菌 上記以外の群			1															
肺炎球菌	3		2															
百日咳菌	3				1				1				1					7
レジオネラ ニューモフィラ			1								1	1	1	1				4
インフルエンザ菌	4		3			1												1
淋菌			1															
マイコプラズマ ニューモニエ	7		8							1			6	6	16	8		37
計	138		122		14	12	23	8	11	17	9	7	20	13	27	24		185

4 - 3 横浜市衛生研究所

年・月 菌種・菌型	平成21年		平成22年		平成23年												合計										
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち海外渡航者									
					総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者			総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者					
腸管出血性大腸菌(EHEC)	86		73		1				1	7	13	6	14	13	7	1	1	64									
毒素原性大腸菌(ETEC)	8	6	5	1					1	1	1		7	32	1	1	1	43	3								
病原血清型大腸菌(EPEC)	6		11						2	1			3	1		1	1	9									
他の下痢原性 E.coli															1			1									
チフス菌			3	1																							
パラチフス A菌	3	3	2	2		2	2				1	1						3	3								
サルモネラ 04群	1		3							5			2			1		8									
サルモネラ 07群	1		7			1		1	1	2	3	2	1					11									
サルモネラ 08群	2		1									1						1									
サルモネラ 09群	1		2							11			3	3				17									
サルモネラ 03,10群								1					1					2									
サルモネラ 01,3,19群			1																								
コレラ菌	1	1					1	1					1					2	1								
コレラ菌 non-01 & 0139	2													2				2									
腸炎ビブリオ	1																										
カンピロバクター - ジェジュニ	39		20					3	1	11		8	5	4	5	1		38									
カンピロバクター - コリ	4																										
黄色ブドウ球菌	3		11																								
A型ウエルシュ菌	11													88				88									
破傷風菌			1																								
セレウス菌			7																								
赤痢菌	2	1	3	3									1	1				2									
赤痢菌ソネ	11	8	5	3		1	1	1	1	1	1	1	2	2	3	1		10	7								
赤痢菌			1	1																							
レンサ球菌A群	54		71		3	2	6	5	12	6	4	3		3	7	4		55									
レンサ球菌B群	1							3				3	6				2	14									
レンサ球菌C群			1																								
レンサ球菌 上記以外の群			2																								
肺炎球菌	1								1	3			1			1	1	7									
エンテロコッカス フェーカリス	1																3	3									
エンテロコッカス フェシウム	1		6		14		1									2	1	18									
エンテロコッカス カセリフラブス			1																								
コリネバクテリウム ウルセランス			1																								
百日咳菌	1																										
レジオネラ ニューモフィラ	3		5					1	1		3		1	2	1			9									
結核菌																3		3									
インフルエンザ菌	1								2	2	2	2	1				3	12									
髄膜炎菌			1																								
計	245	19	244	11	18	6	3	9	2	14	30	1	57	2	22	1	49	2	65	1	112	1	23	1	17	422	14

4 - 4 川崎市衛生研究所

年・月 菌種・菌型	平成21年		平成22年		平成23年												合計	
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち海外渡航者
					総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者		
腸管出血性大腸菌(EHEC)	32		53		1			2	4	4	6	5	8	1		1	32	
毒素原性大腸菌(ETEC)			1				1					1	1				3	
病原血清型大腸菌(EPEC)	4		3							1							1	
サルモネラ 04群	1		1															
サルモネラ 07群	2											1					1	
サルモネラ 09群	3						1										1	
腸炎ピブリオ	1												1				1	
カンピロバクター ジェジュニ	28		35		3		1	2	3	3	2	3	1	2	1		21	
カンピロバクター コリ			2															
レンサ球菌A群	2		4		3				3								6	
計	73		99		7			5	9	8	9	9	13	2	2	2	66	

4 - 5 相模原市衛生試験所

年・月 菌種・菌型	平成21年		平成22年		平成23年												合計	
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち海外渡航者
					総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者		
腸管出血性大腸菌(EHEC)	3		6		1							1				3	5	
毒素原性大腸菌(ETEC)													4				4	
サルモネラ 04群	12																	
サルモネラ 08群													1				1	
サルモネラ 09群	1		1															
カンピロバクター ジェジュニ	26		11					1							1		2	
カンピロバクター コリ	2							1							1		2	
カンピロバクター ジェジュニ/コリ	1		1															
黄色ブドウ球菌			8					1	1	2		1			2		7	
A型ウエルシュ菌			1								1						1	
赤痢菌 フレキシネル						1											1	
レンサ球菌A群	1		1															
パラ百日咳菌	5																	
計	51		29		1	1			3	1	3	1	6		7		23	

4 - 6 横須賀市健康安全科学センター

年・月 菌種・菌型	平成21年		平成22年		平成23年												合計		
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち海外渡航者	
					うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者			うち海外渡航者
腸管出血性大腸菌(EHEC)	3		4							1	1	2	1					5	
病原血清型大腸菌(EPEC)	7		1			1				1	1	1						1	5
サルモネラ 04群	1																		
サルモネラ 07群	3																		
サルモネラ 09群	1		1																
サルモネラ 039群						2													2
コレラ菌 01 (CT(-))	1	1																	
コレラ菌 non-01 & 0139	1		1	1															
エロモナス キャピエ			1																
カンピロバクター ジェジュニ	4		2																
黄色ブドウ球菌	2		3											1					1
A型ウエルシュ菌	18																		
セレウス菌	3																		
枯草菌			1																
赤痢菌ソクネ	1	1																	
ウシ型結核菌	1																		
計	46	2	14	1		1	2			1	2	2	2	1	1		1		13

4 - 7 藤沢市保健所

年・月 菌種・菌型	平成21年		平成22年		平成23年												合計		
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち海外渡航者	
					うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者			うち海外渡航者
腸管出血性大腸菌(EHEC)			6									1							1
毒素原性大腸菌(ETEC)			5																
サルモネラ 04群																		1	1
腸炎ピブリオ	2		1																
カンピロバクター ジェジュニ	5		4						5	1	1							1	8
カンピロバクター コリ									1										1
黄色ブドウ球菌									1	4								1	6
A型ウエルシュ菌													10						10
セレウス菌			1																
赤痢菌ソクネ			1	1			1	1											1
計	7		18	1			1	1	7	5	12					1	2		28

地域における感染症発生状況の分析

1 ウイルス性感染症

(1) インフルエンザ

神奈川県全体のインフルエンザの報告数について、平成 23 年は 2 週から昨年に比べ大幅に増加し、4 週に流行のピークがみられた。年齢別では、10～14 歳に報告が多かった。

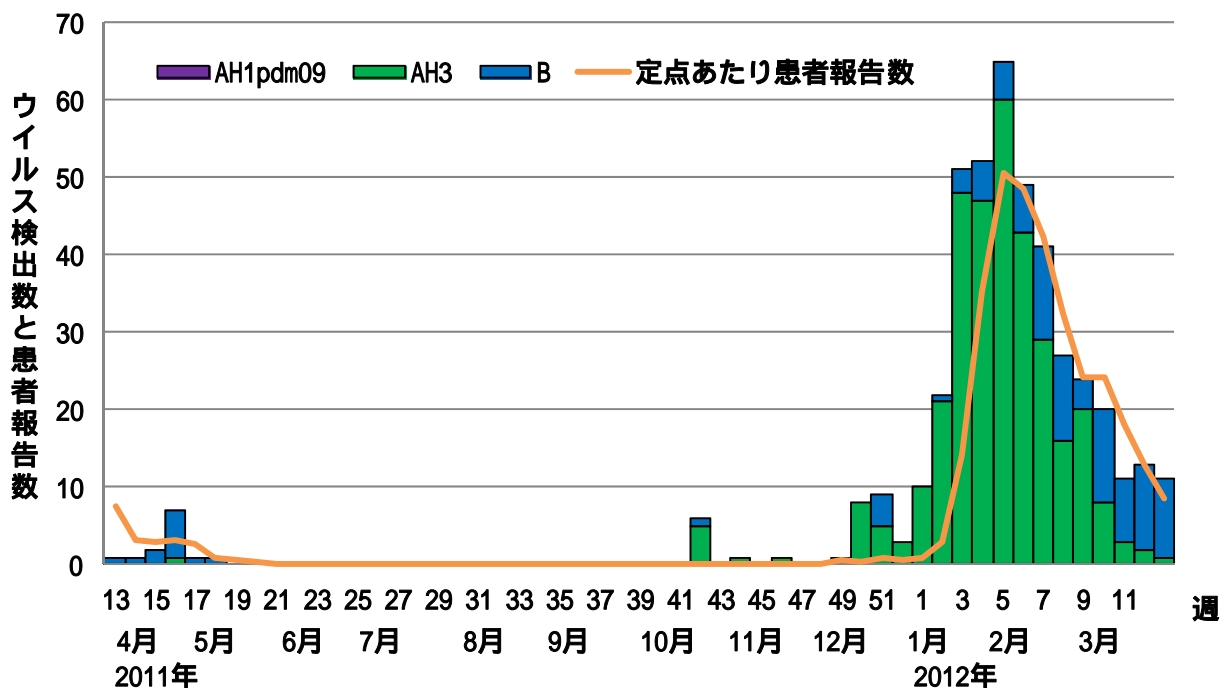
神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）のインフルエンザの動向

神奈川県衛生研究所

2011/2012 シーズンの横浜市・川崎市及び相模原市を除く神奈川県域におけるインフルエンザ患者報告数は、2011 年 51 週(12/19～25)に流行開始の目安となる定点あたり報告数が 1.0 人に迫る 0.97 人となった後、2012 年 2 週(1/9～15)以降報告数が急増して流行期に入った。定点あたり報告数のピークは 5 週(1/30～2/5)の 50.58 人であった。その後、患者数は減少傾向となり、12 週(3/19～25)に定点あたり報告数が注意報レベルの 10.0 人を下回った後は、徐々に終息に向かっていると思われる。

集団かぜ調査は、神奈川県域各保健所及び藤沢市保健所管内の 1 集団ずつを対象とし、10 集団 47 例についてインフルエンザウイルス遺伝子検出とウイルス分離を実施した。県域初発の集団かぜは 2011 年 10 月に発生し、A 香港(H3)型が検出された。12 月は A 香港(H3)型と B 型が 1 集団ずつ、2012 年 1 月は 7 集団すべてから A 香港(H3)型が検出された。

感染症発生動向調査病原体定点からの依頼検体 486 件についてインフルエンザウイルス遺伝子検出とウイルス分離を実施した。2011 年 4 月～5 月には 24 例の検査を行い A 香港(H3)型が 1 例、B 型が 12 例検出された。11 月～12 月には 20 例の検査を行い、A 香港(H3)型が 13 例検出された。2012 年 1 月～3 月には 434 例の検査を行い、A 香港(H3)型が 270 例、B 型が 81 例検出された。また、A 香港(H3)型と B 型の両方の遺伝子が検出され重複感染が疑われた症例が、1 月と 2 月に各 1 例ずつあった。



本シーズンから調査が始まった入院サーベイランスのウイルス調査は、主として基幹定点からの依頼検体についてインフルエンザウイルス遺伝子検出とウイルス分離を実施した。検体数は、10月1例、12月1例、1月4例、2月10例、3月6例の計22例であった。10月はB型1例、12月はA香港(H3)型1例、1月はA香港(H3)型1例と不検出1例、2月はA香港(H3)型8例とB型2例、3月はA香港(H3)型1例とB型5例が検出された。

インフルエンザ分離株の抗原性の変異をHI試験の成績から見ると、2011年4月～5月に分離されたB型9株は、すべてワクチン株(B/ブリスベン/60/2008)と同じビクトリア系統株であり、ワクチン株標準抗血清のホモ価と比較して、同等～2倍差が67%、4倍差が22%、8倍差が11%であった。10月以降の分離株のうち、A香港(H3)型分離株(100株)は、ワクチン株(A/ビクトリア/210/2009)標準抗血清のホモ価と比較して、同等～2倍差が2%、4倍差が20%、8倍差以上が78%であった。B型分離株は、12株が山形系統、39株がビクトリア系統であった。山形系統株は、代表株(B/バングラデシュ/3333/2007)標準抗血清のホモ価と比較して、同等～2倍差が8%、4倍差が34%、8倍差が58%であった。ビクトリア系統株は、ワクチン株標準抗血清のホモ価と比較して、4倍差が77%、8倍差が23%であった。

本シーズンは、A香港(H3)型とB型との混合流行であったが、ピーク時にはA香港(H3)型が主流となり、流行後半はB型が増えた。検出されたウイルスの内訳は、A香港(H3)型が332例(78%)、B型が93例(22%)であった。昨シーズン及び一昨シーズンに主流株となったAH1pdm09は、県域では検出されなかったが、他県では散発的に検出が報告されており、来シーズン以降に再来する可能性がある。また、本シーズンに分離されたA香港(H3)型とB型ビクトリア系統株は、ワクチン株標準抗血清のホモ価よりも8倍以上低いHI価を呈す株(抗原変異株)の割合が昨シーズンよりも増えており、今後も、抗原変異株や薬剤耐性株の動向を監視していく必要があると考える。

(渡邊寿美、佐野貴子、近藤真規子、齋藤隆行、古屋由美子)

横浜市のインフルエンザの動向

横浜市衛生研究所

平成22年度に引き続き、病原体定点サーベイランス、クラスターサーベイランス(集団かぜ調査)、入院・重症サーベイランス及び分離株に対して抗インフルエンザ薬感受性サーベイランスを実施した。各調査期間の検査合計は677件で、AH3型ウイルス179件、B型ウイルス79件が分離・検出されたが、AH1pdm09ウイルスは分離・検出されなかった(表1)。

表1 インフルエンザウイルス分離及び遺伝子検査結果

	検体数	陽性数	AH3型	B型
病原体定点調査	494	173	98*	75
クラスターサーベイランス (集団かぜ調査)	75	68	65**	3
入院・重症サーベイランス	61	8	7	1
その他 (依頼)	47	9	9	0
合計	677	258	179	79

* AH3型とB型の重複1件及びAH3型とアデノウイルスの重複2件を含む

** AH3型とヘルペスウイルスの重複1件を含む

感染症発生動向調査における平成 23 年 6 月から平成 24 年 5 月までのインフルエンザ様疾患患者数は 46,274 人と、昨シーズン同期間における 39,187 人を上回り、過去 10 年では 2009/2010 シーズンの 52,875 人に次ぐ大きな流行であった。定点あたり患者数は 1 月第 2 週に流行の目安となる定点あたり 1.0 人を超え、1 月第 5 週に 46.3 と最大の報告数となり、第 7 週まで 40.0 人を超える報告数であった。その後、3 月第 12 週には 12.8 人と減少し、4 月第 18 週に定点あたり 1.0 人を下回った(図 1)。

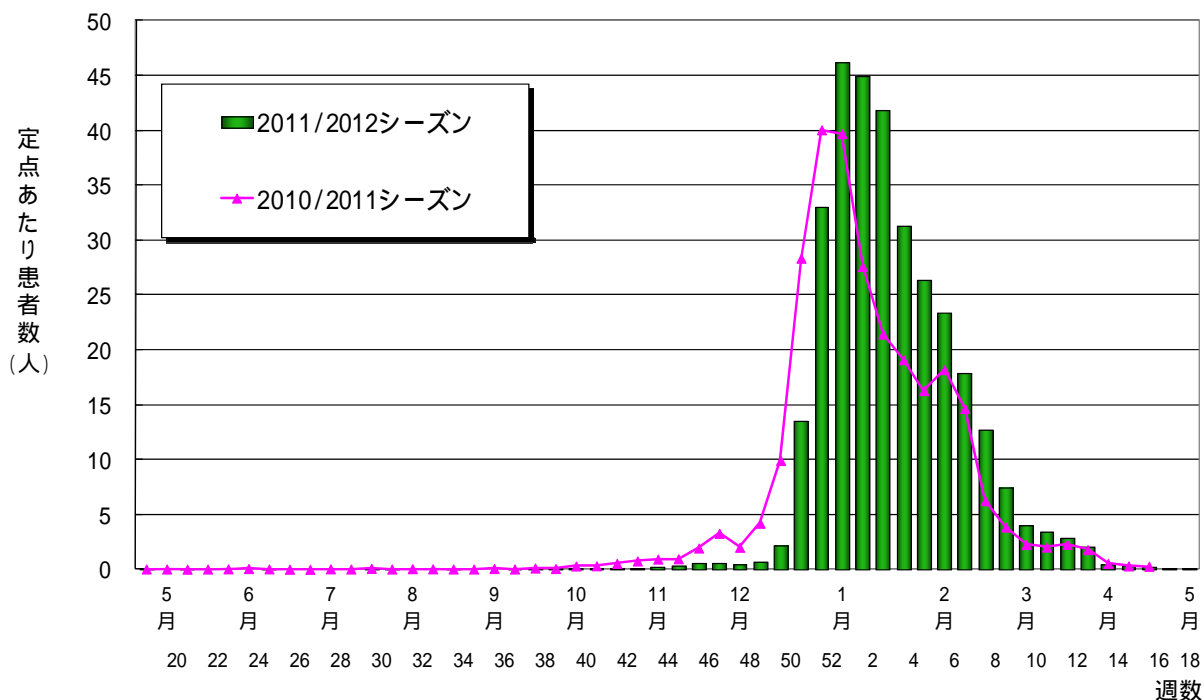


図 1 横浜市におけるインフルエンザ定点あたり患者数

集団発生を監視するクラスターサーベイランスにおいては、平成 23 年 9 月 7 日(第 36 週)に旭区の福祉施設から非流行期の報告があり、AH3 型ウイルスが分離・検出された。その後、流行期に入った 12 月(第 49 週)には磯子区の小学校で集団かぜの初発が報告され、AH3 型ウイルスが分離された。年明け後は 1 月第 3 週に市内 18 区中 11 区に発生がみられピークを示した。終息までの発生数は 18 区 754 施設 1,085 学級であった。検査依頼のあった 19 集団 75 人についてウイルス学的調査を実施し、18 集団は AH3 型ウイルス、1 集団は B 型ウイルスが分離・検出された(表 2)。

表2 集団かぜ調査の検査

発生年月日	週	区	施設	ウイルス分離			遺伝子検索					総合判定
				検体数	分離株数	ウイルス型	分離陰性 検体数	HA遺伝子 件数	NA遺伝子 件数	NA遺伝子 件数		
平成23年 9/7	第36週	旭	福祉施設	5	4	AH3 *	1	H3	1	N2	1	AH3
12/6	第49週	磯子	小学校	3	2	AH3	1	陰性	0	陰性	0	AH3
12/14	第50週	西	小学校	5	4	AH3	1	陰性	0	N2	1	AH3
平成24年 1/16	第3週	青葉	小学校	5	2	AH3	3	H3	2	N2	2	AH3
1/16	第3週	戸塚	小学校	5	1	AH3	4	H3	4	N2	4	AH3
1/17	第3週	鶴見	小学校	5	4	AH3	1	H3	1	陰性	0	AH3
1/18	第3週	都筑	保育園	3	2	AH3	1	陰性	0	陰性	0	AH3
1/18	第3週	港北	幼稚園	3	2	AH3	1	陰性	0	陰性	0	AH3
1/19	第3週	神奈川	中学校	4	4	AH3	0	- **	0	-	0	AH3
1/19	第3週	瀬谷	小学校	2	2	AH3	0	-	0	-	0	AH3
1/19	第3週	南	小学校	5	3	AH3	2	陰性	0	N2	1	AH3
1/19	第3週	中	中学校	5	5	AH3	0	-	0	-	0	AH3
1/19	第3週	旭	中学校	5	5	AH3	0	-	0	-	0	AH3
1/20	第3週	栄	小学校	2	2	AH3	0	-	0	-	0	AH3
1/23	第4週	港南	小学校	3	3	AH3	0	-	0	-	0	AH3
1/23	第4週	緑	小学校	3	3	AH3	0	-	0	-	0	AH3
1/23	第4週	金沢	小学校	5	3	AH3	2	H3	2	陰性	0	AH3
1/24	第4週	保土ヶ谷	中学校	4	3	AH3	1	H3	1	N2	1	AH3
1/31	第5週	泉	小学校	3	3	B	0	-	0	-	0	B
合計		18区	19施設	75件	57株	AH3型 54 B型 3	18件	H3	11	N2	10	AH3型:18施設 B型:1施設

*1件はヘルペスウイルス1型との重複感染

**遺伝子検査のうち - は未実施

入院・重症サーベイランスにおいては、平成23年9月から平成24年5月までの9ヶ月間に108件を検査した。シーズン初めの10月には、タイからの輸入例でAH3型ウイルスが1株分離された。最終的に分離・検出されたのは16件(AH3型ウイルス15件、B型ウイルス1件)であった。このうち、インフルエンザウイルスを確定した入院例は、脳症4例(AH3型ウイルス3件、B型ウイルス1件)、肺炎3例(AH3型ウイルス3件)で、死亡例はB型ウイルスが分離された脳症の1例であった。インフルエンザ以外のウイルスではコクサッキーウイルスB5型2件、エコーウイルス6型2件、ライノウイルス3件、コクサッキーウイルスB1型1件、アデノウイルス2型1件、アデノウイルス3型1件、RSウイルス1件、ヘルペスウイルス6型1件、コクサッキーA10型1件、パレコウイルス3型1件が分離・検出された。

病原体定点ウイルス調査においては、平成23年9月から平成24年5月までの9ヶ月間に494件(鼻咽頭検体442件、便由来検体35件、気管支吸引液6件、嘔吐物3件、喀痰1件、不明7件)を検査し、AH3型ウイルス98件、B型ウイルス75件が分離・検出された。このうち重感染は、AH3型ウイルスとB型ウイルスの1件とAH3型ウイルスとアデノウイルスの2件であった。今シーズンは10月第41週に港北区の定点からAH3型ウイルスの遺伝子が検出され、第42週に磯子区の定点からAH3型ウイルスがはじめて分離された。その後、AH3型ウイルスは12月から分離され始め、1月第4週をピークに5月第19週まで分離・検出された。一方、B型ウイルスは1月第2週に磯子区の定点から山形系統のB型ウイルスが、1月第3週に瀬谷区の定点からVictoria系統のB型ウイルスが分離された。B型ウイルスは両系統のウイルスが混在したまま、2月第9週をピークに5月第20週まで分離・検出が続いた(図2)。

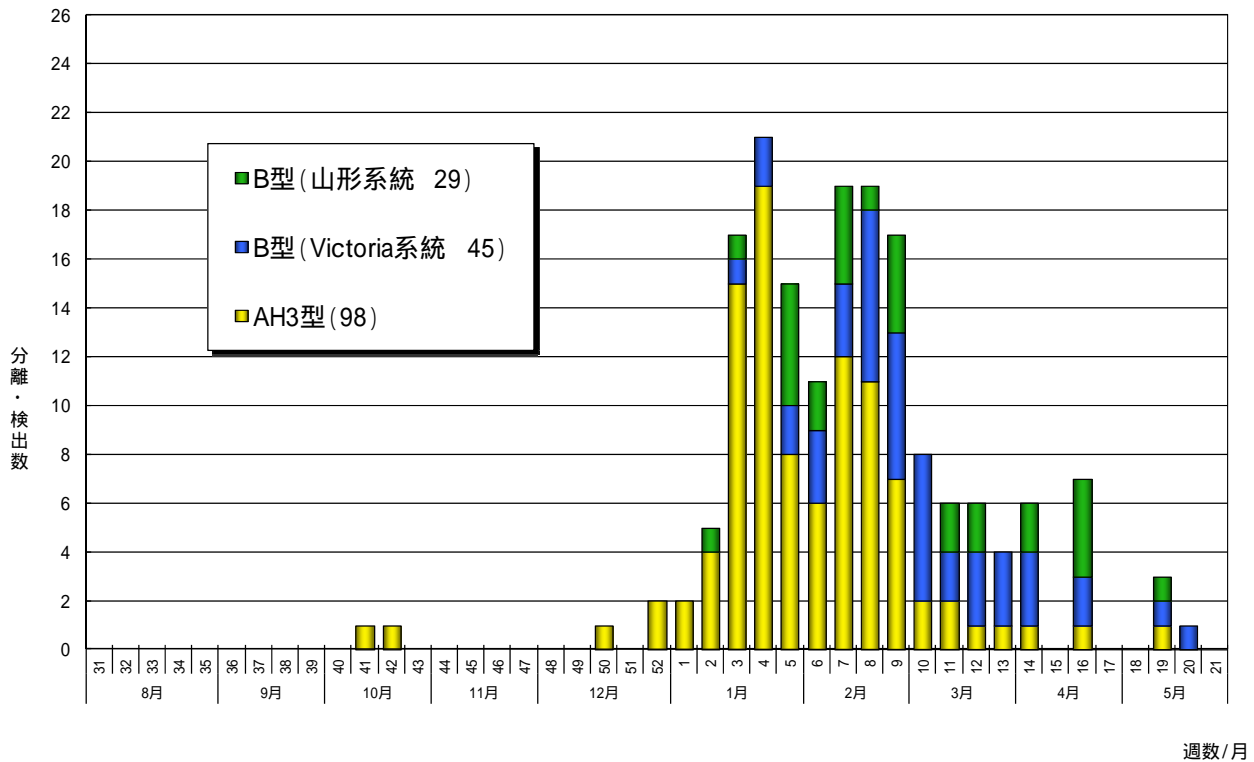


図2 病原体定点等分離・検出状況

全調査で分離したウイルスの抗原性状は、AH3型ウイルスは40.0%(154株中61株)がワクチン株であるA/Victoria/210/2009とHI価が類似していたが、60%は低い反応性を示した。B型ウイルスのうち、Victoria系統のウイルスは68%(94株中64株)がワクチン株であるB/Brisbane/60/2008と類似していたが、HI価で8倍以上差があるウイルスが32%(30株)にみられた。山形系統のウイルスはレファレンス株であるB/Bangladesh/3333/2007と90%が同等の性状であった(図3)。

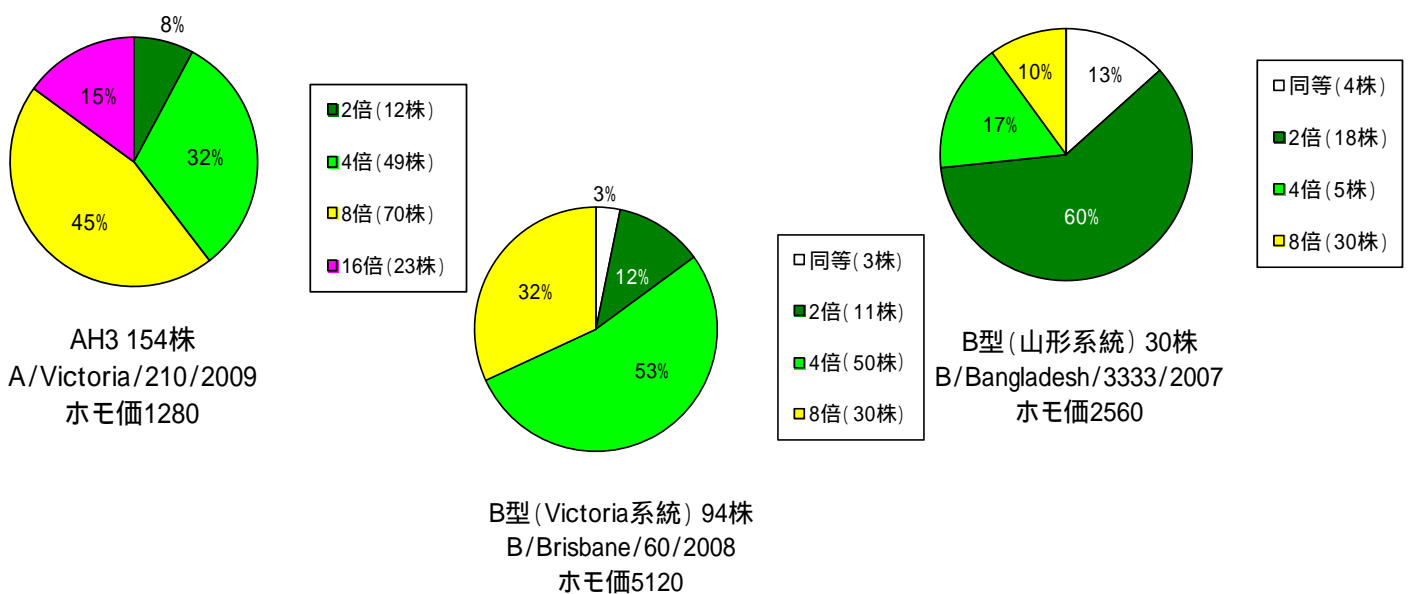


図3 2011/2012シーズン分離株の抗原性状(ワクチン株に対するHI価)

抗インフルエンザ薬感受性サーベイランスでは、AH3 型ウイルス 114 株、B 型ウイルス 43 株について既知の薬剤耐性マーカーを検索した。AH3 型ウイルスは M 遺伝子においてはアマンタジン耐性変異 (S31N) をもっていたが、NA 遺伝子では耐性変異はみられなかった。また、B 型ウイルスの NA 遺伝子においても耐性変異はみられなかった。

以上のように横浜市におけるインフルエンザの流行は AH3 型ウイルスと B 型ウイルスによる大規模な混合流行であった。AH3 型ウイルスは抗原変異が進んだ株が 60% を占めた。Victoria 系統の B 型ウイルスはワクチン株と低い反応性を示す株が 30% にみられたが、山形系統の B 型ウイルスはレファレンス株と類似した性状であった。今シーズンはこれまでのオセルタミビル、ザナミビルに加え、新規のペラミビル、ラニナミビルの抗インフルエンザ薬が認可され使用されたが、耐性変異したウイルス株は見られなかった。

(川上千春、百木智子、七種美和子、宇宿秀三、森田昌弘、水野哲宏)

川崎市のインフルエンザの動向

川崎市衛生研究所

・ 川崎市におけるインフルエンザ様疾患の発生状況

本市の感染症発生動向調査におけるインフルエンザ様患者の発生状況(図 1)によると、24 年 1 月の第 2 週に定点あたりの患者数が 1.0 人を超えた。その後次第に患者数は増加し、24 年 2 月の第 5 週に定点あたりの患者数が 47.1 人とピークを迎えた。定点あたりの患者数が 1.0 人を下回ったのは 5 月の第 18 週で、過去 3 年間で総患者数の最も多い流行であった。

・ インフルエンザウイルス分離状況

平成 23 年度は、合計 144 例のインフルエンザ様疾患患者の咽頭ぬぐい液及び鼻腔ぬぐい液が搬入され、そのうち 133 例(92.4%、うち混合感染 4 例)からインフルエンザウイルスが分離された。血清型別では、AH1pdm09 が 1 株、A 香港型 (H3N2) が 88 株、B 型 (ビクトリア系統) が 38 株、B 型 (山形系統) が 6 株分離され、混合感染のため分離不可能だったものが 4 株あった。また、A 香港型 (H3N2) が全体の 66.2% を占めた。

週別のインフルエンザウイルス分離状況(図 2)では、初めてウイルスが分離されたのは 23 年 4 月の第 14 週で B 型 (ビクトリア系統) であった。分離数が増加したのは 24 年 1 月からで、第 5 週に 26 株とピークを迎え、その 88.46% が A 香港型 (H3N2) であった。翌週以降は B 型の割合が増え、分離数は漸減している。

年代別の分離状況 (図 3) では、A 香港型 (H3N2) が全年齢層で多くみられた。B 型は主に 30 代以下でみられ、0~12 歳 (乳児から学童までの年齢) で多く検出された。今期のインフルエンザ様疾患患者からは、3 血清型が分離され、A 香港型 (H3N2) が最も多く B 型との混合流行であり、A(H1N1)pdm09 亜型は 1 株のみの分離であった。また、B 型では 2 系統が検出され、その比は 19(ビクトリア系統) : 3(山形系統) とビクトリア系統が流行の主流であった。

(中島関子、清水英明)

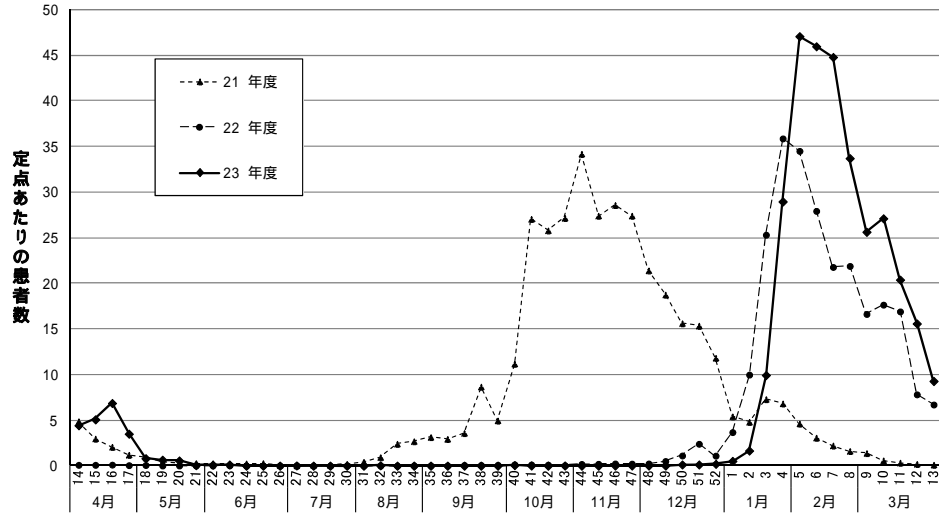


図1 インフルエンザ発生状況(3年間)

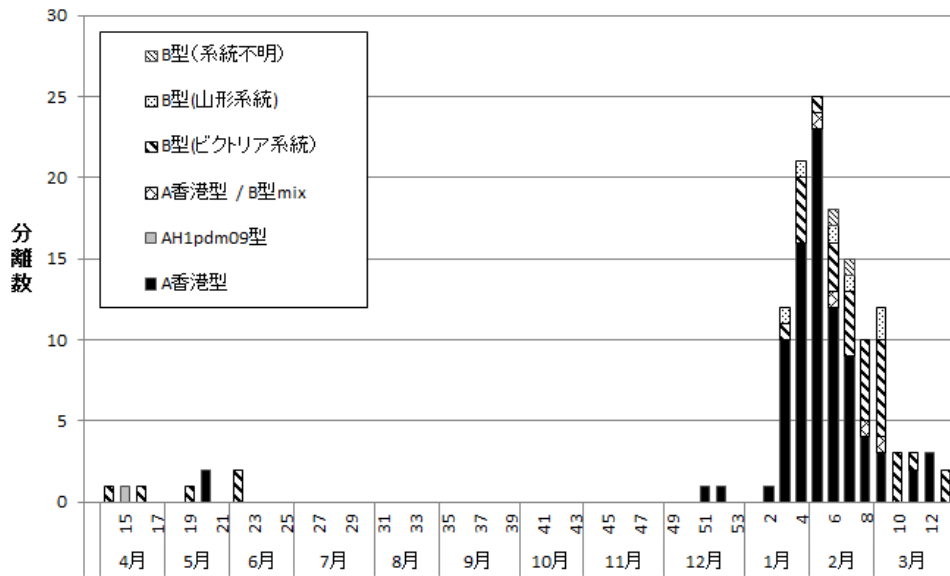


図2 週別インフルエンザウイルス分離状況

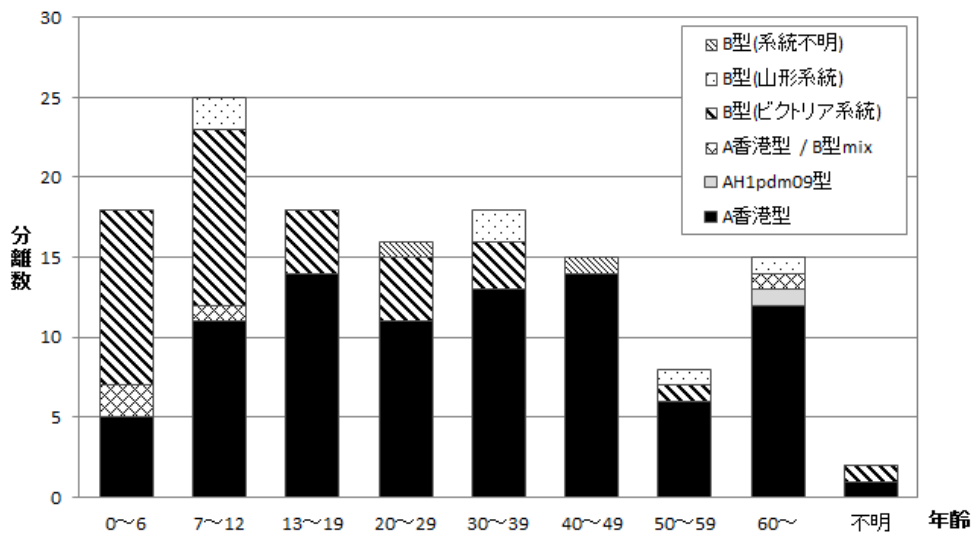


図3 年代別インフルエンザウイルス分離状況

インフルエンザ感受性調査

神奈川県衛生研究所

2011年9～10月に採取された0歳以上の県民285名(0～4歳54名、5～9歳26名、10～14歳26名、15～19歳24名、20～29歳45名、30～39歳45名、40～49歳22名、50～59歳24名、60歳以上19名)の血清について、赤血球凝集抑制試験を用いてインフルエンザ各型に対する年齢別抗体保有状況を調査した。使用抗原は、A/カリフォルニア/7/2009、A/ビクトリア/210/2009、B/プリズペン/60/2008、B/ウィスコンシン/1/2010の4種類である。抗体保有率は、最低血清希釈倍数の10HI価と、重症化予防の目安と考えられる40HI価の2点で集計した。

A/カリフォルニア/7/2009は、一昨シーズンからAH1pdm09のワクチン株に採用されている株である。本株に対する抗体保有率は、10HI価でみると最高が15～19歳の91.7%、最低が0～4歳の48.1%、40HI価でみると最高が10～14歳の73.1%、最低が0～4歳の25.9%であった。40HI価以上の抗体保有率は前年調査時よりも全体的に高くなっており、また、全年齢群における平均抗体保有率(40HI価以上)も48.8%と使用抗原4種類の中で最も高く、過去2シーズンの流行を反映していると考えられた。(図1)

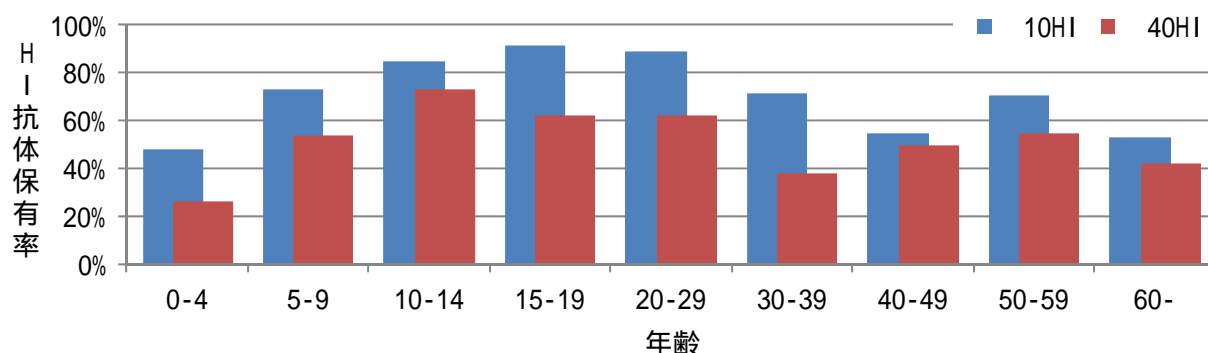


図1 A/カリフォルニア/7/2009 抗体保有率

A/ビクトリア/210/2009は、昨シーズンからA香港(H3)型のワクチン株に採用されている株である。本株に対する抗体保有率は、10HI価でみるとすべての年齢群で80%以上であったが、40HI価でみると最高が10～14歳の50.0%、最低が60歳以上の10.5%であった。40HI価以上の抗体保有率は、前年調査時よりも全体的に高くなっており、また、全年齢群における平均抗体保有率(40HI価以上)は32.6%と使用抗原4種類の中で2番目に高く、前シーズンの流行を反映していると考えられた。(図2)

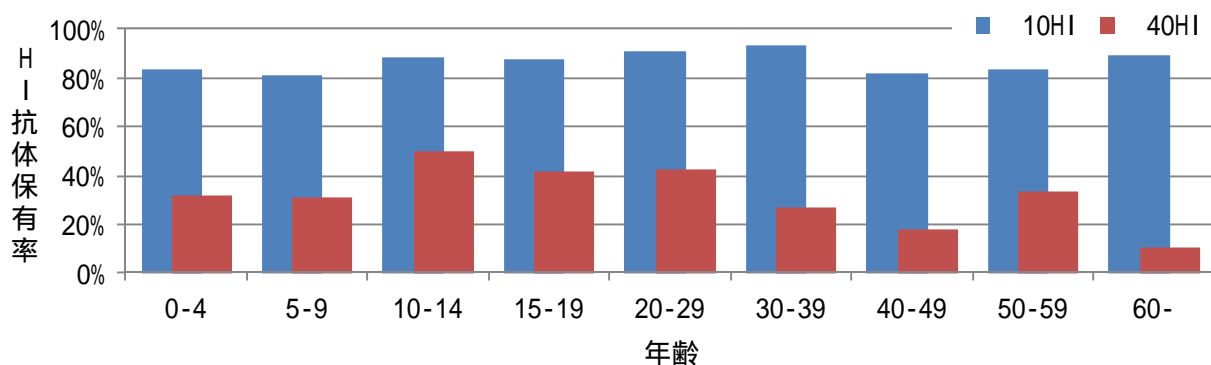


図2 A/ビクトリア/210/2009 抗体保有率

B/ブリスベン/60/2008 は、一昨シーズンから B 型のワクチン株として採用されている株であり、“ビクトリア系統”に属する。本株に対する抗体保有率は、10HI 価でみるとすべての年齢群で 79%以上であったが、40HI 価でみると最高が 10～14 歳の 42.3%、最低が 0～4 歳の 13.0%であった。40HI 価以上の抗体保有率は前年調査時よりも全体的に高くなっており、前シーズンの流行を反映していると考えられた。全年齢群における平均抗体保有率（40HI 価以上）は 27.7%であった。（図 3）

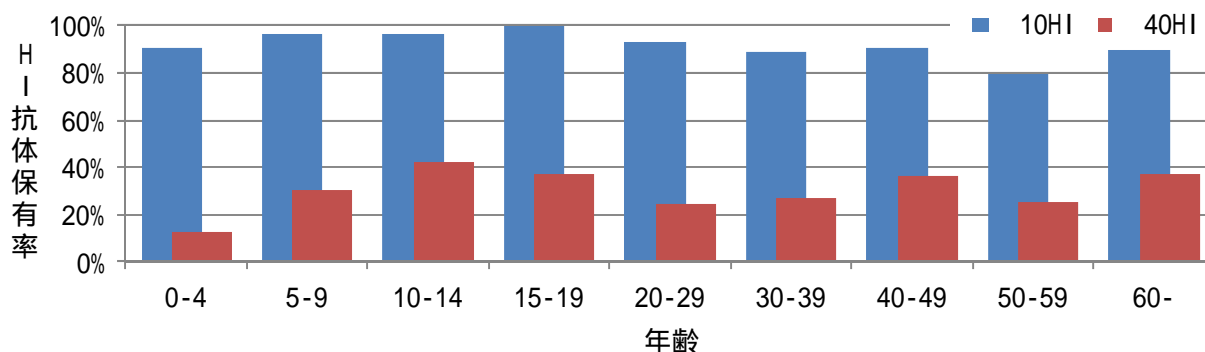


図 3 B/ブリスベン/60/2008 抗体保有率

B/ウィスコンシン/1/2010 は、“山形系統”の標準株であるが、ワクチン株として使用されたことはない。本株に対する抗体保有率は、10HI 価でみると最高が 20～29 歳の 60.0%、最低が 0～4 歳の 11.1%、40HI 価でみると最高が 15～19 歳の 20.8%、0～14 歳及び 40～59 歳は 0.0%であった。40HI 価以上の抗体保有率は前年調査時よりも全体的に低くなっており、全年齢群における平均抗体保有率(40HI 価以上)は 4.9%であった。（図 4）

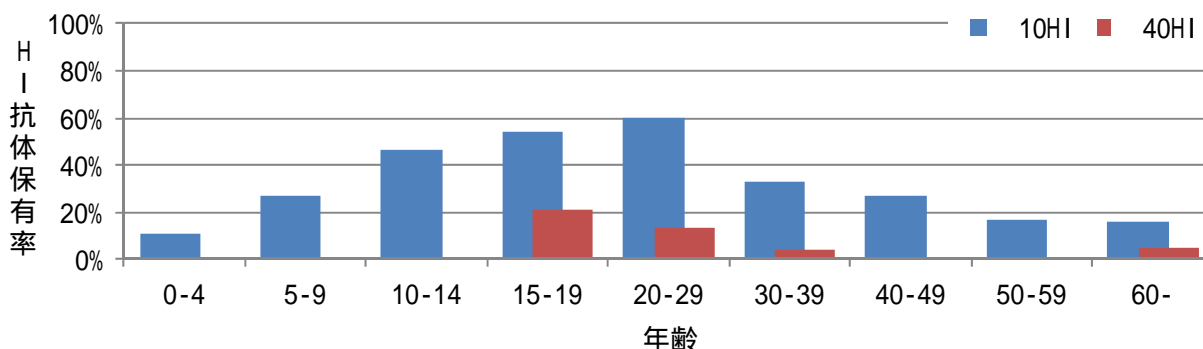


図 4 B/ウィスコンシン/1/2010 抗体保有率

神奈川県における インフルエンザの前シーズンの流行は AH1pdm09 が主流株で A 香港(H3)型及び B 型（ビクトリア系統）との混合流行であった。そのため、各型に対する抗体保有率が前年よりも高くなる傾向にあったと考えられた。しかしながら、40HI 価以上の抗体保有率が比較的低い（25%未満）年齢層においては、インフルエンザウイルス各型に対する感受性者が多くいると考えられ、ワクチン接種による免疫強化が必要であると思われた。

（渡邊寿美、近藤真規子、古屋由美子）

(2) HIV/エイズ

神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）における HIV 検査の実施状況
神奈川県衛生研究所

神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）では、昭和 62 年 2 月より保健所において HIV 抗体検査の受付が開始され、当所で検査を行っている。平成 5 年 4 月からは HIV 抗体検査が無料化され、同年 8 月からは HIV-1 型抗体検査に加え、HIV-2 型抗体検査も実施可能となった。平成 11 年 8 月からは厚生労働省「HIV 検査体制研究班」の協力により、夜間検査を行っている大和保健福祉事務所の検体について核酸増幅スクリーニング（NAT）検査を実施している。平成 17 年 8 月からは HIV 即日検査機関として横浜 YMCA（厚木）で日曜日に「神奈川県即日検査センター」（以下、即日検査センターと略）を開設、平成 18 年 4 月からは平塚保健福祉事務所、6 月からは厚木、茅ヶ崎、小田原各保健福祉事務所においても即日検査を開始した。また、平成 19 年 11 月から秦野保健福祉事務所において、HIV 検査受検者で性感染症検査を希望する人に対し、梅毒抗体検査、性器クラミジア抗体検査を実施している。

HIV 検査数は、検査が無料化された平成 5 年をピークに年々減少傾向であったが、全国的に即日検査の導入が始まった平成 16 年以降、当県でも検査数が増加し始め、平成 17 年の即日検査センターの設置、平成 18 年の保健福祉事務所への即日検査の導入により検査数が急激に増加した（図 1）。しかし、平成 19 年の検査数 3,080 件をピークに、平成 20 年 3,047 件、平成 21 年 2,951 件、平成 22 年 2,572 件、平成 23 年 2,405 件と減少傾向が続いている。

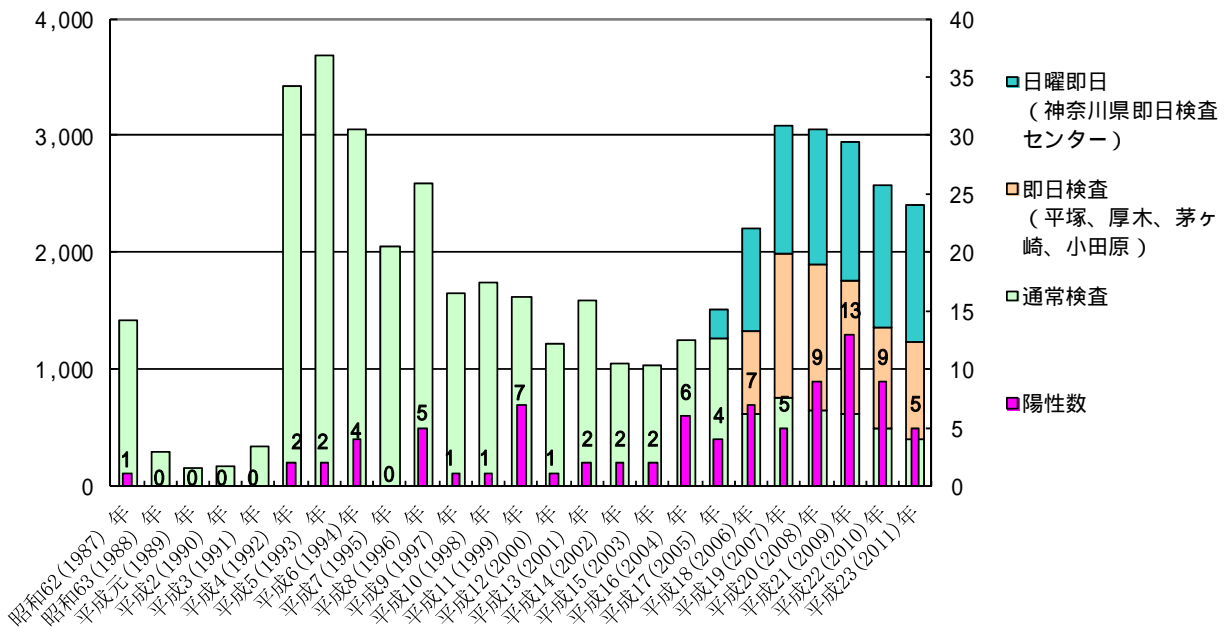
平成 23 年の検査種類別による検査数は、日曜即日検査は 1,176 件、保健福祉事務所の即日検査は 824 件、大和保健福祉事務所の平日及び夜間通常検査は 261 件、その他の保健所の平日通常検査では 144 件であった（表 1）。前年と比較し、即日検査センターは 3.3%減、即日検査を実施している保健福祉事務所では 5.5%減、通常検査を実施している保健福祉事務所では 5.9%減と微減であったが、夜間検査を実施している大和保健福祉事務所では 21.1%と大きく減少した。HIV 陽性数は 5 例であり、陽性率も 0.2%と前年より減少した。月別の検査数推移では、保健所では 11 月を除いた 4 月から 12 月までが前年の検査数を下回り（図 2-1）、即日検査センターでも 6 月を除いた 3 月から 9 月までが前年の検査数を下回っていた（図 2-2）。これらは、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災による影響と推測された。

HIV 陽性例の型別を調べたところ、すべて HIV-1 型であった。性別及び国籍は、男性が 4 例で日本国籍 3 例、外国籍 1 例、女性は 1 例で外国籍であった。HIV-1 型サブタイプ型別は、日本国籍男性はすべてサブタイプ B であり、外国籍男性 1 例及び外国籍女性 1 例からはサブタイプ B と CRF01_AE の両方の遺伝子が検出され、重複感染あるいは組み換えウイルスの感染であることが推測された（表 2）。サブタイプ B は欧米から 1980 年代中頃に日本に流入し、非加熱血液製剤による感染例や男性同性間の性的接触による感染例の主流株となっている。CRF01_AE はタイ型として知られており、異性間の性的接触や東南アジア等の出身の外国籍感染者に多く検出されている。昨年、当所では研究協力医療機関からサブタイプ型別を依頼された日本国籍男性の 3 例からサブタイプ B と CRF01_AE の組み換え体あるいは重複感染例を検出しており、今後このような新たな組み換えウイルスの流行が危惧される。

全国的に保健所での HIV 検査数が減少している中、早期発見・早期治療は感染者の予後を改善し、社会においても感染拡大の防止につながることから、神奈川県ではさらなる HIV 検査体制を強化していくとともに、HIV 陽性例のサブタイプ型別等の解析により、新たな組み換えウイルスの出現を監視してい

く必要があると考える。

(佐野貴子、近藤真規子、渡邊寿美、齋藤隆行、古屋由美子)



*相模原市平成12年4月から、藤沢市平成18年4月から保健設置市となった。
 *津久井市平成19年4月に相模原市に統合された。
 *神奈川県即日検査センターは平成17年8月、平塚保健福祉事務所は平成18年4月、厚木・茅ヶ崎・小田原保健福祉事務所は平成18年6月から即日検査を開始した。

図1 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市）での HIV 検査数、陽性数の年次推移

表1 HIV 検査種類別による検査数、陽性数（平成20-23年）

検査種類別	平成20年			平成21年			平成22年			平成23年		
	検査数	陽性数	陽性率 (%)	検査数	陽性数	陽性率 (%)	検査数	陽性数	陽性率 (%)	検査数	陽性数	陽性率 (%)
日曜即日検査 (即日検査センター)	1,146	4	0.3%	1,198	6	0.5%	1,216	5	0.4%	1,176	2	0.2%
即日検査* (4保健福祉事務所)	1,258	2	0.2%	1,132	2	0.2%	872	4	0.5%	824	2	0.2%
平日・夜間通常検査 (大和保健福祉事務所)	393	3	0.8%	409	3	0.7%	331	0	0.0%	261	1	0.4%
平日通常検査** (4保健福祉事務所)	250	0	0.0%	212	2	0.9%	153	0	0.0%	144	0	0.0%
合計	3,047	9	0.3%	2,951	13	0.4%	2,572	9	0.3%	2,405	5	0.2%

*平塚、小田原、茅ヶ崎、厚木保健福祉事務所

**鎌倉、秦野、三崎、足柄上保健福祉事務所

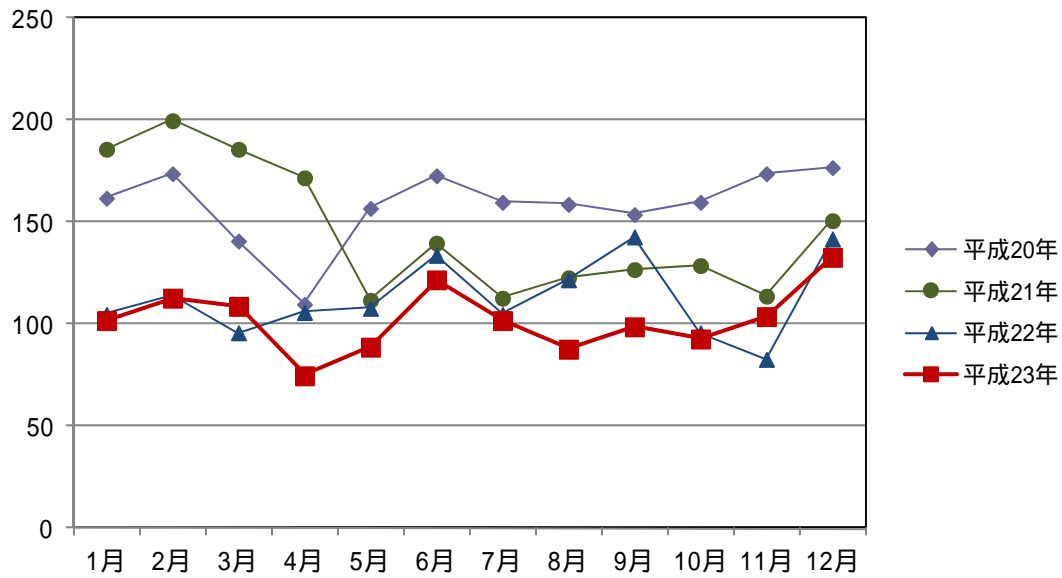


図 2-1 保健所における月別検査数推移 (平成 20-23 年)

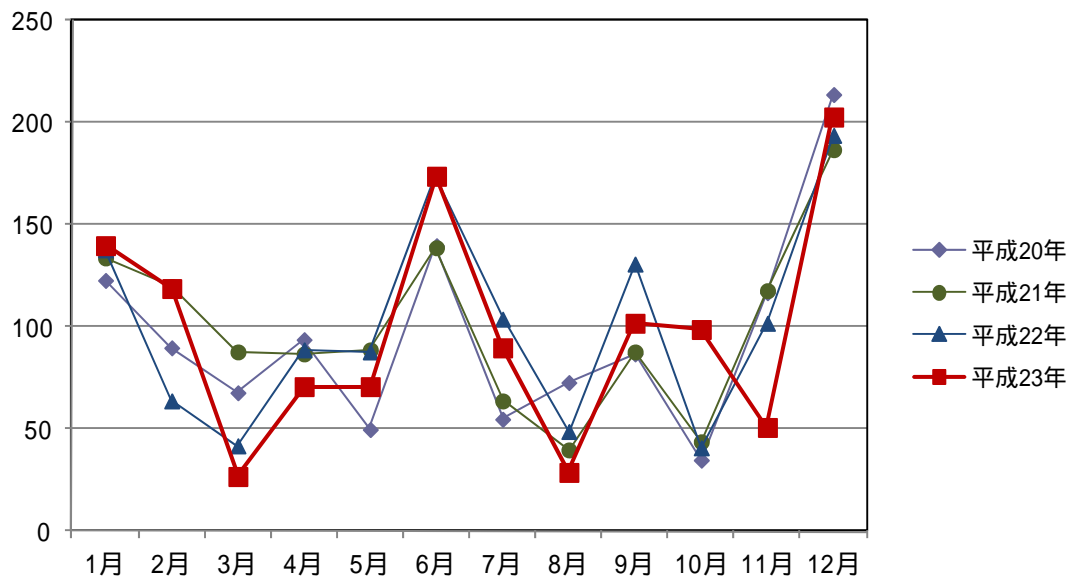


図 2-2 即日検査センターにおける月別検査数推移 (平成 20-23 年)

表 2 HIV 陽性例の HIV-1 型サブタイプ型別 (平成 18-23 年)

陽性数	サブタイプB				CRF01_AE				サブタイプB/CRF01_AE				不明	
	男性		女性		男性		女性		男性		女性			
	日本国籍	外国籍	日本国籍	外国籍	日本国籍	外国籍	日本国籍	外国籍	日本国籍	外国籍	日本国籍	外国籍		
平成18年	7	5			1			1						
平成19年	5	2			1			1						1
平成20年	9	4		1		1	1	2						
平成21年	13	9				1		1						2
平成22年	9	5		1	1			2						
平成23年	5	3									1		1	

原則週 1 回木曜日の午前中に通常即日検査を実施し、それとは別に 6 月の HIV 検査普及週間と 8 月の夏休み期間に平日夜間即日検査、12 月の世界エイズデーに合わせて休日即日検査を実施した。

検査はイムノクロマト法による血中抗 HIV-1 及び HIV-2 抗体検出キットを使用して行い、本法で陽性または判定が困難であった検体については結果を判定保留とし、神奈川県衛生研究所に当該検体の精密検査を依頼した。

平成 23 年の検査数は 436 件で、内訳は通常即日検査が 331 件、平日夜間及び休日即日検査が各々 58 件及び 47 件であった。判定保留は 3 件あり、県衛生研究所の精密検査において、3 件中 2 件が陽性と判定された。

(石井圭、松葉友美、平井有紀、佐藤健)

表 藤沢市の HIV 即日検査数

No	検査種類	検査数	判定保留数	陽性数
1	通常即日検査	331	3	2
2	平日夜間即日検査	58	0	0
3	休日即日検査	47	0	0
	計	436	3	2

(3) ウイルス性感染性胃腸炎

平成 23 年は感染性胃腸炎の神奈川県全体の報告数は第 51 週に流行のピークがみられた。年齢別では、1 歳に報告が多かった。

(3) - 1

神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の感染性胃腸炎患者からの原因ウイルス検出状況

神奈川県衛生研究所

神奈川県における感染症予測監視事業の一環として、神奈川県域（横浜市、川崎市、相模原市、横須賀市及び藤沢市を除く）の各小児科定点医療機関から得られた感染性胃腸炎患者の検体から原因ウイルスの検索を行った。

検索対象ウイルスは、ノロウイルス、A 群ロタウイルス、アデノウイルス、サポウイルス、アストロウイルス、C 群ロタウイルスとした。

検査の結果、274 検体中 139 検体から感染性胃腸炎の原因ウイルスが検出された。検出数は、ノロウイルスが 79 検体、A 群ロタウイルスが 12 検体、アデノウイルスが 11 検体、サポウイルスが 25 検体及びアストロウイルスが 12 検体で、C 群ロタウイルスは検出されなかった。ノロウイルスは各年齢層で検出され、サポウイルスは 65 歳以上を除く各年齢層で検出されたが、その他のウイルスは、大半が 6 歳以下の小児からの検出であった。

集計を行った平成 23 年 1 月から平成 23 年 12 月では、8 月及び 9 月を除いた月でウイルスの検出が認

められ、7月にはアデノウイルスのみの検出であったが、その他の月では2種類以上のウイルスが検出された。

ウイルスごとの検出状況をみると、ノロウイルスは春期から夏期にかけて検出数は減少し7月から10月には検出されなかったが、冬期の12月には検出数が急増した。ノロウイルスのgenogroup(以下、G)をみると、79例のうち74例がG¹⁾、5例がG²⁾で、G¹⁾とG²⁾の同時検出例が1例あった。A群ロタウイルスは春期に検出数が多く、アデノウイルスは夏期及び冬期に検出が認められた。サポウイルス及びアストロウイルスは冬期から春期にかけて検出数が多く、ノロウイルスと同様、夏期から秋期には検出されなかった。

(鈴木理恵子、金城恵子、齋藤隆行、古屋由美子)

表1 年齢別ウイルス検出状況(平成23年1月~12月)

	検体数	陽性数						検出数
		ノロウイルス	A群ロタウイルス	アデノウイルス	サポウイルス	アストロウイルス	C群ロタウイルス	
6歳以下	184	52	10	11	18	11	0	102
7~12歳	22	4	0	0	3	0	0	7
13~22歳	9	2	0	0	2	1	0	5
23~64歳	45	17	1	0	1	0	0	19
65歳以上	7	2	0	0	0	0	0	2
不明	7	2	1	0	1	0	0	4
合計	274	79	12	11	25	12	0	139

表2 発病月別ウイルス検出状況

年 月	陽性数							検出数
	ノロウイルス		A群ロタウイルス	アデノウイルス	サポウイルス	アストロウイルス	C群ロタウイルス	
	G ¹⁾	G ²⁾						
平成23年 1月	0	15	0	0	4	3	0	22
2月	0	9	3	0	4	2	0	18
3月	0	3	3	0	3	3	0	12
4月	0	5	4	0	1	1	0	11
5月	0	2	0	0	7	1	0	10
6月	0	5	1	1	3	1	0	11
7月	0	0	0	1	0	0	0	1
8月	0	0	0	0	0	0	0	0
9月	0	0	0	0	0	0	0	0
10月	0	0	1	2	0	0	0	3
11月	2	1	0	3	2	0	0	8
12月	3	34	0	4	1	1	0	43
小計	5	74						
合計	79		12	11	25	12	0	139

1): genogroup

2): genogroup

(3) - 2

平成 23 年のウイルス性集団胃腸炎の集団発生数は前年の 148 事例より少なく 138 事例であり、横浜市が最も多く 104 事例であった。

	平成21年				平成22年				平成23年			
	発生事例数 (件)	検査件数 (人)	陽性数 (人)	陽性率 (%)	発生事例数 (件)	検査件数 (人)	陽性数 (人)	陽性率 (%)	発生事例数 (件)	検査件数 (人)	陽性数 (人)	陽性率 (%)
横浜市	61	328	232	71	129	523	381	73	104	442	336	76
川崎市	9	32	24	75	6	33	16	48	14	35	31	89
相模原市	3	20	10	50	1	2	2	100	-	-	-	-
横須賀市	4	42	32	76	2	15	14	93	7	91	45	49
藤沢市	5	28	17	61	5	20	18	90	6	19	14	74
上記を除く神奈川県	7	34	30	88	5	88	33	38	7	18	16	89
計	89	484	345	71	148	681	464	68	138	605	442	73

神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果

神奈川県衛生研究所

神奈川県（横浜市・川崎市・横須賀市・相模原市及び藤沢市を除く）ではウイルスを原因とする感染性胃腸炎の集団発生が 7 事例確認された。そのうち 6 事例はノロウイルス（遺伝子群 G ）による事例で、いずれも老人福祉施設での発生であった。その他の 1 事例は A 群ロタウイルス（遺伝子群 G 3 ）による事例で、障害者通勤寮での発生であった。ノロウイルス以外の集団発生は一昨年が C 群ロタウイルス、昨年度は A 群ロタウイルス（ G 1 ）、今年度は A 群ロタウイルス（ G 3 ）による集団事例であった。

（鈴木理恵子、齋藤隆行、片山丘、古屋由美子）

番号	発生年月	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子群	備考
1	H23.3	保育園	11	27	10	ノロウイルス	G	
2	H23.3	施設	4	27	6	A 群ロタウイルス	G1	
3	H23.5	施設	20	5	4	A 群ロタウイルス	G3	
4	H23.12	施設	24	4	3	ノロウイルス	G	
合計			59	63	23			

横浜市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果

横浜市衛生研究所

平成 23 年における横浜市内で発生した感染症としての集団発生事例の取扱事例数は 104 事例であった。ノロウイルスが 92 事例より検出され、その遺伝子群は G が 84 事例、G が 5 事例、G と G の混合事例が 3 事例であり、G が大部分を占め全国の状況と一致していた。その他にロタウイルスが 7 事例、サポウイルスが 3 事例より検出され、さらにロタウイルスとサポウイルスの混合事例が 2 事例あった。なお、4 事例は起因ウイルス不明であった。

（熊崎真琴、小澤広規、宇宿秀三、森田昌弘）

表 横浜市のウイルス性集団胃腸炎の検出結果

番号	発生年月	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子群
1	H23.1	病院	6	4	2	ノロウイルス	G
2	H23.1	高齢者施設	10	4	4	ノロウイルス	G
3	H23.1	高齢者施設	12	9	3	ノロウイルス	G
4	H23.1	病院	不明	3	3	ノロウイルス	G
5	H23.1	その他	不明	3	3	ノロウイルス	G
6	H23.1	小学校	6	2	2	ノロウイルス	G
7	H23.1	小学校	8	5	5	ノロウイルス	G
8	H23.1	小学校	13	2	2	ノロウイルス	G
9	H23.1	福祉施設	9	5	5	ノロウイルス	G
10	H23.1	高齢者施設	11	3	2	ノロウイルス	G
11	H23.1	高齢者施設	6	3	2	ノロウイルス	G
12	H23.1	保育園	11	4	4	ロタウイルス	
13	H23.1	保育園	15	12	10	ノロウイルス	G
14	H23.1	保育園	16	7	7	ノロウイルス	G
15	H23.1	福祉施設	5	2	2	ノロウイルス	G
16	H23.1	病院	45	7	4	ノロウイルス	G
17	H23.1	保育園	14	6	6	ロタウイルス、サボウイルス	
18	H23.1	福祉施設	8	2	1	ノロウイルス	G
19	H23.1	高齢者施設	14	2	2	ノロウイルス	G
20	H23.1	小学校	10	2	2	ノロウイルス	G
21	H23.1	保育園	7	3	3	ノロウイルス	G
22	H23.1	小学校	12	5	4	ノロウイルス	G
23	H23.1	高齢者施設	14	6	4	ノロウイルス	G
24	H23.1	高齢者施設	12	3	3	ノロウイルス	G
25	H23.1	小学校	16	3	3	ノロウイルス	G
26	H23.2	病院	10	4	4	ノロウイルス	G
27	H23.2	小学校	35	5	5	ロタウイルス	
28	H23.2	小学校	15	4	3	ノロウイルス	G
29	H23.2	小学校	8	3	3	ノロウイルス	G
30	H23.2	保育園	8	5	5	ノロウイルス	G
31	H23.2	小学校	7	5	4	ノロウイルス	G、G
32	H23.2	小学校	11	3	3	ノロウイルス	G
33	H23.2	高齢者施設	9	2	2	ノロウイルス	G
34	H23.2	高齢者施設	8	2	2	ノロウイルス	G
35	H23.2	幼稚園	18	2	1	ノロウイルス	G
36	H23.2	小学校	8	3	3	ノロウイルス	G
37	H23.2	高齢者施設	13	3	3	ノロウイルス	G

番号	発生年月	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子群
38	H23.2	小学校	6	1	1	ノロウイルス	G
39	H23.2	高齢者施設	10	8	6	ノロウイルス	G
40	H23.2	小学校	14	3	3	ノロウイルス	G
41	H23.2	小学校	不明	3	3	ノロウイルス	G
42	H23.2	その他	不明	2	2	ノロウイルス	G
43	H23.2	小学校	不明	5	4	ノロウイルス	G
44	H23.2	小学校	不明	1	1	ノロウイルス	G
45	H23.3	高齢者施設	不明	3	3	ノロウイルス	G
46	H23.3	幼稚園	不明	1	1	ノロウイルス	G
47	H23.3	小学校	不明	1	1	ノロウイルス	G
48	H23.3	小学校	不明	4	4	ノロウイルス	G
49	H23.3	小学校	不明	2	2	ノロウイルス	G
50	H23.3	小学校	不明	6	6	ノロウイルス	G
51	H23.3	高齢者施設	不明	6	3	ノロウイルス	G
52	H23.3	高齢者施設	不明	6	6	ノロウイルス	G
53	H23.3	小学校	不明	2	2	ノロウイルス	G
54	H23.3	保育園	不明	9	4	ノロウイルス	G
55	H23.3	高齢者施設	不明	1	1	ノロウイルス	G
56	H23.3	保育園	不明	3	3	ロタウイルス	
57	H23.3	保育園	不明	6	5	ロタウイルス、サポウイルス	
58	H23.4	高齢者施設	不明	3	3	ノロウイルス	G
59	H23.4	保育園	不明	3	3	ロタウイルス	
60	H23.4	小学校	不明	15	4	ロタウイルス	
61	H23.4	保育園	不明	15	5	サポウイルス	
62	H23.4	小学校	不明	3	2	ノロウイルス	G
63	H23.4	保育園	不明	2	2	ノロウイルス	G
64	H23.4	保育園	不明	5	3	ロタウイルス	
65	H23.5	小学校	不明	3	3	サポウイルス	
66	H23.5	高齢者施設	17	4	3	ノロウイルス	G
67	H23.5	小学校	11	4	3	ロタウイルス	
68	H23.5	小学校	6	4	3	ノロウイルス	G
69	H23.6	高齢者施設	5	3	3	ノロウイルス	G
70	H23.6	高齢者施設	12	17	6	ノロウイルス	G
71	H23.6	小学校	6	6	6	ノロウイルス	G
72	H23.6	高齢者施設	9	3	2	ノロウイルス	G
73	H23.11	小学校	12	5	5	サポウイルス	
74	H23.11	小学校	10	3	1	ノロウイルス	G
75	H23.11	保育園	14	4	4	ノロウイルス	G

番号	発生年月	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子群
76	H23.11	保育園	20	5	5	ノロウイルス	G
77	H23.12	保育園	16	5	4	ノロウイルス	G
78	H23.12	保育園	21	3	3	ノロウイルス	G
79	H23.12	小学校	10	2	2	ノロウイルス	G
80	H23.12	保育園	23	3	3	ノロウイルス	G
81	H23.12	保育園	20	3	3	ノロウイルス	G
82	H23.12	高齢者施設	11	11	3	ノロウイルス	G
83	H23.12	保育園	20	3	3	ノロウイルス	G
84	H23.12	保育園	18	5	3	ノロウイルス	G
85	H23.12	保育園	10	3	1	ノロウイルス	G
86	H23.12	高齢者施設	24	5	4	ノロウイルス	G
87	H23.12	飲食店	不明	11	3	ノロウイルス	G、G
88	H23.12	病院	18	7	6	ノロウイルス	G、G
89	H23.12	保育園	11	4	4	ノロウイルス	G
90	H23.12	小学校	32	6	5	ノロウイルス	G
91	H23.12	小学校	23	2	2	ノロウイルス	G
92	H23.12	小学校	16	4	4	ノロウイルス	G
93	H23.12	保育園	12	5	4	ノロウイルス	G
94	H23.12	小学校	17	4	4	ノロウイルス	G
95	H23.12	小学校	19	3	3	ノロウイルス	G
96	H23.12	高齢者施設	11	2	2	ノロウイルス	G
97	H23.12	保育園	14	2	2	ノロウイルス	G
98	H23.12	保育園	16	4	2	ノロウイルス	G
99	H23.12	高齢者施設	18	2	2	ノロウイルス	G
100	H23.12	高齢者施設	不明	1	1	ノロウイルス	G
101	H23.12	高齢者施設	15	2	2	ノロウイルス	G
102	H23.12	高齢者施設	15	3	3	ノロウイルス	G
103	H23.12	高齢者施設	10	2	2	ノロウイルス	G
104	H23.12	高齢者施設	18	7	3	ノロウイルス	G
				442	336		

川崎市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果

川崎市衛生研究所

川崎市ではノロウイルスを原因とした集団胃腸炎が 12 例発生した。検出された遺伝子群はすべて G であった。

(松島勇紀、清水英明)

表 川崎市のウイルス性集団胃腸炎の検出結果

番号	発生年月	施設区分	発症者	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子群
1	H23.1	高齢者福祉施設	不明	6	4	ノロウイルス	G
2	H23.1	高齢者福祉施設	不明	6	6	ノロウイルス	G
3	H23.1	高齢者福祉施設	不明	3	2	ノロウイルス	G
4	H23.1	高齢者福祉施設	不明	3	3	ノロウイルス	G
5	H23.2	高齢者福祉施設	36	2	2	ノロウイルス	G
6	H23.11	高齢者福祉施設	28	5	5	ノロウイルス	G
7	H23.11	高齢者福祉施設	58	2	2	ノロウイルス	G
8	H23.12	保育園	15	2	2	ノロウイルス	G
9	H23.12	保育園	39	3	2	ノロウイルス	G
10	H23.12	保育園	42	2	1	ノロウイルス	G
11	H23.12	高齢者福祉施設	45	2	2	ノロウイルス	G
12	H23.12	高齢者福祉施設	110	3	2	ノロウイルス	G

相模原市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果

相模原市衛生試験所

平成 23 年 1 月から 12 月の間において、感染症としての集団発生事例は報告されなかったが、市内保育園において、当初は食中毒として調査を行ったが、後に有症苦情となった事例があり、58 名中 44 名からノロウイルス G が検出された。

(鷲谷則子、鈴木敏彦、田村有美、金沢聡子、笹野亜也子、望月響子)

横須賀市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果

横須賀市健康安全科学センター

横須賀市ではノロウイルスが原因の感染症事例として、集団胃腸炎が 7 事例発生した。遺伝子群は 7 事例すべて G であった。

(沼田和也)

表 横須賀市のウイルス性集団胃腸炎の検出結果

番号	発生年月	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子群
1	H23.1	高齢者福祉施設	56	43	19	ノロウイルス	
2	H23.1	高齢者福祉施設	23	23	7	ノロウイルス	G
3	H23.1	高齢者福祉施設	7	7	4	ノロウイルス	G
4	H23.2	高齢者福祉施設	6	6	6	ノロウイルス	G
5	H23.2	高齢者福祉施設	5	5	3	ノロウイルス	G
6	H23.12	高齢者福祉施設	5	5	4	ノロウイルス	G
7	H23.12	高齢者福祉施設	2	2	2	ノロウイルス	G
合計			104	91	45		

藤沢市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果

藤沢市保健所

平成 23 年 1 月から 12 月の間に、ノロウイルスによる集団胃腸炎が 5 例発生した。いずれも施設内での感染が疑われた事例で、検出数は 13 件で遺伝子群はすべて G であった。その他にサポウイルスが 1 事例より検出された。

(石井圭、松葉友美、平井有紀、佐藤健)

表 藤沢市のウイルス性集団胃腸炎の検出結果

No	発症月日	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子群
1	H23.1	高齢者施設	32	3	3	ノロウイルス	G
2	H23.1	高齢者施設	40	4	3	ノロウイルス	G
3	H23.1	高齢者施設	12	3	2	ノロウイルス	G
4	H23.2	高齢者施設	34	3	3	ノロウイルス	G
5	H23.6	高齢者施設	5	3	1	サポウイルス	
6	H23.12	高齢者施設	47	3	2	ノロウイルス	G
計			170	19	14		

(4) 手足口病、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱

神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の検査状況

神奈川県衛生研究所

< 手足口病 >

病原体定点医療機関で採取された手足口病患者検体 120 例についてウイルス分離検査及び遺伝子検査を実施したところ、98 例から 100 株のウイルスを分離・同定した。その内訳は、コクサッキーウイルス (C) A6 型 53 株、CA16 型 22 株、CA10 型 12 株、CA5 型 1 株、CB1 型 1 株、ライノウイルス 7 株、ヒトパレコウイルス 3 型 3 株、アデノウイルス 2 型 1 株であった。このうち同一患者検体から重複して検出された例が 2 例あり、CA6 型とライノウイルスが 1 例、アデノウイルス 2 型とライノウイルスが 1 例であった。平成 23 年はこれまでヘルパンギーナの主因ウイルスとされていた CA6 型による流行となった。

< ヘルパンギーナ >

病原体定点医療機関で採取されたヘルパンギーナ患者検体 79 例についてウイルス分離検査及び遺伝子検査を実施したところ、62 例から 63 株のウイルスを分離・同定した。その内訳は、コクサッキーウイルス (C) A10 型 33 株、CA6 型 12 株、CA5 型 7 株、CA12 型 1 株、CA16 型 1 株、CB1 型 5 株、ライノウイルス 3 株、単純ヘルペスウイルス 1 型 1 株であり、このうち同一患者検体から CA6 型と CB1 型が重複して検出された。平成 23 年は CA10 型が流行の主流となった。

< 咽頭結膜熱 >

病原体定点医療機関で採取された咽頭結膜熱患者検体 16 例についてウイルス分離検査を実施したところ、14 株のウイルスが検出された。最も多く検出されたウイルスは、アデノウイルス (Ad) 3 型 7 株で、その他、Ad2 型 4 株、Ad4 型 1 株、Ad5 型 1 株及びコクサッキーウイルス B1 型 1 株が検出され

た。

咽頭結膜熱の起因ウイルスとして最も多く報告される Ad3 型は、平成 21 年に 1 株も検出されなかったが、22 年には流行の主流として多数検出され、23 年も引き続き多く検出された。

(近藤真規子、佐野貴子、渡邊寿美、齋藤隆行、古屋由美子)

川崎市の検出状況

川崎市衛生研究所

<手足口病>

病原体定点医療機関で採取された手足口病患者検体 19 例についてウイルス分離検査を実施したところ、15 例からウイルスが検出された。

検出されたウイルスはコクサッキー A6 型 9 株、コクサッキー A16 型 3 株、単純ヘルペスウイルス 1 型 1 株、ヘルペスウイルス 3 型 (水痘ウイルス) 1 株、ヘルペスウイルス 4 型 (EB ウイルス) 1 株であった。

(松島勇紀、清水英明)

(5) 蚊媒介感染症

横浜市のウエストナイル熱等媒介蚊のサーベイランス

横浜市衛生研究所

米国におけるウエストナイルウイルス (WNV) の流行に伴い、横浜市は行政的な防疫対策として死亡鳥類と蚊を用いた WNV のサーベイランス事業を平成 15 年 7 月 15 日から実施している。

本年度の死亡鳥類の検査はなかった。

一方で、デングウイルスや WNV、日本脳炎ウイルス、チクングニアウイルスなど、蚊を媒介とする感染症のサーベイランス事業を、平成 23 年度より横浜市内 18 区 19 ヶ所の公園にドライアイス併用のライトトラップを設置し、採集された蚊を用いて開始した。

採集方法としては、夕方にライトトラップを設置し、翌日の朝に採集された蚊を回収した。公園内での一連のライトトラップの設置、蚊の回収、当所への検体の搬送に関しては、横浜市各区福祉保健センター生活衛生課と協力して実施した。蚊の採集期間は、6 月 7 日から 10 月 19 日までの全 23 週間で、19 ヶ所の公園において、10 回ずつ採集した。検査した蚊の総個体数は、7,170 匹であった。蚊の種類別ではアカイエカ群 1,064 匹、ヒトスジシマカ 5,670 匹、コガタアカイエカ 38 匹、ヤマトヤブカ 198 匹、オオクロヤブカ 19 匹、キンパラナガハシカ 147 匹、その他 34 匹であった。また、デングウイルスや WNV、日本脳炎ウイルスを含むフラビウイルス、チクングニアウイルス遺伝子は、全て不検出であった。

(小澤 広規、植木 聡、林 宏子、宇宿 秀三、森田 昌弘)

表 横浜市の WNV 検査結果

区名	回数 トラップ設置場所	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	総計
		匹数	匹数	匹数	匹数	匹数	匹数	匹数	匹数	匹数	匹数	
1	鶴見 大黒中央公園	63	46	31	46	46	101	104	61	15	21	534
2	神奈川 三ツ沢公園	13	33	20	80	93	222	122	86	12	30	711
3	西 掃部山公園	18	149	103	67	142	218	119	110	69	25	1020
4	中 シンボルタワー	19	15	17	10	12	3	29	25	216	34	380
5	南 時田の森公園	10	35	129	56	65	34	16	64	4	2	415
6	港南 久良岐公園	55	29	20	24	32	15	21	21	2	0	219
7	保土ヶ谷 陣ヶ下溪谷公園	17	16	17	30	38	51	55	19	2	0	245
8	旭 こども自然公園	3	3	6	35	25	67	41	20	27	12	239
9	磯子 岡村公園	16	36	2	4	3	23	4	7	1	0	96
10	金沢 長浜公園	12	17	9	19	56	14	15	1	2	0	145
11	港北 大倉山公園	16	10	6	130	47	136	23	105	11	24	508
12	緑 北八潮公園	48	146	75	82	189	202	243	47	36	24	1092
13	青葉 寺家ふるさと村	1	4	11	10	12	27	4	20	10	3	102
14	都筑 都筑中央公園	0	10	10	23	17	99	18	14	2	0	193
15	戸塚 舞岡公園	6	6	31	12	10	26	6	0	5	4	106
16	栄 小菅ヶ谷北公園	4	6	12	13	12	27	47	18	15	7	161
17	泉 天王森泉公園	0	0	2	1	34	18	8	31	3	1	104
18	瀬谷 瀬谷猿登公園	1	5	27	28	14	83	68	49	37	17	329
19	鶴見 馬場花木園	2	80	92	20	79	135	76	49	27	11	571
総計		304	646	620	690	926	1501	1019	747	502	215	7170
蚊の種類		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
アカイエカ群		113	158	89	92	76	114	43	60	238	81	1064
ヒトスジシマカ		147	441	477	550	815	1340	931	627	230	112	5670
コガタアカイエカ		2	0	2	0	9	7	16	1	1	0	38
ヤマトヤブカ		25	33	39	18	2	16	20	23	14	3	198
オオクロヤブカ		0	1	1	2	5	2	2	3	2	1	19
キンバラナガハシカ		17	5	10	27	6	11	6	32	15	13	147
その他（*）		0	3	2	1	13	11	1	1	2	0	34
総計		304	646	620	690	926	1501	1019	747	502	215	7170
ウイルス遺伝子の検出結果		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
フラビウイルス		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
チクングニアウイルス		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	

（*）その他には、カラツイエカ、フタクロホシチビカ等が含まれています。

川崎市のウエストナイル熱等媒介蚊のサーベイランス

川崎市衛生研究所

市内 8 箇所 9 地点の保健所等でライトトラップを設置し、平成 23 年 4 月から 11 月まで蚊を毎週 1 回（全 34 週 285 ポイント）捕集した。種別した雌蚊 95 プールについてウエストナイルウイルスの保有状況を、また、ヤブカ属の蚊 32 プールについてはデングウイルス及びチクングニヤウイルスの保有状況も併せて調査した。

市内 4 箇所の公園でドライアイストラップを設置し、平成 23 年 6 月から 10 月まで蚊を毎週 1 回（全 20 週 80 ポイント）捕集した。種別した雌蚊 100 プールについてウエストナイルウイルスの保有状況を、また、ヤブカ属の蚊 51 プールについてはデングウイルス及びチクングニヤウイルスの保有状況も併せて調査した。

検査は PCR 法を用いて行った。195 の雌蚊プールでウエストナイルウイルス遺伝子、デングウイルス遺伝子及びチクングニヤウイルス遺伝子はすべて陰性であった。

蚊の種類について、市街地に設置されたライトトラップで捕集されたのは 3 属 3 種で、アカイエカ

173 匹 (67.3%) とヒトスジシマカ 83 匹 (32.3%) が優占種であった。周辺に草地や樹木が存在している市内の公園に設置されたドライアイストラップでは 5 属 9 種が捕集され、アカイエカ 374 匹 (58.5%) とヒトスジシマカ 208 匹 (32.7%) の他に、ヤマトヤブカ、オオクロヤブカ、キンバラナガハシカ、コガタアカイエカ、フタクロホシチビカ、ハマダラウスカ、トラフカクイカが捕獲された。

(加納敦子、清水英明)

表 川崎市の WNV サーベイランス調査における蚊の月別及び種別採取数

保健所検査分											公園検査分										
採取日	2011年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	総計	採取日	2011年	6月	7月	8月	9月	10月	総計			
川崎保健所			5	11	16	34	13	10	15	104	東扇島中公園	67	6	76	83	116	348				
幸保保健所		4	4	8	12	4	2	2	1	37	夢見ヶ崎動物公園	10	13	72	1	1	97				
中原保健所		1	3	8	6	7	5	7	7	44	緑ヶ丘霊園	9	14	52	6	4	85				
高津保健所		1	1	2	8	8		4	1	25	早野聖地公園	3	24	46	21	12	106				
宮前保健所				2	1	1		1	2	7	合計	89	57	246	111	133	636				
多摩保健所				2	3	7	4	3	1	20	蚊の種別										
麻生保健所		2	1	2	7	5	1		2	20	アカイエカ群	74	25	100	68	107	374				
合計		8	14	35	53	66	25	27	29	257	ヒトスジシマカ	11	21	118	38	20	208				
蚊の種別											ヤマトヤブカ	1	7	12	1		21				
アカイエカ群	8	11	26	39	26	12	23	28	173	キンバラナガハシカ		1	4	2	2	9					
ヒトスジシマカ		3	9	14	40	13	3	1	83	オオクロヤブカ	1		5	1	4	11					
トラフカクイカ								1	1	ハマダラウスカ	1					1					
総計	8	14	35	53	66	25	27	29	257	フタクロホシチビカ	1		1			2					
ウエストナイルウイルス遺伝子の検出結果	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	コガタアカイエカ		3	2	1		6				
デングウイルス遺伝子の検出結果	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	トラフカクイカ			4			4				
チクングニヤウイルス遺伝子の検出結果	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	総計	89	57	246	111	133	636				
雄雌合計数												ウエストナイルウイルス遺伝子の検出結果	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性			
											デングウイルス遺伝子の検出結果	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性				
											チクングニヤウイルス遺伝子の検出結果	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性				
											雄雌合計数										

横須賀市のウエストナイル熱等媒介蚊のサーベイランス

横須賀市健康安全科学センター

ウエストナイル熱媒介蚊の調査として平成 23 年 6 月より 9 月まで計 5 回実施した。設置場所は三笠公園敷地内及び動物愛護センター敷地内とし、蚊を捕獲(ドライアイス併用 CDC 型ライトトラップ法)、分類した後、RT-PCR 法によるウエストナイルウイルス遺伝子検査、デングウイルス遺伝子検査及び、チクングニヤウイルス遺伝子検査を実施した。結果は、表に示すとおり捕獲した 163 匹の蚊(イエカ類 90 匹、ヤブカ類 73 匹)からウエストナイルウイルス、デングウイルス及び、チクングニヤウイルスの遺伝子は検出されなかった。

(竹内恵美)

表 ウエストナイル熱等媒介蚊検査結果(平成 23 年)

設置回数	1-2	3	4	5	総計(匹)	
設置月	6月	7月	8月	9月		
設置場所	三笠公園	14	20	70	33	137
	動物愛護センター	6	4	8	8	26
総計	20	24	78	41	163	
内訳	イエカ類	12	2	74	2	90
	ヤブカ類	8	22	4	39	73
ウエストナイルウイルス遺伝子検査結果	性	性	性	性	陰性	
デングウイルス 伝子検査結果	性	性	性	性	陰性	
チクングニヤウイルス遺伝子検査結果	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	

(6) その他のウイルス性感染症

(6)-1

神奈川県日本脳炎感染源調査

神奈川県衛生研究所

近年におけるわが国の日本脳炎患者は、西日本を中心に発生が見られている。日本脳炎ウイルスの侵淫度を追跡し流行予測を行うため、豚の日本脳炎ウイルス抗体保有状況を調査した。

神奈川県食肉センターに持ち込まれた生後 5～8 カ月齢の県内産の豚を対象に、平成 23 年 7 月から 9 月までの期間に、8 回、20 頭ずつ、計 160 頭について、血中の JaGAr01 株に対する血球凝集抑制抗体及び 2-メルカプトエタノール感受性抗体をそれぞれ測定した。

その結果、9 月採血の 60 検体中 1 検体から血球凝集抑制抗体が検出されが、2-メルカプトエタノール感受性抗体は検出されなかった。この結果より、今年度は県内での日本脳炎ウイルスの活動が確認された。神奈川県では平成 23 年度も例年同様に、患者発生はなかった。

(鈴木理恵子、金城恵子、齋藤隆行、古屋由美子)

表 豚における日本脳炎ウイルス HI 抗体・2-ME 感受性抗体保有状況

採血月日	検査数	HI 抗体価							抗体陽性率 (%)	2-メルカプトエタノール感受性抗体保有率 (%)
		<10	10	20	40	80	160	320		
7/19	20	20							0.0	0.0
7/26	20	20							0.0	0.0
8/9	20	20							0.0	0.0
8/23	20	20							0.0	0.0
8/30	20	20							0.0	0.0
9/13	20	19	1						5.0	0.0
9/16	20	20							0.0	0.0
9/27	20	20							0.0	0.0

(6)-2

神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）の麻疹疑い患者からの麻疹ウイルス検出状況

神奈川県衛生研究所

2012 年までに国内から麻疹を排除する目標達成のために麻疹と臨床診断された 44 例について麻疹ウイルス遺伝子検査ウイルス分離を実施した。麻疹ウイルスは、遺伝子が検出されかつウイルス分離ができたのは 1 例で、他の 43 例はともに不検出であった。その他のウイルス検査を実施したところ、麻疹ウイルス不検出であった 43 例中、風疹ウイルス遺伝子が 11 例から検出され、パルボウイルス B19 遺伝子が 2 例から検出された。ダイレクトシークエンスにより麻疹及び風疹の遺伝子解析を行ったところ、麻疹は、ヨーロッパで流行した遺伝子型 D4 であったが、患者に海外渡航歴はなく国内の感染が疑われた。風疹 11 例は東南アジアを中心に流行している遺伝子型 2B であった。昨年の発生届では、2B の患者報告は海外輸入例のみであったが、本年は海外渡航歴のない国内感染例の報告が全国的に増えていることから、2B は国内に定着したものと思われた。

(鈴木理恵子、齋藤隆行、古屋由美子)

相模原市の麻疹ウイルス検出状況

相模原市衛生試験所

平成 23 年に相模原市内の医療機関において麻しんと臨床診断された 8 例(2~61 歳、男 3 名、女 5 名)について、麻疹ウイルス遺伝子検査を実施した。そのうち麻疹ウイルス遺伝子が検出されたのは 2 例だけであった。その 2 例は 1 事例の兄妹で、検出された麻疹ウイルスの遺伝子型は欧州で検出の多い D4 型だったが、患者 2 名に海外渡航歴及びワクチン接種歴はなく国内感染が疑われた。2 名は発熱の約 2 週間前から 4 日間、家族で大阪へ行っており、往路は深夜バスを復路は新幹線を利用していた。患者家族への聞き取りによると、往路の車中で咳をしている者がいたとのことだが、感染経路については明らかにならなかった。

(鷺谷則子、鈴木敏彦、田村有美、金沢聡子、笹野亜也子、望月響子)

(6)-3

神奈川県(横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く)の麻疹ウイルス抗体保有状況

神奈川県衛生研究所

昭和 53 年から義務接種として始まったわが国の麻疹ワクチン予防接種は、平成 6 年 10 月の予防接種法改正にともない勧奨性となり、平成 18 年 4 月からはそれまでの 1 回接種から 2 回接種へと移行した。平成 19 年には 10 代から 20 代を中心とする大規模な流行が発生したため、平成 20 年 4 月から 5 年間の時限措置として、中学 1 年生と高校 3 年生に相当する年齢者の 2 回目接種を追加するなど、麻疹対策が強化されている。小児の麻疹ウイルスに対する免疫状態を把握することが必要なことから、昭和 54 年以降、麻疹ウイルスに対する抗体の保有状況調査を行っている。

平成 23 年 9 月から 10 月の間に採取された小児(0~14 歳以下)106 名及び 15 歳以上の一般健康人 179 人の血清計 285 例について麻疹ウイルス抗原を吸着してあるゼラチン粒子による凝集反応法で麻疹ウイルスに対する抗体の測定を行った。

年齢別の抗体保有率は麻疹ワクチン接種前の 1 歳以下の小児は、51.4%と抗体保有率が低く、ワクチン接種後の 2~14 歳の小児は 92.9~100%、15 歳以上の健康人では 90.7~100%と抗体保有率は高く、全年齢層の平均抗体保有率は 90.9%であった。

今後も継続して麻疹ウイルスに対する抗体保有状況の把握をするとともに、予防接種の必要性和麻疹に関する適切な知識を普及させることが重要と思われる。

(鈴木理恵子、齋藤隆行、金城恵子、古屋由美子)

表 麻疹ウイルス抗体保有状況

抗体価 年齢(歳)	平成23年 (採血 平成23年 9月~10月)										22年	21年	20年	19年	18年	
	PA抗体価										検査数 (人)	陽性率 (%)	陽性率 (%)	陽性率 (%)	陽性率 (%)	陽性率 (%)
	<8	8	16	32	64	128	256	512	1024							
0~1	17	2	2		2		3	2	7	35	51.4	82.4	72.2	53.3	68.8	66.7
2~3						1	2	4	5	12	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
4~5	1		1		1	1	4	2	4	14	92.9	100.0	100.0	100.0	100.0	94.4
6~7						1	3	3	2	9	100.0	100.0	100.0	100.0	81.8	100.0
8~9		2				3	2	2	1	10	100.0	100.0	90.9	100.0	100.0	100.0
10~14	1		1	1	3	4	6	8	2	26	96.2	92.3	96.0	93.5	86.7	86.7
15~19	2	1			2	3	7	7	2	24	91.7					
20~24				2		4	7	5	4	22	100.0					
25~29				3	6	6	2	3	3	23	100.0					
30~34		3	3		3	3	3	2	6	23	100.0					
35~39			1		2	2	3	8	6	22	100.0					
40~49	1				1	4	1	8	7	22	95.5					
50	4		1	1	3	3	8	8	15	43	90.7					
合計(人)	26	8	9	7	23	35	51	62	64	285	90.9	93.4	91.3	90.3	87.4	88.4
(%)	9.1	2.8	3.2	2.5	8.1	12.3	17.9	21.8	22.5	100						

(6)-4

神奈川県(横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く)の麻疹ウイルス抗体保有状況

神奈川県衛生研究所

麻疹流行の予測とその推移を知るため、住民の麻疹ウイルスに対する感受性の実態を把握しておくことは重要である。平成23年においては、一般健康人男女285名を対象として、麻疹ウイルスに対する赤血球凝集抑制抗体の測定を行った。

結果は年齢別抗体保有状況を陰性率で見ると、1歳以下63.6%、1~4歳12.5%、5~9歳0%、10~14歳3.8%、15歳以上0~21.7%となり平均陰性率は12.6%であった。

次に抗体価をみると16~256倍が78.9%を占め、平均抗体価は $2^{6.03}$ であった。

以上の成績より、抗体保有率の低い年齢層が今後の感染と流行の主体になると考えられる。これらの年齢層の抗体保有状況の推移を監視するとともに、妊娠前及び妊娠可能年齢層への麻疹ワクチン接種は継続して奨励する必要があると思われる。

(鈴木理恵子、齋藤隆行、金城恵子、古屋由美子)

表 麻疹ウイルス抗体保有状況

抗体価 年齢(歳)	平成23年 (採血 平成23年 9月~10月)										22年	21年	20年	19年	18年	
	HI抗体価										検査数 (人)	陰性率 (%)	陰性率 (%)	陰性率 (%)	陰性率 (%)	陰性率 (%)
	<8	8	16	32	64	128	256	512	1024							
<1	14	2	1	2		1	2			22	63.6	25.0	100.0	50.0	50.0	50.0
1~4	4		3	2	8	8	3	3	1	32	12.5	15.0	10.0	10.0	11.1	5.0
5~9		1	5	2	9	8		1		26	0.0	5.0	0.0	5.0	20.0	20.0
10~14	1		4	10	9	2				26	3.8	20.0	15.0	15.0	30.0	25.0
15~19	5		5	4	7		2	1		24	20.8	15.0	15.0	30.0	35.0	30.0
20~24		1	6	4	7	2	2			22	0.0	44.4	27.3	25.0	6.7	36.4
25~29	5		2	5	4	1	5	1		23	21.7	25.0	21.1	22.2	6.7	21.1
30~34			1	1	8	6	3	2	2	23	0.0	33.3	30.0	13.3	33.3	5.9
35~39	1		1	2	7	7	4			22	4.5	13.3	10.0	13.3	5.6	125.0
40~49	2			3	7	6	1	1	2	22	9.1	20.0	15.0	20.0	20.0	5.0
50	4	1	4	3	11	7	8	4	1	43	9.3	5.0	10.0	10.0	5.0	10.0
合計(人)	36	5	32	38	77	48	30	13	6	285	12.6	17.3	15.3	17.6	18.8	16.7
(%)	12.6	1.8	11.2	13.3	27.0	16.8	10.5	4.6	2.1	100						

2 細菌性感染症

(1) 腸チフス・パラチフス

神奈川県(横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)のチフス菌等のファージ型別結果

神奈川県衛生研究所

平成 23 年 1 月～12 月の間、神奈川県ではチフス菌事例の発生は認められなかった。

(古川一郎、石原ともえ、渡辺祐子)

横浜市のチフス菌等のファージ型別結果

横浜市衛生研究所

平成 23 年 1 月～12 月の間に横浜市内で分離されたチフス菌は 0 件、パラチフス A 菌は 2 名 3 件、計 3 件であった。本年は、2 名とも海外に渡航した後にパラチフスを発症した事例であった。渡航先は、インド 1 名、タイ・ミャンマー 1 名であった。患者情報とファージ型別内訳は表に示したとおりである。薬剤感受性は 3 株ともナリジクス酸耐性であり、いずれも最初にフルオロキノロン系薬剤で治療するが、解熱せずマクロライド系薬剤による治療が奏功した症例であった。

(松本裕子、山田三紀子、太田嘉)

番号	分離月日	性別	年齢	菌種	ファージ型	備考
1	H23.2.11	男	37	パラチフスA	1	タイ・ミャンマーに渡航歴あり(血液培養)
2	H23.2.11	男	37	パラチフスA	1	タイ・ミャンマーに渡航歴あり(No.1と同一人物 便培養)
3	H23.6.15	男	35	パラチフスA	UT	インドに渡航歴あり

川崎市のチフス菌等のファージ型別結果

川崎市衛生研究所

平成 23 年 1～12 月に川崎市内ではチフス菌事例の発生は認められなかった。

(湯澤栄子)

(2) 細菌性腸管系感染症

神奈川県(横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)の腸管出血性大腸菌の分離状況

神奈川県衛生研究所

平成 23 年 1 月から 12 月における腸管出血性大腸菌 (*Enterohemorrhagic Escherichia coli*: EHEC) の分離状況を以下の表に示した。EHEC の受領株数は、0157 が 16 株、0145 が 3 株、0111 が 2 株、026 が 1 株の計 22 株であった。HUS 患者から菌が分離されなかったものの、EHEC の血清抗体が検出された事例が 2 例確認された。表に所轄保健福祉事務所の分離数と毒素型を示した。今年度は、すべての菌株について PFGE 解析を実施したが、家族内事例以外はすべて散発事例であり、散発的集団発生事例は認められなかった。

(古川一郎、石原ともえ、渡辺祐子)

表 所轄保健福祉事務所からの EHEC 受領状況

所轄保健福祉事務所	O157			O26	O111		O145		O165	計
	VT1&2	VT2	LPS抗体	VT1	VT1&2	VT1	VT1&2	VT2	LPS抗体	
鎌倉	3	2				1				6
秦野			1	1	1			2	1	6
茅ヶ崎	2	1								3
大和	4									4
足柄上	2									2
平塚		1								1
小田原	1									1
厚木							1			1
計	12	4	1	1	1	1	1	2	1	24

神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の赤痢菌及びコレラ菌の検出状況

神奈川県衛生研究所

平成 23 年 1 月から 12 月において神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）に送付された赤痢菌株は 7 株（表）で、*Shigella sonnei* が 6 株、*S. flexneri* が 1 株であった。渡航歴及びその他の情報は表に示した。

（古川一郎、石原ともえ、渡辺祐子）

表 赤痢菌の血清型及び患者渡航歴

所轄保健福祉事務所	性別	年齢	菌種	渡航歴
茅ヶ崎	男	31	<i>S. sonnei</i>	なし
大和	男	28	<i>S. sonnei</i>	なし
厚木	男	35	<i>S. sonnei</i>	なし
茅ヶ崎	女	27	<i>S. sonnei</i>	タイ
秦野	男	21	<i>S. flexneri</i>	インドネシア・バリ
厚木	男	4	<i>S. flexneri</i>	なし
秦野	女	32	<i>S. sonnei</i>	カンボジア

平成 23 年 1 月から 12 月に神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）に送付されたコレラ菌株は 1 株（CT+）で、血清型は O1 小川型であった。渡航歴及びその他の情報は表に示した。

（古川一郎、石原ともえ、渡辺祐子）

表 コレラ菌の血清型及び患者渡航歴

所轄保健福祉事務所	性別	年齢	血清型	渡航歴
秦野	女	57	O1	インド

神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の散発下痢症患者からの病原菌検出状況

神奈川県衛生研究所

平成 23 年 1 月から 12 月の間に、神奈川県の小児科定点医療機関から依頼された散発下痢症患者便について腸管系病原菌検査を行った。病原菌の分離・同定は常法により行った。

病原菌の検出数は 176 件中 25 件 (14.2%) であり、その内訳は腸管病原性大腸菌(EPEC)16 件、毒素原性大腸菌(ETEC)1 件、サルモネラ属菌 1 件 (血清型: Enteritidis)、カンピロバクター・ジェジュニ 6 件、エロモナス属菌 2 件であった。同一患者から腸管病原性大腸菌及びカンピロバクター・ジェジュニが重複して分離された事例が 1 件認められた。

EPEC の血清型の内訳は、06 (6 株)、0126 (2 株)、015 (1 株)、025 (1 株)、074 (1 株)、0114 (1 株)、0121 (1 株)、0124 (1 株)、0127a (1 株)、0166 (1 株) であった。ETEC (STh 陽性) の血清型は 06 であり、インド渡航歴のある患者由来であった。

(古川一郎、石原ともえ、渡辺祐子)

表 散発下痢症患者からの病原体分離状況

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
検体数	24	18	13	12	21	8	8	11	13	7	13	28	176
陽性数	3	2	3	1	2	3	1	2	1	2	3	2	25
%	12.5	11.1	23.1	8.3	9.5	37.5	12.5	18.2	7.7	28.6	23.1	7.1	14.2
検出病原体内訳													
腸管病原性大腸菌		1	3	1	2	2	1	2		2	1	1	16
毒素原性大腸菌	1												1
サルモネラ属菌									1				1
カンピロバクター・ジェジュニ	2	1					1				2		6
エロモナス・ソリダ												1	1
エロモナス・キャピエ						1							1

川崎市の下痢症患者からの腸管病原菌検出状況 (平成 23 年)

川崎市衛生研究所

平成 23 年 1 月～12 月までに川崎市内の医療機関を訪れた下痢症患者を対象にして腸管系病原菌検査を実施した。

材料は、市内医療機関に Cary-Blair の輸送培地を配布し、医療機関を訪れた下痢症患者から大便を採取し、保健所を經由して搬入された検体について検査を行った。検査方法は、既報と同様に行った。病原菌検出状況は表 1 に示すとおり、検体数 180 件中腸管病原菌陽性数 29 件 (16.1%) であり、サルモネラ 2 件 (1.1%)、腸管病原性大腸菌 (EPEC) 1 件 (0.5%)、腸管出血性大腸菌 (EHEC) 1 件 (0.5%)、毒素原性大腸菌 (ETEC) 3 件 (1.7%)、腸炎ピブリオ 1 件 (0.5%)、カンピロバクター・ジェジュニ 21 件 (11.7%) の検出であった。

検出病原菌のうちカンピロバクター・ジェジュニが 72.4% を占め、下痢症患者の主要病原菌であった。検出病原菌の血清型は表 2 に示すとおりである。サルモネラは 2 株分離され、血清型は *S. Enteritidis* であった。EPEC は 1 株分離され、血清型は 0146 であった。EHEC は 1 株分離され、血清型は 0157 であった。ETEC は 3 血清型に型別され、015 が 1 株、027 が 1 株、0148 が 1 株ずつであった。腸炎ピブリオは 1 株分離され、血清型は K18 であった。

以上のように本市内の下痢症患者から腸管系病原菌が 16.1% 検出され、カンピロバクター・ジェジュニが 11.7% と最も多く検出された。また、その他の食中毒菌も低率ながら分離されていることから今後も細菌性下痢症の原因菌追究のため検査を強化していく必要があると思われる。

(小嶋由香 湯澤栄子 佐野達哉 駒根綾子 荻本直輝)

表1 川崎市の散発下痢症患者からの病原菌検出状況（平成23年）

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
検体数	26	13	5	8	19	15	14	21	17	9	13	20	180
陽性数	3	0	0	3	2	4	4	4	5	1	2	1	29
(%)	(11.5)	(0)	(0)	(37.5)	(10.5)	(26.6)	(28.6)	(19.0)	(29.4)	(11.1)	(15.4)	(5.0)	(16.1)
サルモネラ属菌				1				1					2(1.1)
腸管病原性大腸菌						1							1(0.5)
腸管出血性大腸菌							1						1(0.5)
毒素原性大腸菌				1				1	1				3(1.7)
腸炎ピブリオ									1				1(0.5)
カビ	3			1	2	3	3	2	3	1	2	1	21(11.7)

表2 川崎市の検出病原菌の血清型(平成23年)

病原菌	株数	菌種及び血清型
サルモネラ属菌	2	<i>S. Enteritidis</i> (1)、血清型不明(1)
腸管病原性大腸菌	1	O146(1)
毒素原性大腸菌	3	O15 STh(1)、O27 STp(1)、O148 STh(1)
腸管出血性大腸菌	1	O157 VT1+2(1)
腸炎ピブリオ	1	K18(1)

相模原市の腸管病原菌検出状況（三類感染症発症者の家族等の病原菌検索）

相模原市衛生試験所

感染症法に基づく感染症病原体検索として、発症者の陰性確認、発症者の家族、家族以外の接触者の便検査を実施した。

平成23年1月から12月までの検査対象事例は三類感染症9事例で、すべての事例で端緒となった発症者に渡航歴はなく国内での感染が疑われた。

検査対象者はのべ16名で、病原菌検索の内訳は赤痢菌8名、腸管出血性大腸菌O157 8名であった。

月別の検査状況は表のとおりであった。

赤痢菌の検査については直接平板塗抹法を用い、腸管出血性大腸菌の検査については増菌培養と直接平板塗抹とを併用し分離、同定を行った。また、腸管出血性大腸菌のベロトキシン検査にはPCR法を実施した。

今回検査対象となった9事例は、すべて感染経路が推測または不明であった。また、無症状でありながら家族内での感染が示唆された事例もあり、発症者からの感染拡大防止の一環として、今後も迅速な対応を図りたい。

（鷲谷則子、鈴木敏彦、田村有美、金沢聡子、笹野亜也子、望月響子）

表 相模原市の三類感染症病原菌検索状況

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
検体件数	1	5	1			1		5	1	2		
事例数	1	2	1			1		2	1	1		
赤痢菌		5(1)	1							2		
腸管出血性大腸菌 O157	1					1		5(1)	1			

()は陽性数

横須賀市の散発下痢症からの腸管系病原菌検出状況

横須賀市健康安全科学センター

横須賀市内各医療機関からの下痢・腹痛を主症状とする患者糞便及び菌株材料について、平成 23 年 1 月から 12 月に実施した腸管系病原菌検査の結果を報告する。材料は菌株材料 44 件、糞便材料 34 件の合計 78 件で、検査は常法により行った。

病原菌検出状況を表 1 に示す。検査した 78 件のうち、陽性数は 13 件(16.7%)であった。陽性の内訳は、腸管出血性大腸菌が 5 株、腸管病原性大腸菌が 5 株、サルモネラが 2 株、黄色ブドウ球菌(エンテロトキシン A 産生)が 1 株、であった。

検出病原菌の血清型を表 2 に示す。腸管出血性大腸菌は O157:H7 が 3 株、O157:HNM が 2 株であった。腸管病原性大腸菌は O128:H12 が 2 株、O128:H2 が 2 株、O111:H21 が 1 株であった。サルモネラは *S.*Anfo が 2 株であった。

(天野肇、片倉孝子、長澤由美子、古川美奈子、河崎正太郎、山口純子、高橋伸二、木村実千明)

表 1. 散発下痢症からの病原菌検出状況 (平成 23 年 1 月～12 月)

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
検体件数	0(0)	3(0)	4(0)	1(0)	5(0)	12(0)	5(0)	29(0)	9(0)	3(0)	1(0)	6(0)	78 [†] (0)
陽性数	0(0)	1(0)	2(0)	0(0)	1(0)	2(0)	2(0)	2(0)	1(0)	1(0)	0(0)	1(0)	13(0)
%	0.0	33.3	50.0	0.0	20.0	16.7	40.0	6.9	11.1	33.3	0.0	16.7	16.7
病原菌													
腸管出血性大腸菌						1(0)	1(0)	2(0)	1(0)				
腸管病原性大腸菌		1(0)			1(0)	1(0)	1(0)					1(0)	
サルモネラ			2(0)										
黄色ブドウ球菌										1(0)			

備考：† 印の内訳 (菌株 44 件, 糞便 34 件)

()は海外渡航者由来を示す。

表 2. 検出病原菌の血清型 (平成 23 年 1 月～12 月)

病原菌	株数	菌種及び血清型
腸管出血性大腸菌	5	O157:H7 (3)、O157:HNM (2)
腸管病原性大腸菌	5	O128:H12(2)、O128:H2(2)、O111:H21(1)
サルモネラ	2	<i>S.</i> Anfo (2)

備考：()は菌株数を示す。

藤沢市の腸管病原菌（三類感染症）検出状況

藤沢市保健所

平成 23 年 1 月から 12 月の間に発生した三類感染症の患者、患者の陰性確認、患者の家族等接触者及び海外旅行同行者の病原菌検出状況について報告する。

検査対象の事例数及び検体数は 5 事例 15 検体（いずれもヒト糞便）で、病原菌検出状況は表に示したとおりである。内訳は、細菌性赤痢が 3 事例 7 検体（患者の陰性確認 1、接触者便 6）、腸管出血性大腸菌感染症 026 が 1 事例 2 検体（接触者便 2）、腸管出血性大腸菌感染症 0103 が 1 事例 6 検体（接触者便 6）であった。

（石井圭、松葉友美、平井有紀、佐藤健）

表 藤沢市の腸管病原菌（三類感染症）検出状況

No	病原菌	事例数	検体数	陽性数
1	赤痢菌	3	7	1
2	腸管出血性大腸菌026	1	2	0
3	腸管出血性大腸菌0103	1	6	1
	計	5	15	2

（3）河川等の環境調査

川崎市の河川等の環境調査 腸管系病原菌検索

川崎市衛生研究所

平成 22 年度で本事業は終了した。

（4）A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

定点当たりの患者報告数によると、平成 23 年は冬～春、初夏に増加がみられ、年齢別では 5～6 歳児を中心に報告が多かった。

A 群溶血レンサ球菌の分離及び T 型別成績

神奈川県衛生研究所

溶血レンサ球菌レファレンスセンター（関東甲信静支部）活動の一環として平成 23 年における A 群溶血レンサ球菌分離及び T 型別成績について県内 5 施設の情報をまとめた。県内の感染症発生動向調査における A 群溶血レンサ球菌の分離株数は、神奈川県衛生研究所（62 株）、横浜市衛生研究所（54 株）、川崎市衛生研究所（3 株）及び相模原市衛生試験所（1 株）の計 120 株で、昨年 106 株に比較し 13.2% 増加した。図 1 に分離株数及び T 型別の成績を示した。なお、横須賀市健康安全科学センターでは分離はなかった。

検出された T 型は、1 型、3 型、4 型、6 型、9 型、11 型、12 型、25 型、28 型、B3264 型及び型別不能の 11 種類であった。これらのうち、T1 型が 28 株（23.3%）と最も多く、以下 TB3264 型が 21 株（17.5%）、T28 型が 20 株（16.7%）及び T12 型が 17 株（14.2%）の順で、これら 4 血清型で全体の 71.7% を占めた。

最近5年間のT型の経年推移を図2、図3に示した。例年T4とT12型が高い傾向にあるが、平成22年に比べ、検出数及び検出率とも昨年はTB3264型が増加した。また、ここ4年ほどT28型は検出率が高くなっている。

(大屋日登美、高橋智恵子、古屋由美子)

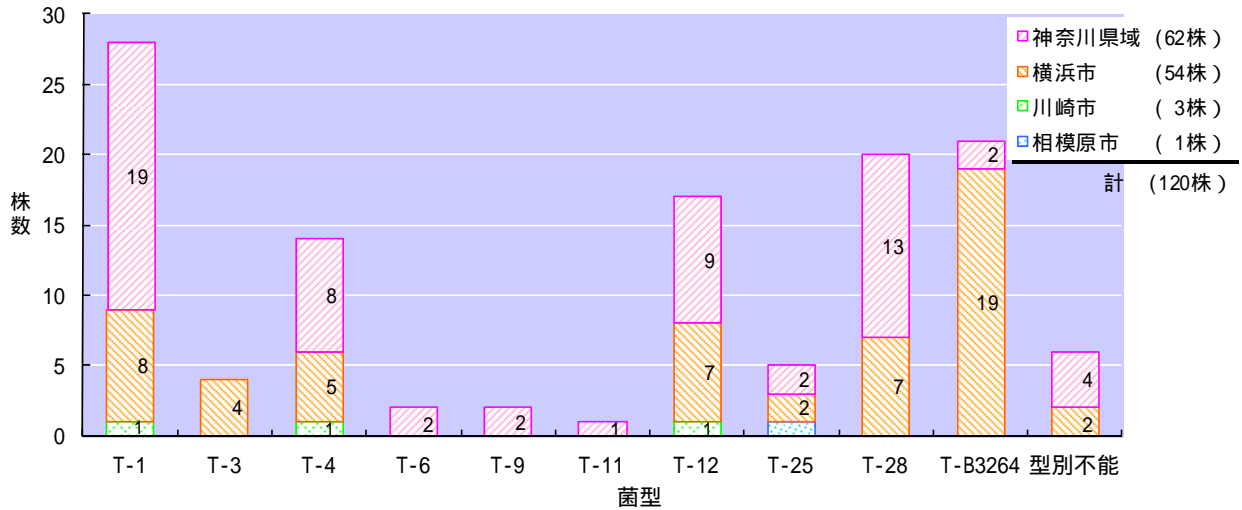


図1 A群溶血レンサ球菌T型の検出状況(平成23年1~12月)

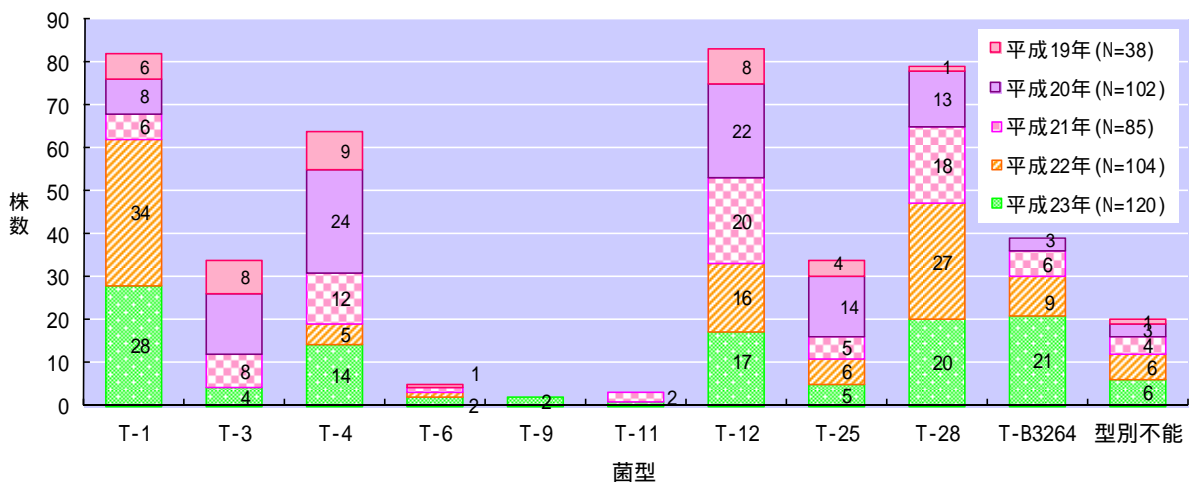


図2 A群溶血レンサ球菌T型検出数の経年推移(平成19年~23年)

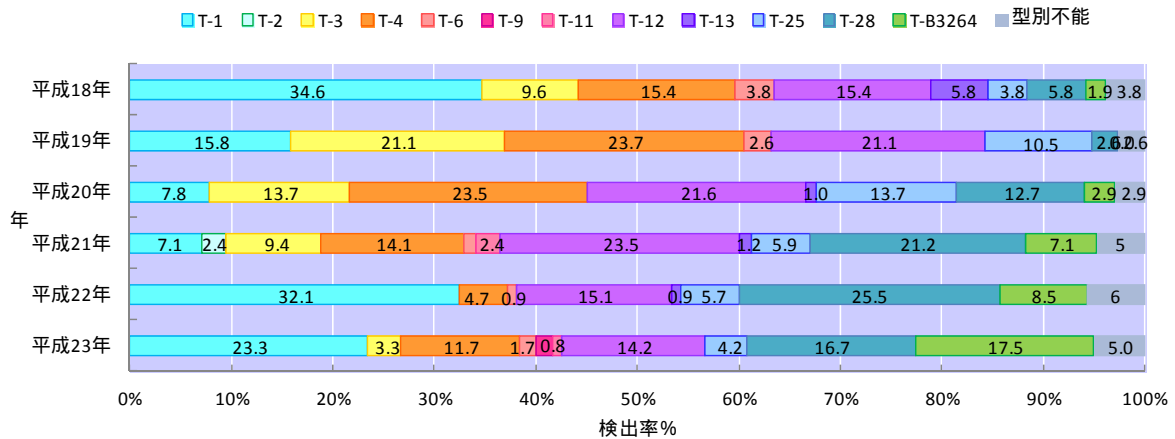


図3 A群溶血レンサ球菌T型検出率の経年推移(平成18年~23年)

川崎市における感染症発生動向調査の一環として、定点医療機関において咽頭ぬぐい液を採取し当所に搬入された検体について溶血性連鎖球菌の検索を実施した。平成23年1月から12月までの検出状況は3件中A群溶血連鎖球菌が3件(100.0%)から分離された。そのT型はT-1が1件、T-4が1件、T-12が1件であった。

(小嶋由香)

(5) 結核の検査

神奈川県(横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)のQFT検査成績

神奈川県衛生研究所

QFT検査は、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律の改正(平成19年)により潜在性結核感染症の診断検査法の一つとなり、感染症法に基づく結核の接触者健康診断の手引き(改訂第4版 平成22年)の中ではQFTが第一優先の検査法と位置づけられ、国内で広く実施されるようになった。

神奈川県(横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)では、検体数が年々増加し、平成23年には245事例776検体の依頼があり、前年(483検体)より大幅に増加し、陽性が91検体(11.7%)、判定保留が81検体(10.4%)、陰性が600検体(77.3%)、判定不可が4検体(0.5%)であった(表)。

平成18年から23年の6年間の事例数を被験者と患者の接触場所別にみると(図)、23年の家庭内事例は140事例と最も多く、ついで職場内事例が42事例で年々増加した。しかし、1事例あたりの検体数は家庭内事例が2.5検体と少なかった。

陽性率が最も高かったのは家庭内事例で15.0%、ついで職場内事例が13.1%であった。

(高橋智恵子、大屋日登美、浅井良夫、古屋由美子)

表 結核接触者健診におけるQFT検査結果(平成23年)

検体数	陽性数		判定保留		陰性数		判定不可	
	検体数	%	検体数	%	検体数	%	検体数	%
776	91	11.7	81	10.4	600	77.3	4	0.5

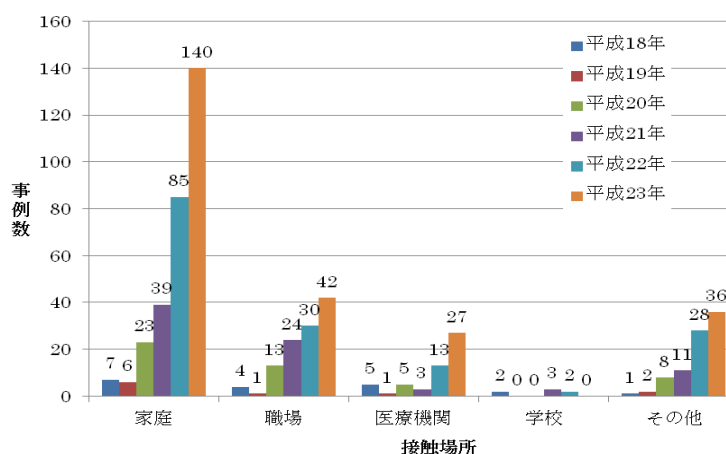


図 被験者と患者との接触場所別の事例数(平成18年-23年)

横須賀市では平成 20 年 4 月から結核接触者検診における QFT 検査を実施している。平成 23 年には 182 件の依頼があった。表に示すように、陽性 27 件(14.8%)、判定保留 16 件(8.8%)、陰性 139 件(76.4%)であった。陽性率(14.8%)は、平成 21 年(6.3%)、平成 22 年(9.9%)と比較して高くなっている。

(天野肇、長澤由美子、片倉孝子、古川美奈子、木村実千明)

表 結核接触者検診における QFT 検査結果 (平成 23 年)

検査件数	陽性		判定保留		陰性		判定不可	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
182	27	14.8	16	8.8	139	76.4	0	0

(6) 百日咳の検査

神奈川県(横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)の百日咳検査成績

神奈川県衛生研究所

神奈川県域の小児科病原体定点医療機関及び医療機関からの百日咳を疑う患者検体について、培養法、IS481-PCR 法及び PTp1/p2-PCR 法による検査を実施している。平成 17 年までは検出はなく、18 年に 3 検体、19 年に 49 検体でいずれも陽性検体はなかった。平成 20 年以降、病原体が分離培養及び PCR で検出されるようになった。平成 23 年は 80 検体を検査し、培養法で 6 検体(7.5%)、IS481-PCR 法で 7 検体(8.8%)が陽性であった。IS481-PCR 法での陽性検体は、PTp1/p2-PCR 法による毒素もすべて陽性であった。検体数は平成 20 年が 118 検体、21 年が 95 検体、22 年が 38 検体、23 年は 80 検体であった(図 1)。この 4 年間の陽性は 331 検体中 18 検体で、検出率は 5.4%であった。また、月別検出状況を見てみると季節に関係なく検出されていた(図 2)。

(大屋日登美、高橋智恵子、古屋由美子)

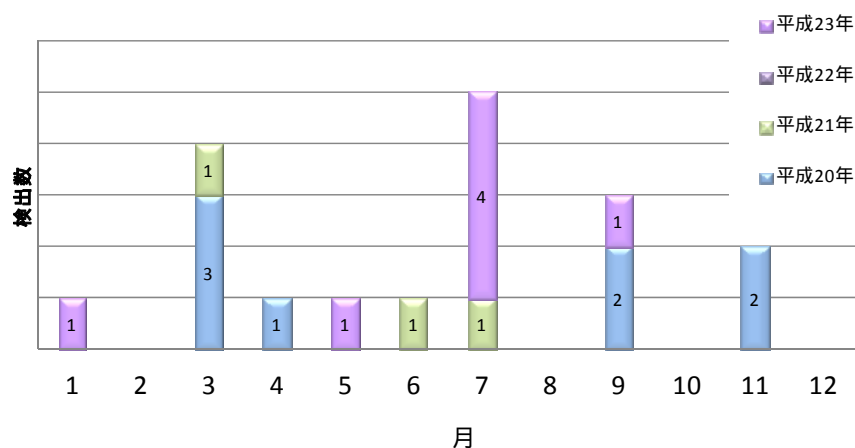


図 2 百日咳の累積月別検出数

(7) マイコプラズマ肺炎

神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の肺炎マイコプラズマの検出状況

神奈川県域の小児科病原体定点医療機関及び医療機関からのマイコプラズマ肺炎を疑う患者検体について、培養法及び PCR 法による検査を実施している。平成 23 年 1 月から 12 月の検出状況は、PCR で 62 検体中 37 件（59.7%）が検出された。このうち分離培養では陽性が 19 件、陰性が 9 件及び判定不可（雑菌増殖）が 9 件となった。今年は例年に比べ、病原体検出数も 10 月から多くなり患者報告数の動向と一致した。肺炎マイコプラズマは、小児科領域においては重要な呼吸器感染症の原因菌の一つである。マイコプラズマ肺炎感染症の第一選択薬剤であるマクロライド系薬剤に耐性を示す肺炎マイコプラズマが、2000 年以降国内外で検出されている。神奈川県においても 23S rRNA 遺伝子のドメイン 領域の 2063 番目のアデニン A がグアニン G に点変異している A2063G と A2064G が検出されている。なお、この変異を持つ耐性株は、14 員環マクロライドに高度耐性を示し、A2064G は 16 員環マクロライドにも高度耐性を示す特徴がある。マクロライド耐性肺炎マイコプラズマの検出状況は、平成 22 年までは約 3 割が耐性であったが、平成 23 年度分離 18 株のうち 13 株（72.2%）と増加していた。検出された耐性株は、A2063G が 13 株のうち 10 株（76.9%）で最も多く、A2064G が 1 株（7.7%）、A2063C が 1 株（7.7%）及び不明が 2 株（15.4%）であった。今後も病原体検出状況を継続して監視する必要がある。

（大屋日登美、高橋智恵子、古屋由美子）

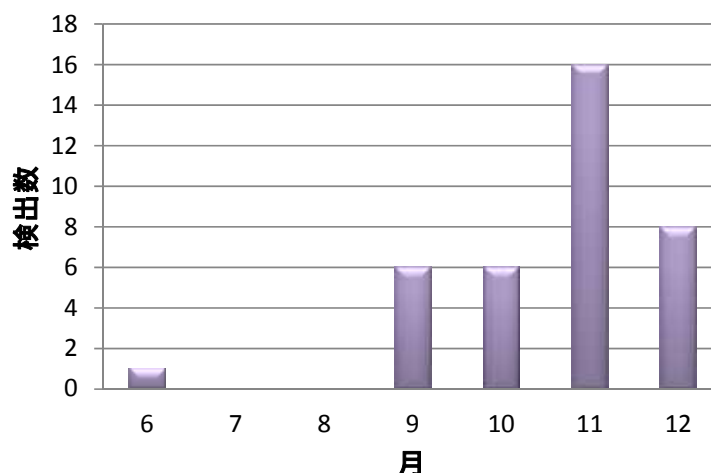


図 肺炎マイコプラズマ月別検出状況

3 その他の感染症

(1) つつが虫病

神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）で発生したつつが虫病

神奈川県衛生研究所

神奈川県の患者発生数の推移は、全国の患者発生数とほぼ同じ傾向が見られ、平成 2 年に 112 名の患者が報告され、その後、減少傾向を示すものの、平成 10 年より増加傾向に転じ平成 12 年に 42 名が報告された後、平成 13 年は 7 名、14 年には 4 名と減少した。15 年からは年間 10 名から 25 名程度の患者数で推移し、平成 23 年の患者発生数は 24 名と 22 年より増加した（図 1）

つつが虫病患者発生を季節別にみると、毎年秋期（9～11 月）に患者が多く、平成 23 年も 10 月 14 名、11 月 9 名、12 月 1 名（計 24 名）であり、秋期に大部分の患者が発生した。本年に県内で感染が見

られた株は Kawasaki 及び Kuroki の 2 種類であり、それぞれ 17 例（70.8%）、7 例（29.1%）であり大部分が Kawasaki 株による感染であった。

つつが虫病患者より聞き取り調査で得られた感染推定地域は、例年、足柄上郡山北町、松田町及び南足柄市の 3 地区に集中しており、本年は感染推定地域が不明の 2 例を除いた 22 例は、例年の 3 地区に加え、秦野市、小田原市、足柄上郡松田町、愛甲郡愛川町の計 7 地域に広がり、昨年より広い地域での感染が疑われた。平成 23 年のつつが虫病感染時の行動も、前年と同様に山地や平地の畑、田圃などでの農作業が多く、日常生活での感染の機会が多いことが判明した。

（鈴木理恵子、金城恵子、片山 丘、齋藤隆行、古屋由美子）

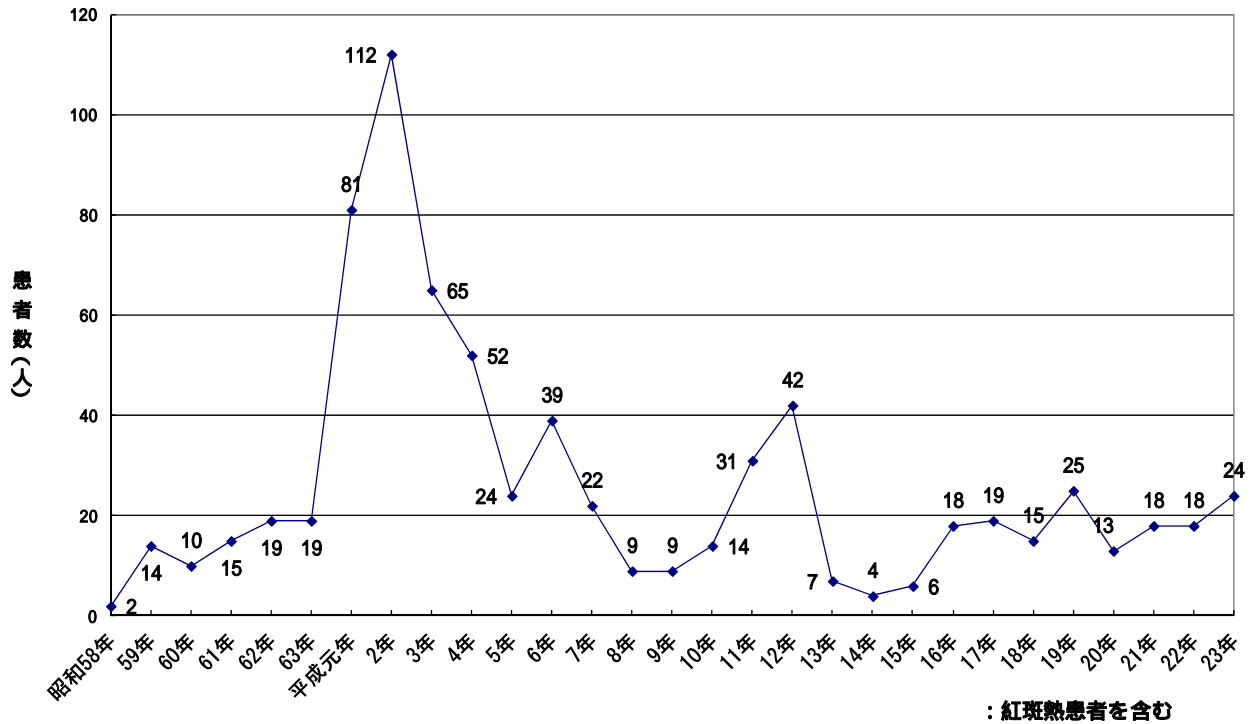


図 県域におけるつつが虫病患者発生状況

< 予防接種実施状況 >

参考資料

予防接種法に基づく定期予防接種は、感染症の発生及びまん延の予防等、公衆衛生の向上を目的に、実施主体である市町村により行われている。

* 「地域保健・健康増進事業報告（地域保健編）」（厚生労働省）のデータを修正・加工して作成

		平成21年度			平成22年度		
		対象者数 (A)	接種者数 (B)	接種率 (B)/(A)	対象者数 (A)	接種者数 (B)	接種率 (B)/(A)
ジフテリア 百日せき 破傷風	1期初回 1回	81,439	80,541	98.9	81,641	80,605	98.7%
	1期初回 2回	81,509	80,563	98.8	81,781	79,490	97.2%
	1期初回 3回	81,811	80,156	98.0	81,985	78,611	95.9%
	1期追加	82,200	78,200	95.1	83,338	81,022	97.2%
	2期	85,491	57,223	66.9	84,778	62,001	73.1%
ポリオ	1回	86,654	76,819	88.7	84,689	76,841	90.7%
	2回	86,423	70,775	81.9	85,434	77,203	90.4%
麻しん 風しん	第1期	82,010	75,452	92.0	81,004	76,298	94.2%
	第2期	80,519	72,426	89.9	80,017	70,526	88.1%
	第3期	80,970	61,236	75.6	82,513	66,394	80.5%
	第4期	79,683	46,701	58.6	80,733	50,548	62.6%
日本脳炎	1期初回 1回	85,923	68,813	80.1	98,270	134,288	136.7%
	1期初回 2回	85,930	61,097	71.1	98,566	130,989	132.9%
	1期追加	85,536	14,282	16.7	94,655	45,160	47.7%
	2期	87,712	11,216	12.8	88,426	16,701	18.9%
インフルエンザ		1,795,192	714,238	39.8%	1,853,793	827,874	44.7%
内 訳	65歳以上	1,775,121	712,731	40.2%	1,830,025	825,627	45.1%
	予防接種法施行令で定め る60歳以上65歳未満の 者	20,071	1,507	7.5%	23,768	2,251	9.5%

(健康危機管理課)

< 感染症関係機関 >

機 関 名	所 在 地	電 話
横浜市健康福祉局健康安全部健康安全課	横浜市中区港町 1-1	045 (671) 2463
横浜市鶴見福祉保健センター	横浜市鶴見区鶴見中央 3-20-1	045 (510) 1827
横浜市神奈川福祉保健センター	横浜市神奈川区広台太田町 3-8	045 (411) 7138
横浜市西福祉保健センター	横浜市西区中央 1-5-10	045 (320) 8439
横浜市中福祉保健センター	横浜市中区日本大通り 35	045 (224) 8332
横浜市南福祉保健センター	横浜市南区花之木町 3-48-1	045 (743) 8241
横浜市港南福祉保健センター	横浜市港南区港南中央通 10-1	045 (847) 8436
横浜市保土ヶ谷福祉保健センター	横浜市保土ヶ谷区川辺町 2-9	045 (334) 6344
横浜市旭福祉保健センター	横浜市旭区鶴ヶ峰 1-4-12	045 (954) 6146
横浜市磯子区福祉保健センター	横浜市磯子区磯子 3-5-1	045 (750) 2444
横浜市金沢福祉保健センター	横浜市金沢区泥亀 2-9-1	045 (788) 7840
横浜市港北区福祉保健センター	横浜市港北区大豆戸町 26-1	045 (540) 2362
横浜市緑福祉保健センター	横浜市緑区寺山町 118	045 (930) 2357
横浜市青葉福祉保健センター	横浜市青葉区市ヶ尾町 31-4	045 (978) 2438
横浜市都筑福祉保健センター	横浜市都筑区茅ヶ崎中央 32-1	045 (948) 2350
横浜市戸塚福祉保健センター	横浜市戸塚区戸塚町 157-3	045 (866) 8426
横浜市栄福祉保健センター	横浜市栄区桂町 303-19	045 (894) 6964
横浜市泉福祉保健センター	横浜市和泉町 4636-2	045 (800) 2444
横浜市瀬谷福祉保健センター	横浜市瀬谷区二ツ橋町 190	045 (367) 5744
横浜市衛生研究所	横浜市磯子区滝頭 1-2-17	045 (754) 9800
川崎市健康福祉局保健医療部疾病対策課	川崎市川崎区宮本町 1	044 (200) 2441
川崎区役所保健福祉センター	川崎市川崎区東田町 8	044 (201) 3223
幸区役所保健福祉センター	川崎市幸区戸手本町 1-11-1	044 (556) 6681
中原区役所保健福祉センター	川崎市中原区小杉町 3-245	044 (744) 3271
高津区役所保健福祉センター	川崎市高津区下作延 2-8-1	044 (861) 3321
宮前区役所保健福祉センター	川崎市宮前区宮前平 2-20-5	044 (856) 3270
多摩区役所保健福祉センター	川崎市多摩区登戸 1775-1	044 (935) 3306
麻生区役所保健福祉センター	川崎市麻生区万福寺 1-5-1	044 (965) 5163
川崎市衛生研究所	川崎市川崎区大島 5-13-10	044 (244) 4985
相模原市保健所	相模原市中央区富士見 6-1-1	042 (754) 1111
相模原市衛生試験所	相模原市中央区富士見 1-3-41	042 (769) 8348
横須賀市保健所	横須賀市西逸見町 1-38-11	046 (822) 4300
横須賀市健康安全科学センター	横須賀市日の出町 2-12	046 (822) 4057
藤沢市保健所	藤沢市鵜沼 2131-1	0466 (50) 3592

機 関 名	所 在 地	電 話
神奈川県保健福祉局保健医療部健康危機管理課	横浜市中区日本大通り 1	045 (210) 4793
平塚保健福祉事務所	平塚市豊原町 6-21	0463 (32) 0130
鎌倉保健福祉事務所	鎌倉市由比ガ浜 2-16-13	0467 (24) 3900
茅ヶ崎保健福祉事務所	茅ヶ崎市茅ヶ崎 1-8-7	0467 (85) 1171
大和保健福祉事務所	大和市中央 1-5-26	046 (261) 2948
小田原保健福祉事務所	小田原市荻窪 350-1	0465 (32) 8000
三崎保健福祉事務所	三浦市三崎町六合 32	046 (882) 6811
秦野保健福祉事務所	秦野市首屋 2-9-9	0463 (82) 1428
厚木保健福祉事務所	厚木市水引 2-3-1	046 (224) 1111
足柄上保健福祉事務所	足柄上郡開成町吉田島 2489-2	0465 (83) 5111
神奈川県衛生研究所	茅ヶ崎市下町屋 1-3-1	0467 (83) 4400
横浜検疫所	横浜市中区海岸通 1-1	045 (201) 4458
東京検疫所川崎検疫所支所	川崎市川崎区東扇島 6-10	044 (277) 1856
横浜検疫所横須賀・三浦出張所	横須賀市田浦港無番地	045 (201) 4456
輸入食品・検疫検査センター	横浜市金沢区長浜 107-8	045 (701) 9502
横浜市立市民病院	横浜市保土ヶ谷区岡沢町 56	045 (331) 1961
川崎市立川崎病院	川崎市川崎市新川通 12-1	044 (233) 5521
横須賀市立市民病院	横須賀市長坂 1-3-2	046 (856) 3136
藤沢市民病院	藤沢市藤沢 2-6-1	0466 (25) 3111
平塚市民病院	平塚市南原 1-19-1	0463 (32) 0015
相模原協同病院	相模原市緑区橋本 2-8-18	046 (722) 4291
厚木市立病院	厚木市水引 1-16-36	046 (221) 1570
神奈川県立足柄上病院	足柄上郡松田町松田惣領 866-1	0465 (83) 0351



神奈川県衛生研究所

茅ヶ崎市下町屋 1 3 1

〒253-0087 電話 (0467) 83-4400 (代表)